

講義科目 : 英語 I	単位数 : 2
マークシート略 : [英語 I]	学習形態 : 選択必修科目
担当 : 野田 明	

講義の内容・方法および到達目標

- ・現代英語で書かれた論説やストーリーを題材として使用します。
- ・主にReading力を伸ばすことに主眼を置きます。高校までに学習した文法事項、構文などを確認しつつ、語彙力の強化、正確に読む力の強化を図ります。
- ・授業は演習方式で行うので、決められた範囲については必ず予習をして授業に臨んでください。
- ・授業中に辞書を引くことがあるので、各自で用意してください。

授業計画

第1回	オリエンテーション	第16回	Unit 7 国産ジェット機
第2回	Unit 1 「美しい」ビル解体	第17回	Unit 7 国産ジェット機
第3回	Unit 1 「美しい」ビル解体	第18回	Unit 8 日本の治水事業
第4回	Unit 2 エボラ出血熱に挑む	第19回	Unit 8 日本の治水事業
第5回	Unit 2 エボラ出血熱に挑む	第20回	Unit 9 六本木ヒルズのドア
第6回	Unit 3 下町ロケット	第21回	Unit 9 六本木ヒルズのドア
第7回	Unit 3 下町ロケット	第22回	Unit 10 東洋ゴムの不正
第8回	Unit 4 ドローンの使用	第23回	Unit 10 東洋ゴムの不正
第9回	Unit 4 ドローンの使用	第24回	Unit 11 科学における責任
第10回	Unit 5 東電のトラブル隠し	第25回	Unit 11 科学における責任
第11回	Unit 5 東電のトラブル隠し	第26回	Unit 12 カブトガニの保護
第12回	Unit 6 人工知能が書く小説	第27回	Unit 12 カブトガニの保護
第13回	Unit 6 人工知能が書く小説	第28回	総合演習
第14回	前期のまとめ	第29回	後期のまとめ
第15回	まとめと確認（筆記試験）	第30回	まとめと確認（筆記試験）

- ・受講生の学習進捗度などにより、授業の進度は随時調整します。

教材・テキスト・参考文献等

- ・『リーディング・レイディアスー科学技術の多様な側面を考える』
(三修社)

成績評価方法

- ・予習と授業での発表、取り組みをおおよそ3割、前期・後期各最終回に行う筆記試験の成績をおおよそ7割として評価します。

その他

- ・授業中の私語、携帯電話等通信機器の使用は厳禁とします。
- ・必要に応じて基礎的な文法事項も確認しながら進みますが、高校1年生程度の学習内容は必要になるので、その点留意して受講してください。

講義科目 : 英語 I	単位数 : 2
マークシート略 : [英語 I]	学習形態 : 選択必修科目
担当 : 武田 治美	

講義の内容・方法および到達目標

若い世代に関心のある最新的话题を扱ったテキストを読む。リーディングから初め、テキストの内容をグローバルに把握できる読解力を養う。各章に設けられた練習問題で理解度を確認する。さらに内容に基づく自分自身の考えをスピーキングやライティングによって英語で表現する能力を身につける事を目標にする。

今までの英語学習の基礎の上に、「クリティカル・シンキング」を取り入れた、オールラウンドな英語力向上を目指している。

授業計画

授業では、全受講生に少なくとも一度は発言の機会を与える。

必要に応じて、関連教材のプリントを配布しテキストを補充する。

常に受講生の理解度に考慮し、授業を進行していく。

	前期		後期
第1回	オリエンテーション	第16回	第11章 Kawaii 可愛い
第2回	第1章 Physical Fitness フィットネス	第17回	第12章 Same-Sex Marriage 同性結婚
第3回	第2章 Blood Types 血液型	第18回	第13章 Japan Dresses Casual 日本のカジュアルな服装
第4回	第3章 Dreams 夢	第19回	第14章 World Happiness この世の幸せ
第5回	1章から3章までの復習	第20回	11章から14章までの復習 小テスト
第6回	第4章 Speed Dating お見合いパーティー	第21回	第15章 The Right to Die 死ぬ権利
第7回	第5章 Pets in Japan 日本のペット	第22回	第16章 Pet Cloning ペットのクローニング
第8回	第6章 Stress ストレス	第23回	第17章 Salt, Sugar, Fat 塩分、糖分、脂肪分
第9回	4章から6章までの復習 小テスト	第24回	第18章 Artificial Insemination 人工授精
第10回	第7章 Fast Food: Super Size Me ファーストフード「スーパーサイズ・ミー」	第25回	15章から18章までの復習
第11回	第8章 Shopping Trends ショッピングの流行	第26回	第19章 Smoking 喫煙
第12回	第9章 Women and Work 女性と職場	第27回	第20章 Photoshop Advertising フットショップによる修正広告
第13回	第10章 The Internet インターネット	第28回	第21章 Are Men Necessary? 男性は必要?
第14回	前期学習内容のまとめ	第29回	後期学習内容のまとめ
第15回	テスト	第30回	テスト

教材・テキスト

Life Topics <Advanced> 南雲堂

成績評価方法

- ・ 毎回出席をとる。
- ・ 前期最終授業時と後期最終授業時に試験を行う。
全授業回数の3分の2以上の出席がない場合、評価の対象外とする。
- ・ 成績は試験（60%）、課題提出（20%）、出席（20%）で評価する。

講義科目 : 英語 I	単位数 : 2
マークシート略 : [英語 I]	学習形態 : 選択必修科目
担当 : 林 姿穂	実務経験 : 有

講義の内容・方法および到達目標

- ・ 国外のインターネットに掲載された様々なニュース15項目をまとめたテキストを通年で2冊読む。メディア英語に慣れ、情報の要点を即座に把握できる読解力・速読力を養う。
- ・ 各章にはリーディング課題だけでなく、要約文の穴埋め、短い英文内容の理解を問う問題も用意されている。また自宅学習のためのeラーニングのサイトにも一定期間自由にアクセスできるので、日ごろから英語学習の習慣をつけていくことを目標とする。

授業計画

- ・ 1つの章を1回の授業で読み終える予定。ただし、受講生の学習の進捗度などによって、授業進行の速度は随時調整する。

第1回	オリエンテーション	第16回	Unit 1 Kimchi
2回	Unit 1 A Burger	17回	Unit 2 Ginkgo Biloba
3回	Unit 2 Hold Me?	18回	Unit 3 Our Best Friends
4回	Unit 3 Spices	19回	Unit 4 Gaming Online
5回	Unit 4 Making Peace	20回	Unit 5 China
6回	Unit 5 Glaciers Come	21回	Unit 6 More Salt
7回	中間テスト Unit13-15	22回	中間テスト Unit 14-15
8回	Unit 6 Picking Up	23回	Unit 7 Homes
9回	Unit 7 Space Travel	24回	Unit 8 Exoskeleton
10回	Unit 8 A Talent	25回	Unit 9 Health
11回	Unit 9 Robots	26回	Unit 10 E-books
12回	Unit 10 Video Games	27回	Unit 11 Health
13回	Unit 11 The Internet	28回	Unit 12 Skateboards
14回	Unit 12 Social Networking	29回	Unit 13 High-tech Dreams
15回	前期学習内容のまとめ	30回	後期学習内容のまとめ

教材・テキスト・参考文献等

『VOA New Clip Collection』（前期）『VOA News Plus』（後期）（三修社）

成績評価方法

- ・ 前期の7回目、15回目授業時と後期の7回目（22回）最終授業時（30回目）に授業内で30分程度の試験を行う。全授業回数のおよそ3分の2以上の出席がない場合や合計4回（前期2回、後期2回）の試験を受験していない場合、評価の対象外とする。試験をやむを得ず欠席する場合は公的な証明書（診断書や遅延届）を後日提示すること。その上で追加課題などの措置を取る。
- ・ 成績は出席状況や課題の提出状況、学習態度などから総合的に判断する。評価基準の目安は、試験：平常点＝6：4とする。毎回出席を取る。

実務経験

英会話学校で英会話および英語の資格対策の講師として勤務していました。実務経験を活かし、授業では実践的な英語力の養成に努めます。

講義科目 : 英語 I	単位数 : 2
マークシート略 : [英語 I]	学習形態 : 選択必修科目
担当 : 平川 和	

講義の内容・方法および到達目標

Reading力の向上をめざす。英語には大きく分けて4技能（Reading、Listening、Writing、Speaking）があるが、まずReading力の基礎がなければ、他の3技能を伸ばすことは難しい。具体的な到達目標は以下の4つになる。①語彙力の強化・重要文法事項の習得。②構造が複雑な文でも正確に和訳できるようになる。③比較的長い英語の文章を読みことに慣れ、その内容を正確に理解できるようになる。④様々なテーマの英文エッセーを読み、教養を身につける。

授業計画

第1回	イントロダクション	第16回	イントロダクション
第2回	Unit1: Cross-Cultural	第17回	Unit5: Fashion
第3回	Unit1: Cross-Cultural	第18回	Unit5: Fashion
第4回	Unit1: Cross-Cultural	第19回	Unit5: Fashion
第5回	Unit1: Cross-Cultural	第20回	Unit7: Art
第6回	Unit1: Cross-Cultural	第21回	Unit7: Art
第7回	Unit2: Foods	第22回	Unit7: Art
第8回	Unit2: Foods	第23回	Unit14: Legal Issues
第9回	Unit2: Foods	第24回	Unit14: Legal Issues
第10回	Unit2: Foods	第25回	Unit14: Legal Issues
第11回	Unit4: Sports	第26回	Unit15: Technology
第12回	Unit4: Sports	第27回	Unit15: Technology
第13回	Unit4: Sports	第28回	Unit15: Technology
第14回	Unit4: Sports	第29回	Unit15: Technology
第15回	まとめ（筆記試験）	第30回	まとめ（筆記試験）

教材・テキスト・参考文献等

- ・ Ambitions: Pre-intermediate（静哲人他編著、金星堂）

成績評価方法

- ・ 「出席」「授業中に実施する小テスト」「授業中に実施するグループワーク」（合わせて50%）、まとめの筆記試験（50%）を基準に評価する。
- ・ 提出物や小テスト、まとめの試験の形式についてはその都度説明するが、いずれもテキストの内容とレベルに基づいたものである。
- ・ 授業に取り組む姿勢も成績評価に含む。
- ・ 欠席が5回を越えた場合は評価の対象外とする。

その他

- ・ 辞書は各自持参すること。授業中の携帯電話その他通信機器の使用は禁じる。
- ・ 受講生の理解度によっては上記授業計画の一部を変更することもある。

講義科目 :独語 I	単位数 :2
マークシート略 :〔独語 I〕	学習形態 :選択必修科目
担当 :竹添 敦子	

講義の内容・方法および到達目標

- ・ 音声を聴いてドイツ語の発音に慣れ、映像を観てドイツ文化の一端に触れます。
- ・ 平易な初級文法の範囲内で会話練習と反復繰り返しに徹し、確実な基礎力をつけます。
- ・ ドイツ語はローマ字読みができれば発音できます。学び始めが楽なことばです。そこで、発音をきちんとできるようになること、ごく初歩のドイツ語コミュニケーションができるようになることが目標です。

授業計画

第 1回 ドイツ語圏の話・発音 (挨拶)	第16回 前期の復習・確認 (ドイツあれこれ)
第 2回 ドイツ語の綴り (発音)	第17回 ドイツの旅 (前置詞の格支配)
第 3回 自己紹介 (動詞の人称変化)	第18回 応用練習 (前置詞と定冠詞の融合形)
第 4回 応用練習 (動詞の位置・語順)	第19回 ドイツの旅2 (話法の助動詞)
第 5回 2種類の「あなた」 (使い分け)	第20回 応用練習 (枠構造・manの使い方)
第 6回 質問と答え (職業や立場)	第21回 比べてみよう (形容詞)
第 7回 応用練習 (決定疑問文・定冠詞)	第22回 応用練習 (分離動詞)
第 8回 中性って何? (名詞の性と格)	第23回 食べる・飲む (非分離動詞)
第 9回 応用練習 (不定冠詞)	第24回 週末の予定 (動詞の三基本形)
第10回 趣味は何? (動詞の人称変化2)	第25回 ドイツの映画 (さまざまな過去分詞)
第11回 応用練習 (人称代名詞)	第26回 応用練習 (現在完了形)
第12回 天気・気分 (慣用表現)	第27回 ドイツのクリスマス (祝祭表現)
第13回 買い物 (複数形)	第28回 独語Ⅱへの橋渡し (再帰表現)
第14回 応用練習 (否定表現)	第29回 独語Ⅱへの橋渡し (過去形)
第15回 まとめと確認 (試験)	第30回 まとめと確認 (試験)

教材・テキスト・参考文献等

- ・ テキスト 小野寿美子・他『アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語』(朝日出版社)
- ・ 辞書 講義冒頭で説明します。ただし、新たに購入する場合は『新アクセス独和辞典』(三修社)が手ごろです。電子辞書は初学者には不向きです。

成績評価方法

- ・ 参加型授業のため出席を重視します。年間10回以上欠席した場合、評価の対象外とします。
- ・ 前期、後期の試験(50%)、小テスト等受講状況(50%)を基準に判断します。

講義科目 : 独語 I	単位数 : 2
マークシート略 : [独語 I]	学習形態 : 選択必修科目
担当 : 今本 幸平	

講義の内容・方法および到達目標

初めてドイツ語を学習する人のための授業です。

まず教員による文法の説明、その後に各自で練習問題を解き、答えを口頭で発表（あるいは黒板に板書）してもらいます。音読の練習も毎回行います。講義の方法は一般的な語学の授業とほぼ同様の形式ですが、講義を聴くだけでなく、「説明に基づいて自分でやってみる」という受講態度が求められます。

アルファベットや単語の読み方（発音）から入り、簡単な文を理解して自分でも作れるようになり、ドイツ語検定試験の5級から4級程度（中学1、2年の英語と同程度）のドイツ語が理解できるようになることを目指します。

授業計画（下記は予定です。実際の進度は受講生の理解度に応じて調整します）

第1回 ガイダンス、アルファベット	第16回 前期の復習
第2回 アルファベット、単語の読み方	第17回 第5課 複数形
第3回 単語の読み方（挨拶、数字など）	第18回 第5課 人称代名詞
第4回 第1課 文の作り方（動詞）	第19回 第5課 練習問題
第5回 第1課 重要な動詞、語順の原則	第20回 第6課 前置詞①
第6回 第1課 練習問題	第21回 第6課 前置詞②
第7回 第2課 名詞の性（冠詞）	第22回 第6課 練習問題
第8回 第2課 名詞の格	第23回 第7課 形容詞の使い方
第9回 第2課 練習問題	第24回 第7課 練習問題
第10回 第3課 不規則動詞	第25回 第8課 助動詞、未来形
第11回 第3課 命令形、練習問題	第26回 第8課 練習問題
第12回 第4課 定冠詞の仲間	第27回 第9課 分離動詞
第13回 第4課 不定冠詞の仲間	第28回 第9課 文のつなぎ方
第14回 第4課 練習問題	第29回 第9課 練習問題
第15回 前期まとめ、テスト	第30回 後期まとめ、テスト

教材・テキスト・参考文献等

- ・『PANORAMA Deutsch（パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール）』白水社
- ・独和辞典（初回の授業で紹介します）
- *教科書と辞書は両方とも必ず毎回持参すること。

成績評価方法

原則的には前、後期末に行うテストの平均点で評価します。授業中に理解度確認のための小テストを行う場合がありますが、その点数は参考程度とします。前後期とも10回以上の出席がなければ成績評価の対象外とします（遅刻・早退は0.5回の欠席とみなします。出席状況による減点や加点は行いません）。欠席、遅刻等の回数は必ず各自で把握しておいてください。

その他

週一度の授業だけでは記憶が定着しにくいので、こまめに予習と復習をしてください。単語の意味を辞書で調べる、授業でやった個所の例文を教科書付属のCDで聴き、暗唱してみるなど、自分でできることはたくさんあります。

講義科目 : 仏語 I	単位数 : 2
マークシート略 : [仏語 I]	学習形態 : 選択必修科目
担当 : 井出 勉	

講義の内容・方法および到達目標

- ・フランス語の綴り字と発音の関係を学び、きちんと発音できるようになることを目指します。
- ・フランス語の基本的な文法と簡単な日常会話を覚える。
- ・実用フランス語技能検定試験（仏検）5級を習得できるレベルまでの到達も目指します。

授業計画

第1回	フランス紹介・発音	第16回	数字・年齢
第2回	綴り字の読み方・挨拶	第17回	部分冠詞
第3回	発音練習・挨拶	第18回	食べ物・飲み物
第4回	挨拶・自己紹介の仕方	第19回	カフェでの注文の仕方
第5回	名詞の性と数・不定冠詞	第20回	～に行く・～から来た
第6回	形容詞①	第21回	所有形容詞・強勢形
第7回	形容詞②・定冠詞	第22回	比較級
第8回	基本動詞の活用	第23回	命令形
第9回	3通りの疑問文の作り方	第24回	曜日と日付
第10回	指示代名詞・～が好き	第25回	天候・時刻
第11回	否定文	第26回	近接未来・近接過去
第12回	動詞～を持つとその慣用表現	第27回	過去分詞の作り方
第13回	疑問形容詞	第28回	複合過去①
第14回	動詞～をするとその慣用表現	第29回	複合過去②
第15回	まとめと確認：試験	第30回	まとめと確認：試験

教材・テキスト・参考文献等

テキスト：藤田裕二『パリのクール・ジャパン』朝日出版社
 辞書：講義冒頭で紹介
 参考文献については講義中に紹介

成績評価方法

平常点（積極的な学習態度を評価する）30%、期末試験70%
 年間10回以上欠席した場合、評価の対象外とします。

講義科目 : 中国語 I	単位数 : 2
マークシート略 : [中国語 I]	学習形態 : 選択必修科目
担当 : 花尻 奈緒子	

講義の内容・方法および到達目標

正しい中国語の発音方法を習得するほか、基礎的な文法・単語を学び、簡単な文を作文し、かつ正しい字で表記できるようになる。また、単純な文を聞いて意味を理解できるようになる。

授業計画

第1回	ガイダンス	第16回	前期の復習
第2回	基礎発音 声調と母音	第17回	名詞句「～する○○」
第3回	基礎発音 鼻韻母と子音	第18回	動詞述語文
第4回	基礎発音 ピンインの規則	第19回	動詞の重ね形・数字②
第5回	基礎発音 軽声	第20回	選択疑問文
第6回	基礎発音 声調の変化・数字①	第21回	疑問詞疑問文
第7回	人称・指示代名詞	第22回	完了形「～しました」
第8回	名詞句「～の○○」①	第23回	「有」と金額の言い方
第9回	名詞句「～の○○」②	第24回	二重目的語をとる動詞
第10回	是述語文「～は…です」	第25回	年月日・曜日・時刻
第11回	程度を表す副詞	第26回	名詞述語文・時間状語
第12回	名詞句「どんな○○」	第27回	助数詞
第13回	形容詞述語文①	第28回	方位詞・存在文
第14回	形容詞述語文②	第29回	前置詞・連動文
第15回	主術述語文	第30回	復習と総括

教材・テキスト・参考文献等

「パイロットテキスト・中国語 I 基礎」

成績評価方法

出席50%、前・後期の期末試験50%

その他

予習復習を欠かさずに行うこと。

講義科目 :生活科学概論	単位数 :2
マークシート略 :〔生活科学〕	学習形態 :必修科目
担当 :生活科学科教員	学科共通

講義の内容・方法および到達目標

生活科学とは、家政学から出発して生活全体を科学的に研究する学問であり、その対象は幅広い学問領域にわたるものですが、ヒトが社会のなかで生きていくうちに出会うさまざまな課題に対して、生活者の立場から総合的にとらえることを基盤としています。この科目が、担当教員がそれぞれの専門分野について、生活科学の観点から概論講義を行うことによって、本学科のめざす生活科学を理解することを目的にしています。

授業計画

1. 長友 : オリエンテーションと図書館・情報処理実習室の利用説明 1
2. 笠 : 図書館・情報処理実習室の利用説明 2

(第一部: ‘いのち’ と ‘くらし’ を科学する)

3. 南 : ‘生活の科学’ とは何か
4. 高橋 : (テーマ未定)
5. 武田 : 社会福祉の援助 … 相談の専門家とは?
6. 北村 : 障害をもって生活するとは
7. 木下 : 居心地の良い生活空間
8. 小野寺 : 住民参加とコミュニティ

(第二部: ‘食’ と ‘健康’ を科学する)

9. 相川 : 学生の運動栄養学～脳、骨、筋、脂肪、欲～
10. 山田 : 糖尿病と栄養と食事と運動について
11. 飯田 : 食卓のたんぱく質科学
12. 駒田 : 健康寿命と食生活
13. 阿部 : ビタミンに関する栄養学
14. 杉野 : ライフステージにおける食と健康
15. 橋本 : 食品の安全性

教材・テキスト・参考文献等

中根芳一著「私たちの生活科学」(理工学社) などがあるほか、担当教員からそれぞれ参考文献が紹介される。

成績評価方法

6回以上欠席すると、成績評価対象の資格がなくなる。

教員によってレポートや小テストなどが課される。それぞれの教員からの評価を総合して判定する。

講義科目 : 体育講義	単位数 : 2
マークシート略 : [体育講義]	学習形態 : 選択科目
担当 : 大西 範和	

講義の内容・方法および到達目標

健康が人生をよりよく生きるための基盤であることは誰もが知っており、人々の健康志向が高まっています。一方、健康や運動に関する情報は溢れていて、適切に選び、役立てることは難しくなっています。本科目では、特に運動についての生理学的な知識や考え方をグループで様々な課題について話し合いながら学び、適切な情報をもとに健康づくりについて考え、実践するための基本的な力を育てます。到達目標は以下の3点とします。

1. 健康づくりや運動に関する生理学的な用語や記述を理解できる。
2. 健康づくりや運動に関する生理学的な考え方の概要を説明できる。
3. グループでの話し合いにおいて、課題解決のために協調することができる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション、体力と健康の関係、健康づくりの施策
- 第2回 筋肉の構造と収縮の仕組み
- 第3回 筋力を左右する要因と筋力トレーニング
- 第4回 筋肉収縮のためのエネルギー
- 第5回 運動と呼吸、換気の仕組みと呼吸の調節
- 第6回 運動と呼吸、酸素の運搬
- 第7回 運動と循環、心臓や血管の構造と機能
- 第8回 運動と循環、循環器系の調節機構
- 第9回 運動と水分の調節、腎臓による水分調節と飲水
- 第10回 運動と熱中症
- 第11回 運動時の体温調節
- 第12回 運動と栄養、糖質の消化吸収とその働き
- 第13回 運動と栄養、タンパク質の消化吸収とその働き
- 第14回 サルコペニアと運動、栄養
- 第15回 テスト

教材・テキスト・参考文献等

朝山正己・彼末一之・三木健寿編著 「イラスト運動生理学」東京教学社

成績評価方法

テストの成績で評価する(100%)。

その他

グループでの意見交換は、使える知識として学ぶための重要な鍵です。自信がなくても積極的に話し、聞く側は話し手の話す努力を讃え、尊重しましょう。

講義科目	: 体育実技	単位数	: 1
マークシート略	: [体育実技]	学習形態	: 選択科目
担当	: 松尾 浩世	実務経験	: 有

【講義の内容・方法および到達目標】

日本では超高齢化が社会問題となっており、健康寿命を長くするために様々な取り組みがなされています。健康的な生活を一生を送るために、運動は大事です。生涯スポーツでは、健康づくりのための運動、生活の楽しみとしての運動を実践することを目標とします。スポーツから各種目のスキルだけでなく、マナー・ルールを身に着け、コミュニケーション能力・協調性・課題克服力などを学ぶこと。

【授業計画】

第1回	体力レベル確認、基本的なトレーニング
第2回	卓球（1）基本的なストローク
第3回	卓球（2）ダブルスのルール
第4回	卓球（3）総当たり戦
第5回	卓球（3）総当たり戦
第6回	バドミントン（1）基本的なストローク
第7回	バドミントン（2）ダブルスのルール
第8回	バドミントン（3）リーグ戦
第9回	バドミントン（4）リーグ戦
第10回	バドミントン（4）リーグ戦
第11回	バスケットボール 個人技能の獲得
第12回	バスケットボール 3on3
第13回	バスケットボール
第14回	バレーボール（1）個人技能の獲得
第15回	バレーボール（1）個人技能の獲得

【教材・テキスト・参考文献等】

必要な資料は授業で適宜配布します

【成績評価方法】

- ・出席態度（回数含む）30%（欠席3回で不可）。
- ・受講姿勢 50%
- ・スポーツへのマナー・ルールの理解、個人技能の向上度20%

【実務経験】

南山大学勤務、体育の講師経験約15年（テニス・卓球・バスケ・バレーボール）、公財）スポーツ医科学研究所（愛知県）研究員25年勤務、健康運動指導士、体育学修士の経験に基づいて講義を実施予定。

【その他】

- ・能動的に受講することが求められる授業です。積極性を欠いた態度の場合は減点あるいは不可となります。
- ・履修者数を30名程度とします。最後まで履修する意思を必要とします。
- ・実技にふさわしい服装（スポーツウェア、髪型、爪などを含む）とシューズを着用すること。
- ・授業計画に挙げた運動種目は受講者の人数や体力レベルに応じて適宜変更します。
- ・心身の問題や不安、またはその経歴がある場合は、必ず学生部に事前相談すること。そして受講することになった場合、授業担当者にその旨を伝えること

講義科目 : 生命科学	単位数 : 2
マークシート略 : [生命科学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 狩野 幹人	

講義の内容・方法および到達目標

- ・生命科学 (Life Science) は、21世紀の科学技術を担う重点分野の1つである。2003年、ヒトの遺伝子の解読が終了したが、「いのち」の仕組みの全てが解明されたわけではない。また、環境問題、生物の多様性等を考えるうえでも、生物学の知識が必要となる。本講義では、生物の基本構造である「細胞」と「細胞」内に存在する「分子」に焦点をあてる。
- ・「細胞」内の「分子」のうち、とくにタンパク質を中心とした機能・役割、細胞から多細胞生物個体への展開、細胞間の情報交換についても解説を加え、生物学の基本的な枠組みを理解することを目標とする。

授業計画

- 第1回 ガイダンス (科学、自然科学における生命科学)
- 第2回 細胞の構造
- 第3回 細胞の形質、機能
- 第4回 細胞の活動
- 第5回 タンパク質の役割
- 第6回 多細胞生物への展開 (1)
- 第7回 多細胞生物への展開 (2)
- 第8回 免疫システム (1)
- 第9回 免疫システム (2)
- 第10回 免疫システム (3)
- 第11回 細胞の再生と死
- 第12回 環境の認識、調節
- 第13回 生物の進化と多様性、生物多様性条約とは
- 第14回 生命科学と知的財産 (1)
- 第15回 生命科学と知的財産 (2)

教材・テキスト・参考文献等

- ・「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 (第3版)、和田勝、羊土社 (2015)」を教科書として用いる。また必要な補足資料を、講義の中で随時配布する。
- ・参考文献としては、
生命科学については「分子生物学講義中継、井出利憲、羊土社」シリーズが挙げられる。
知的財産については「産業財産権標準テキストー総合編ー、特許庁発行」や「産業財産権標準テキストー特許編ー、特許庁発行」等が挙げられる。
その他、参考文献については、講義の中で随時紹介する。

成績評価方法

- ・毎回出席をとる。出席率70%以上を評価の対象とする。
- ・出席率およびレポート (2回を予定) により評価する。

講義科目 : 自然と科学	単位数 : 2
マークシート略 : [自然科学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 松井 博和	

講義の内容・方法および到達目標

身近な生活の中で体験したり、利用したりする自然現象や科学技術を理解してもらう。その中で、いわゆる理系の人でも知らないようなことも織り交ぜ簡単な説明や実験器具をみてもらい理解してもらう。講義の進め方は、授業内に計算問題を主とするレポートを毎回実施し、主体的に問題理解に取り組めるようにする。また、ニュースなどで科学に関して取り上げられれば、適宜授業に取り込む。

授業計画

- 第1回 長さ、速さ、時間などの単位と定義について
- 第2回 天体（地球と月と太陽）について
- 第3回 天体（恒星と惑星）について
- 第4回 機械機構（車輪）について
- 第5回 電気（電流・電圧）について
- 第6回 電気（電力量と生活）について
- 第7回 音（周波数・音量・デシベル）について
- 第8回 音（音声）について
- 第9回 光と色について（物理的説明）
- 第10回 光と色について（科学的利用）
- 第11回 生命と遺伝について
- 第12回 人工知能について
- 第13回 私の研究紹介
- 第14回 天体（宇宙と科学）について
- 第15回 自然と科学について

教材・テキスト・参考文献等

教材・テキスト等は特になく、授業中に用いたプレゼン資料をネット上で取得できるようにする。

成績評価方法

毎回の授業中にレポートを書いてもらい 50 点満点の出席点とする（ただし、レポートを 7 回以上提出しない場合は成績を不可とする）。期末試験を 50 点満点とする。

出席点と期末試験の点数の合計 100 点を用いて成績評価をする。

講義科目 : 情報と科学	単位数 : 2
マークシート略 : [情報科学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 笠 浩一朗	

講義の内容・方法および到達目標

情報科学から生み出された技術により、人間の生活は大きく変化している。特に、コンピュータの出現は、人間の暮らしを劇変させた。コンピュータの歴史や仕組みを学び、日常的に利用している情報技術の中身を理解することで、情報技術を高度かつ的確に利用できるようになることを本講義の到達目標とする。

ITパスポート試験、及び、基本情報技術者試験対策となるように配慮する。

授業計画

- 第1回 コンピュータの歴史
- 第2回 コンピュータの構成
- 第3回 情報の表現1 (2進数)
- 第4回 情報の表現2 (16進数、文字コード)
- 第5回 論理回路
- 第6回 ネットワーク1 (LANとWAN、無線LAN)
- 第7回 ネットワーク2 (ネットワーク機器、TCP/IP)
- 第8回 ネットワーク3 (WWW、電子メール)
- 第9回 データベース
- 第10回 アルゴリズムとデータ構造1
- 第11回 アルゴリズムとデータ構造2
- 第12回 プログラミング演習1 (変数、データ型)
- 第13回 プログラミング演習2 (if文、for文、while文)
- 第14回 プログラミング演習3 (応用)
- 第15回 期末試験、まとめ

教材・テキスト・参考文献等

- ・教科書は使用しない予定
- ・適宜プリント等を配布

成績評価方法

- ・期末試験を実施する。50%程度成績に反映させる。
- ・小テストを毎回実施する。40%程度成績に反映させる。
- ・出席を取り、10%程度成績に反映させる。
- ・5回以上欠席した場合は、単位認定しない。

その他

小テストを毎回実施するので、小テストを通して講義時間外でも復習するように。

講義科目 : 情報と社会	単位数 : 2
マークシート略 : [情報社会]	学習形態 : 選択科目
担当 : 笠 浩一朗	

講義の内容・方法および到達目標

本講義は、現在の情報社会で求められる「情報に関する知識」と「情報倫理」を習得することを到達目標とする。また、以下の三つの内容で構成されている。

一つ目は、情報倫理・リテラシに関することである。近年、ITの発達により、社会の生活様式は大きく変化し、誰もが簡単に情報を取得・発信できる世の中になっている。その一方で、個人情報流出、ネット上での誹謗中傷・不法行為などの新たな問題が発生している。このような社会で、他人の権利を侵すことなく、互いが快適に過ごす方法を解説する。

二つ目は、言語処理技術に関することである。現在、インターネット上を中心に、多くの言語データが蓄積されており、それらのデータに対して、言語処理技術を活用することで、多くのサービスが提供され、人々に利用されている。講義では、言語処理技術を用いたシステムの仕組みを紹介する。

三つ目は、情報処理システムに関することである。情報処理システムの開発・管理の仕組みを紹介する。

授業計画

- 第1回 インターネット概論
- 第2回 ネットワーク利用におけるマナー
- 第3回 個人情報とプライバシー
- 第4回 電子商取引
- 第5回 知的財産権・メディアリテラシ
- 第6回 ネットワーク不法行為
- 第7回 情報技術とセキュリティ
- 第8回 情報倫理とリテラシ
- 第9回 言語処理技術（文字コード、形態素解析）
- 第10回 言語処理技術（構文解析、意味解析）
- 第11回 言語処理技術を用いたシステム（機械翻訳）
- 第12回 言語処理技術を用いたシステム（対話システム、情報検索）
- 第13回 システム開発とマネジメント
- 第14回 システム構成と故障対策
- 第15回 まとめ

教材・テキスト・参考文献等

- ・教科書：大島他「ケースで考える情報社会」【第2版】 三和書籍

成績評価方法

出席をとる。結果を10%程度成績評価に反映させる。ただし、出席率が著しく悪い場合（1/3程度以下）は評価対象外とし、単位を認定しない。

毎回、課題を課す予定。その結果を90%程度成績評価に反映させる。

講義科目 : 情報処理実習 I	単位数 : 1
マークシート略 : [情報実 I]	学習形態 : 選択科目
担当 : 森田 賢太	

講義の内容・方法および到達目標

現在、職場などでコンピュータを利用した書類作成が頻繁に行われている。この実習では、書類作成に頻繁に用いられるMicrosoft社の基本ソフト(Windows)およびオフィスソフト(Word, Excel)を対象として各種課題をこなすことで、コンピュータの基本操作を習得することをめざす。

授業計画

- 第1回 導入、コンピュータリテラシー
- 第2回 コンピュータの基本操作
- 第3回 Wordの基礎(1)
- 第4回 Wordの基礎(2)
- 第5回 Wordの基礎(3)
- 第6回 Wordの基礎(4)
- 第7回 演習 Wordのまとめ
- 第8回 Excelの基礎(1)
- 第9回 Excelの基礎(2)
- 第10回 Excelの基礎(3)
- 第11回 Excelの基礎(4)
- 第12回 演習 Excelのまとめ
- 第13回 資料を作る際の心構え(1)
- 第14回 資料を作る際の心構え(2)
- 第15回 総合演習

教材・テキスト・参考文献等

『実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応』 noa出版、2016
ISBN978-4-908434-17-4

成績評価方法

成績は、課題・演習(Wordのまとめ・Excelのまとめ・総合演習)の結果を総合して判定する。なお、課題・演習を期日までに提出しなかった回が、3回以上となった場合は成績評価の対象としない。配点の比率は、課題あわせて40点程度、演習はそれぞれ20点程度である。

その他

コンピュータの操作は、本を読んだだけでは修得できない。そのため、この授業では、実習に参加し課題をこなすことに評価の主眼がある。受講する場合は、この点に留意すること。

講義科目 : 情報処理実習 I	単位数 : 1
マークシート略 : [情報実 I]	学習形態 : 選択科目
担当 : 真田 耕輔	

講義の内容・方法および到達目標

現在、コンピュータの操作は必須技術であり、職場等ではコンピュータを利用した書類や資料作成が頻繁に行われている。この実習では、書類作成に頻繁に用いられるMicrosoft社の基本ソフト(Windows)およびオフィスソフト(Word, Excel, PowerPoint)を対象として各種課題をこなすことで、コンピュータの基本操作を習得することをめざす。

授業計画

第1回	導入、コンピュータリテラシー
2回	コンピュータの基本操作
3回	Wordの基礎(1): 基本操作
4回	Wordの基礎(2): 表の作成
5回	Wordの基礎(3): 図の挿入
6回	Wordの基礎(4): Wordを用いたレポート作成
7回	演習 Wordのまとめ
8回	Excelの基礎(1): 基本操作
9回	Excelの基礎(2): 関数の使い方
10回	Excelの基礎(3): 図の作成
11回	Excelの基礎(4): データベース
12回	演習 Excelのまとめ
13回	資料を作る際の心構え、Power Point実習
14回	Power Pointを用いたプレゼンテーション実習
15回	総合演習

教材・テキスト・参考文献等

『実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応』noa出版、2016
ISBN978-4-908434-17-4

成績評価方法

成績は、課題・演習(Wordのまとめ・Excelのまとめ・総合演習)の結果を総合して判定する。なお、課題・演習を期日までに提出しなかった回が、3回以上となった場合は成績評価の対象としない。配点の比率は、課題あわせて40点程度、演習はそれぞれ20点程度である。

その他

コンピュータの操作は、本を読んだだけでは取得できず、実際に自分で手を動かして慣れることが大事である。そのため、実習に参加し課題をこなすことに評価の主眼がある。受講する場合はこの点に留意すること。

講義科目	: 情報処理実習 I	単位数	: 1
マーケット略	: [情報実 I]	学習形態	: 選択科目
担当	: 高瀬 治彦		

講義の内容・方法および到達目標

現在、職場などでコンピュータを利用した書類作成が頻繁に行われている。この実習では、書類作成に頻繁に用いられるMicrosoft社の基本ソフト(Windows)およびオフィスソフト(Word, Excel)を対象として各種課題をこなすことで、コンピュータの基本操作を習得することをめざす。

授業計画

- 第1回 導入、コンピュータリテラシー
- 第2回 コンピュータの基本操作
- 第3回 Wordの基礎(1)
- 第4回 Wordの基礎(2)
- 第5回 Wordの基礎(3)
- 第6回 Wordの基礎(4)
- 第7回 演習 Wordのまとめ
- 第8回 Excelの基礎(1)
- 第9回 Excelの基礎(2)
- 第10回 Excelの基礎(3)
- 第11回 Excelの基礎(4)
- 第12回 演習 Excelのまとめ
- 第13回 資料を作る際の心構え(1)
- 第14回 資料を作る際の心構え(2)
- 第15回 総合演習

教材・テキスト・参考文献等

『実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応』 noa出版、2016
ISBN978-4-908434-17-4

成績評価方法

成績は、課題・演習(Wordのまとめ・Excelのまとめ・総合演習)の結果を総合して判定する。なお、課題・演習を期日までに提出しなかった回が、3回以上となった場合は成績評価の対象としない。配点の比率は、課題あわせて40点程度、演習はそれぞれ20点程度である。

その他

コンピュータの操作は、本を読んだだけでは修得できない。そのため、この授業では、実習に参加し課題をこなすことに評価の主眼がある。受講する場合は、この点に留意すること。

講義科目 : 情報処理実習 I	単位数 : 1
マークシート略 : [情報実 I]	学習形態 : 選択科目
担当 : 笠 浩一朗	

講義の内容・方法および到達目標

現在、あらゆる場面でコンピュータの利用が欠かせなくなっている。そのコンピュータについての基礎知識を習得することを到達目標に指導する。

特に、実際のアプリケーションソフト（Word, Excel, PowerPoint）を利用した課題に取り組むことで、パソコンの使用方法の基礎を習得できるよう指導する。

授業計画

- 第1回 実習室の利用方法とコンピュータの基本操作
- 第2回 Word の基礎 1（各部の名称）とタイピング練習
- 第3回 Word の基礎 2（ページ設定、文書入力、スタイル、脚注）
- 第4回 Word の基礎 3（表の作成、SmartArtグラフィック）
- 第5回 Word の基礎 4（図の作成、ヘッダーとフッター）
- 第6回 Word の基礎 5（段組み、数式）
- 第7回 Excel の基礎 1（入力方法、オートフィル、書式設定）
- 第8回 Excel の基礎 2（絶対参照、関数、グラフ）
- 第9回 Excel の基礎 3（表計算の応用）
- 第10回 PowerPointの基礎
- 第11回 最終課題作成 1
- 第12回 最終課題作成 2
- 第13回 最終課題作成 3
- 第14回 最終課題発表
- 第15回 まとめ

教材・テキスト・参考文献等

教科書については、第1回の講義で指示する。

成績評価方法

出席を毎回取り、成績評価に加味する。各課題の配点と出席点は下記のとおりである。

- Word課題：15点程度
- Excel課題：20点程度
- PowerPoint課題：10点程度
- 最終課題：40点程度
- 出席：15点程度

その他

- ・実習の講義は欠席するとついていけなくなります。欠席しないように。
- ・パソコンに不慣れな人は、講義の予習と復習を積極的にするように。
- ・パソコンに習熟した人は、追加の課題に取り組んだり、周りの人に教えたりすることで、さらに理解を深めるように。

講義科目 : 情報処理実習Ⅱ	単位数 : 1
マークシート略 : [情報実Ⅱ]	学習形態 : 選択科目
担当 :	

後日揭示

講義の内容・方法および到達目標

授業計画

- 第1回
- 第2回
- 第3回
- 第4回
- 第5回
- 第6回
- 第7回
- 第8回
- 第9回
- 第10回
- 第11回
- 第12回
- 第13回
- 第14回
- 第15回

教材・テキスト・参考文献等

成績評価方法

その他

講義科目 :心理学	単位数 :2
マークシート略 :〔心理学〕	学習形態 :選択科目
担当 :高橋 彩	社会福祉士必修科目

講義の内容・方法および到達目標

心理学は一般に生活体（人や動物）の行動の科学と言われている。行動は人の内的要因とその人がおかれている環境的要因によって決まるが、こうした行動を引き起こすような心の仕組みや働きを科学的に明らかにし、人間そのものの理解を目指す学問が心理学といえる。心理学には、認知心理学、教育心理学、発達心理学、社会心理学、臨床心理学など多くの分野がある。

この講義では、心理学の各分野の基本的概念について紹介することで、受講生が、人間の行動や心の働きについて、心理学的な視点から理解できることを目指す。

授業計画

- 第1回 心理学とはどのような学問か
- 第2回 知覚（大きさの恒常性、錯視）
- 第3回 学習（古典的条件づけ、オペラント条件づけ、観察学習）
- 第4回 記憶（短期記憶、長期記憶）
- 第5回 動機づけ（内発的動機づけ、外発的動機づけ、自己効力）
- 第6回 感情（感情の機能、ストレス）
- 第7回 パーソナリティ（パーソナリティの調べ方）
- 第8回 知能（知能検査とIQ）
- 第9回 思考（推論、ヒューリスティックス）
- 第10回 発達（社会性の発達）
- 第11回 対人認知（印象形成、対人魅力）
- 第12回 集団（社会的促進、同調、態度変容）
- 第13回 臨床 精神的健康（気分障害）
- 第14回 心理学の応用（法、スポーツ、産業・組織）
- 第15回 まとめと最終試験

教材・テキスト・参考文献等

テキスト 二宮克美（編著）2017 ベーシック心理学第2版 医歯薬出版
ISBN978-4-263-42223-6

成績評価方法

試験70%と授業内での課題レポート30%で評価する。

講義科目 : 環境論	単位数 : 2
マークシート略 : [環境論]	学習形態 : 選択科目
担当 : 南 有哲	

講義の内容・方法および到達目標

環境問題は今日、人類が直面する最重要課題のひとつであるとみなされるに至っている。本講義の目的は、生物多様性、地球温暖化、核エネルギーという3つの大きなテーマについて概観することである。

授業計画

- 第1回 はじめに
- 第2回 地球温暖化のメカニズム
- 第3回 地球温暖化がもたらすもの
- 第4回 懐疑論について
- 第5回 地球温暖化にどう対応すべきなのか
- 第6回 核分裂と核融合
- 第7回 核分裂発電の仕組み
- 第8回 核エネルギー生産の利点と難点①
- 第9回 核エネルギー生産の利点と難点②
- 第10回 日本はなぜ「原発列島」と化したのか
- 第11回 生物多様性とは何か
- 第12回 生物多様性はなぜ大事なのか
- 第13回 生物多様性破壊の現状と背景①
- 第14回 生物多様性破壊の現状と背景②
- 第15回 試験とまとめ

教材・テキスト・参考文献等

講義中に適宜指示する

成績評価方法

- ・ 毎回小レポート…50%
- ・ 試験…50%

講義科目 :教育の基礎理論	単位数 :2
マークシート略 :〔教育基礎〕	学習形態 :選択科目
担当 :大日方 真史	

講義の内容・方法および到達目標

教育の営みの現在を深く理解し、課題を理論的に発見・把握できるようになることを目標に、教育の基礎となる諸理論を取り上げる。
対話的な講義方法を採用する。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 人間の発達と教育の意義
- 第3回 社会における教育の意義
- 第4回 学校という場所（1）
- 第5回 学校という場所（2）
- 第6回 子どもの生活と学校教育
- 第7回 学習と学力
- 第8回 学習権と参加権
- 第9回 教師の役割・地位・責任
- 第10回 子ども理解とケア
- 第11回 教育権
- 第12回 教育制度
- 第13回 家庭・地域と学校
- 第14回 教育改革の展開
- 第15回 まとめ（レポート提出を含む）

教材・テキスト・参考文献等

適宜資料を配布する。

成績評価方法

平常点（活動への参加、提出物）40%、レポート60%

講義科目 : 発達と学習	単位数 : 2
マークシート略 : [発達学習]	学習形態 : 選択科目
担当 : 高橋 彩	

講義の内容・方法および到達目標

人間の生涯にわたる発達を規定する要因と、学習、記憶、動機づけなど人間の認知について解説する。また、発達と学習の分野における重要な理論を提唱した理論家についても紹介する。受講者が、人の認知活動や発達に関する心理学の基本的な概念を理解し、自分自身の学びに生かすことが出来るようになることを目標とする。

授業計画

- 第1回 発達と学習に関する理論
- 第2回 ピアジェの認知発達（1）感覚運動期、前操作期
- 第3回 ピアジェの認知発達（2）具体的操作期、形式的操作期
- 第4回 行動発達と遺伝（1）行動遺伝学とは
- 第5回 行動発達と遺伝（3）遺伝と環境の相互作用
- 第6回 脳と行動発達（1）可塑性 ニューロンとシナプス
- 第7回 脳と行動発達（2）ミラーニューロンと自閉スペクトラム症
- 第8回 学習理論（パブロフ、スキナー、バンデューラ）
- 第9回 ワトソンの行動主義とプログラム学習
- 第10回 試行錯誤学習、洞察学習、潜在学習
- 第11回 人間の記憶（1）短期記憶と長期記憶
- 第12回 人間の記憶（2）スキーマとメタ記憶
- 第13回 動機づけ 目標理論
- 第14回 自己効力と自尊感情
- 第15回 まとめと最終試験

教材・テキスト・参考文献等

教科書は使用しない。必要な資料は講義内で配布する。

成績評価方法

試験70%と授業内の課題レポート30%で評価する。

講義科目 : 生涯学習論	単位数 : 2
マーケット略 : [生涯学習]	学習形態 : 選択科目
担当 : 長島 洋	実務経験 : 有

講義の内容・方法および到達目標

生涯学習は、生まれたときから死ぬときまでのながいスパンのなかで、学びを通して人と人につながり、その学んだ成果を地域に活かしあい、それを評価しあう、そんな社会の実現に向けて取り組むものです。学んだ成果をどうやって社会に還元していくか それをテーマに講義を進めます。

だれもが、いつでも、生涯をとおして学ぶことにより、自分の生活や人生感が豊かになり、その学んだ力、成果を地域や学校、職場でどのように活かしていくかを学習します。特に、三重県を中心に自分のふるさとの課題解決にむけた生涯学習のあり方を、学びあい、実際の活動へとつながるよう学習します。

具体的には、生涯学習概論をはじめに学び、後半には、三重県内等のふるさともを見つめ直し、課題を考え、その課題解決にむけた生涯学習プログラムを立案、企画してもらいます。ふるさとや三重が輝けるよう進めていきます。

授業計画

- ① 生涯学習の意義と生涯学習社会の構築
- ② 生涯学習・社会教育行政の展開
- ③ 生涯学習・社会教育指導者の役割
- ④ 地域社会と生涯学習の実際 事例研究
- ⑤～⑧ 自分たちの住んでいる（ふるさと・三重県等）まちでの実際の生涯学習事例を集め研究します。また、課題を解決するための方策を考えます。
- ⑨ 三重県内生涯学習関連施設の実際
- ⑩ 学社融合（学校教育と社会教育の融合）学校支援と生涯学習
- ⑩ 人権教育と生涯学習
- ⑪ 家庭教育と生涯学習
- ⑫～ ふるさとの地域課題解決に向けた生涯学習プログラム立案
- ⑬ 地域課題解決のための生涯学習プログラムの企画・立案・評価

教材・テキスト・参考文献等

その都度、資料を配布します。
参考文献は講義中紹介。

成績評価方法

毎回小レポート提出60%、生涯学習プログラム立案・発表等40%による出席重要視。毎回レポートが得点に。レポートは必ず授業の最後に回収。4回以上欠席は評価の対象外。つまり無効になります。

実務経験

生涯学習・社会教育分野において、三重県教育委員会・文部科学省・三重県生涯学習センターにおいて15年勤務。現在、三重県生涯学習センターにおいて所長をしている。国立社会教育研修所において、指導主事として、全国生涯学習・社会教育行政職員等に指導及び助言。社会教育主事の資格も有しており、研修講師として実績がある。

その他

自分のまち・三重県内の生涯学習イベント事業に関心をもって資料等を集めてください。

講義科目 : 差別と人権	単位数 : 2
マークシート略 : [差別人権]	学習形態 : 選択科目
担当 : 上田 浩	

講義の内容・方法および到達目標

現代社会において重視されるようになってきた基本的人権の問題を考えていきます。人権とは何か、人権はなぜ重要なのか、私たちの人権の実態はどのようなになっているのか、等の問題です。労働者の企業での無権利状態、男女差別などの人権をめぐる現状についても考えたいと思います。

基本的人権という考え方は、フランス人権宣言などにおいて明文化されてきましたが、こうした人権の歴史的な形成の経過を学ぶとともに、その内容の発展を知ることによって人権の普遍的な意味を考えたいと思います。さらに、日本国憲法や世界人権宣言、子どもの権利条約の内容について理解を深め、現代社会での生存権、労働権、教育権をめぐる人権の実態などを検討していきたいと思ひます。

授業計画

- 第1回 現代社会と人権：授業概説
- 第2回 近代的人権の成立の歴史
- 第3回 ロックの人権思想
- 第4回 近代的人権の特徴と課題
- 第5回 近代的人権の問題点
- 第6回 人権の拡張の過程
- 第7回 基本的人権と日本国憲法
- 第8回 現代の人権の諸問題
- 第9回 職場における人権
- 第10回 ワーキング・プアを考える
- 第11回 男女賃金格差の現状
- 第12回 DVと女性の権利
- 第13回 不登校・いじめと子どもの権利
- 第14回 児童虐待と社会
- 第15回 まとめ

教材・テキスト・参考文献等

テキストは使用しません。授業時にプリントを配布します。
参考文献については授業時に指示します。

成績評価方法

レポート試験を行い、授業態度と出席率によって評価します。
出席を重視し、授業内容について考えたことや意見を書いてもらいます。
6回以上欠席した場合、評価の対象外とします。
レポート試験60%、出席・意見などの平常点40%

講義科目	:ジェンダー論	単位数	:2
マークシート略	:[ジェンダ]	学習形態	:選択科目
担当	:松田 いりあ		

講義の内容・方法および到達目標

- ・この授業では、ジェンダーに関わる私たちの一般的な認識が、一定の歴史的社会的条件下で定着したものであること、またその認識が世代を越えて伝えられる仕組みを、国内外の事例とともに解説する。
- ・授業は基本的に講義形式で行うが、随時、授業内課題を実施し、提出された課題をもとに、受講生とともに考える機会を設ける。
- ・この授業では、受講生が現在のジェンダーをめぐる課題を理解するだけでなく、社会生活全般においてジェンダーに関心を持つことが目標になる。

授業計画

- 第1回 はじめに：この授業の概要の説明
- 第2回 ジェンダーとは(1)
- 第3回 ジェンダーとは(2)
- 第3回 社会化(1)
- 第4回 社会化(2)
- 第5回 家族(1)
- 第6回 家族(2)
- 第7回 社会史とジェンダー
- 第8回 中間まとめ
- 第9回 社会階級・階層とジェンダー
- 第10回 アンペイド・ワーク
- 第11回 メディアとジェンダー
- 第12回 サブカルチャーとジェンダー
- 第13回 身体とジェンダー(1)
- 第14回 身体とジェンダー(2)
- 第15回 まとめ：この授業をふりかえって

教材・テキスト・参考文献等

使用しない。授業中に適宜指示する。

成績評価方法

レポート70%、授業内課題30%

その他

成績評価の対象者になるためには、規定の出席回数を満たす必要がある。

講義科目 : 歴史学	単位数 : 2
マークシート略 : [歴史学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 望月 秀人	

講義の内容・方法および到達目標

西洋近代は明治時代以来、長らく日本にとっては追いつくべき模範でしたが、現在ではそうした西洋中心主義は批判され、むしろ他地域と対等に比較すべき一対象となっています。本講義ではそうした状況を踏まえつつ、西洋近代社会の成り立ちと展開を概説的に講義することで、日本にとって何を見習うべきであり、何を見習うべきでないのか、学生の皆さんと考えていきたいと思ひます。

授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 大航海時代と世界の一体化
- 第3回 「宗教戦争」と「世俗化」
- 第4回 封建制から「絶対王政」へ
- 第5回 「絶対王政」の意義と限界
- 第6回 出版資本主義と啓蒙
- 第7回 「市民革命」と近代国家
- 第8回 ナショナリズムと国境問題
- 第9回 工業化とその影響
- 第10回 第一次世界大戦の衝撃
- 第11回 大恐慌の時代
- 第12回 ファシズムの脅威
- 第13回 第二次世界大戦
- 第14回 社会主義と冷戦
- 第15回 グローバル化とその課題

教材・テキスト・参考文献等

テキストは特に定めません。毎回のレジュメに掲載されている出典を参考にしてください。ただ、山川出版社の高校世界史教科書程度のものは持っていた方が良いでしょう。

成績評価方法

試験60%、レポート40%で判断します。試験は紙媒体持ち込み可の論述試験で、講義内容に即して回答するものとします。レポートについては講義の際に説明します。5回以上の欠席はその時点で単位を失うものとします。

その他

言うまでもなく、講義中の私語や徘徊は原則禁止とします。学生としてふさわしい受講態度をとるようにしてください。また、時事ネタ等を通じて、社会の課題に敏感になるようにしてください。

講義科目 : 地理学(地誌を含む)	単位数 : 2
マークシート略 : [地理学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 山崎 智博	

講義の内容・方法および到達目標

- ・ 私たちが生活している地域はそれぞれが様々な特徴を持っています。本講義ではそうした地域がどのようにして形成されてきたかをみていくことにより、地域の特徴や抱えている問題を考えていけることを目標にします。

授業計画

- ・ 1つのテーマを2回の授業で扱う予定です。ただし、地図や映像資料等を扱うので授業進行の速度は調整することもあります。

- 第1回 地域・都市の形成(ガイダンス)
- 第2回 明治維新と都市の近代化
- 第3回 市区改正と都市計画法の制定①
- 第4回 市区改正と都市計画法の制定②
- 第5回 関東大震災復興都市計画①
- 第6回 関東大震災復興都市計画②
- 第7回 戦時期の都市・地域①
- 第8回 戦時期の都市・地域②
- 第9回 戦災復興都市計画①
- 第10回 戦災復興都市計画②
- 第11回 現代地域開発政策の展開①
- 第12回 現代地域開発政策の展開②
- 第13回 地域の現状と課題①
- 第14回 地域の現状と課題②
- 第15回 まとめ(筆記試験)

教材・テキスト・参考文献等

- ・ テキストは使用しません。
- ・ 参考文献はその都度紹介しますが、以下に2冊挙げておきます。
藤井正・神谷浩夫編著「よくわかる都市地理学」ミネルヴァ書房 2014年
平岡昭利・野間晴雄編「近畿Ⅰ 地図で読む百年」古今書院 2006年

成績評価方法

- ・ 出席は毎回取ります。
- ・ 最終授業時に試験を行います。
- ・ 試験(85%)・出席(15%)を基準に判断します。

その他

- ・ 地図、写真、映像等を適宜使用する予定です。
- ・ 津市など三重県に関する内容も折に触れ取り上げる予定です。

講義科目 : 哲学	単位数 : 2
マークシート略 : [哲学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 吉本 陵	

講義の内容・方法および到達目標

二十世紀後半になって急速に発展してきた医療技術によって、私たちは生と死の意味について再考する必要に迫られている。本講義では、生命倫理学ないし医療倫理学の基本的な論点を学び、そこから浮かび上がる私たちの生と死の意味の問題を哲学的に考察する。授業は講義形式で行い、上記の論点について自ら論述できるようになることを目標とする。

授業計画

- 第1回 ガイダンス&イントロダクション
- 第2回 哲学的・倫理的なもの考え方 (I)
- 第3回 哲学的・倫理的なもの考え方 (II)
- 第4回 生命倫理学の成立とその背景 (I)
- 第5回 生命倫理学の成立とその背景 (II)
- 第6回 インフォームドコンセントと自己決定の問題 (I)
- 第7回 インフォームドコンセントと自己決定の問題 (II)
- 第8回 インフォームドコンセントと自己決定の問題 (III)
- 第9回 ケアの倫理――「尊厳死」をめぐるいのちの対話 (I)
- 第10回 ケアの倫理――「尊厳死」をめぐるいのちの対話 (II)
- 第11回 ケアの倫理――「尊厳死」をめぐるいのちの対話 (III)
- 第12回 脳死の倫理的問題 (I)
- 第13回 脳死の倫理的問題 (II)
- 第14回 脳死の倫理的問題 (III)
- 第15回 全体の総括

教材・テキスト・参考文献等

教科書は使用しない。参考文献は適宜指示する。

成績評価方法

最終回に行う論述形式の試験(80%)に、平常点(20%)を加味して評価する。五回以上の欠席が認められた場合には評価の対象外とする。

その他

各回の授業後、講義内容についての基本的な質問に対する解答の提出を求める。平常点はそれをもとに評価する。

講義科目 : 文学 I	単位数 : 2
マークシート略 : [文学 I]	学習形態 : 選択科目
担当 : 今本 幸平	

講義の内容・方法および到達目標

この講義では有名なヨーロッパの文学作品を取り上げます。時代も国も我々がいる日本からは遠く離れたところで書かれた作品ですが、そこに描かれる人間の姿は今の我々にも通じる部分が多々あると思います。とはいえ、何の手掛かりもなく読んでもピンとこない部分も出てくると思いますので、適宜画像や音声などの資料も使い、作者、当時の社会背景、文化など、周辺の事柄も視野に入れつつ文学作品を味わう上での要点を示していきたいと思います。

文学作品に親しみ、読んだ作品に対する感想や意見などを自分の言葉で表現できるようになることがこの授業の目標です。

授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 シェイクスピア『ロミオとジュリエット』①
- 第3回 『ロミオとジュリエット』②
- 第4回 『ロミオとジュリエット』③
- 第5回 『ロミオとジュリエット』④
- 第6回 シェイクスピアの喜劇『夏の夜の夢』①
- 第7回 『夏の夜の夢』②
- 第8回 『夏の夜の夢』③
- 第9回 民衆本の世界『ティル・オイレンシュピーゲル』
- 第10回 伝説と文学① 民衆本『ファウスト博士』
- 第11回 伝説と文学② モリエール『ドン・ジュアン』
- 第12回 文学作品とオペラ① メリメ『カルメン』
- 第13回 文学作品とオペラ② デュマ・フィス『椿姫』①
- 第14回 『椿姫』②
- 第15回 前期まとめ、テスト

* 取り上げる作品、順序などは変更する場合があります。

教材・テキスト・参考文献等

使用する資料は授業開始前に教室前方に置いておくので各自取ってください。

成績評価方法

- ・学期末に800～1000字程度の小論文のテストを行い、その内容で成績評価をします。テーマは事前に通知します（6月半ばに通知予定）。
- ・出席が全授業の3分の2に満たない場合は成績評価の対象外となります。自分の欠席回数は各自で把握しておいてください。
- ・毎回作品に関連する課題コメント（100～200字程度）を書いて提出してもらい、それで出席の確認をします（授業時に教室にいてもコメントを提出しなければ欠席扱いとなります）。出席状況による成績の減点・加点はしません。

その他

講義を聴くだけでなく、作品を自分でも読んで味わってください。

講義科目 : 文学Ⅱ	単位数 : 2
マークシート略 : [文学Ⅱ]	学習形態 : 選択科目
担当 : 今本 幸平	

講義の内容・方法および到達目標

この講義では18世紀から20世紀のドイツ文学の作品を取り上げます。難しそうに感じるかもしれませんが、文学の読み方に決まりや正解はありません。等身大で読めばよいのです。とはいえ、古い作品では手掛かりなしでは良く分からないことも出てくると思いますので、随時画像や音声などの資料も使って作者、当時の社会背景、文化など、作品以外の事柄も視野に入れて説明し、文学作品を味わう糸口を示していきたいと思ひます。

文学作品に親しみ、読んだ作品に対する感想や意見などを自分の言葉で表現できるようになることがこの授業の目標です。

授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ゲーテ『魔王』
- 第3回 ゲーテ『若きウェルテルの悩み』①
- 第4回 『若きウェルテルの悩み』②
- 第5回 ゲーテ『ファウスト』第1部①
- 第6回 『ファウスト』第1部②
- 第7回 「グリム童話」
- 第8回 シャミッソー『影をなくした男』
- 第9回 ホフマン『砂男』
- 第10回 シュピーリ『ハイジ』
- 第11回 カフカ『変身』
- 第12回 ジュースキント『コントラバス』
- 第13回 シュリンク『朗読者』①
- 第14回 『朗読者』②
- 第15回 まとめ、テスト

* 取り上げる作品、順序などは変更する場合があります。

教材・テキスト・参考文献等

使用する資料は授業開始前に教室前方に置いておくので各自取ってください。

成績評価方法

- ・学期末に800～1000字程度の小論文のテストを行い、その内容で成績評価をします。テーマは事前に通知します（12月半ばに通知予定）。
- ・出席が全授業の3分の2に満たない場合は成績評価の対象外となります。自分の欠席回数は各自で把握しておいてください。
- ・毎回作品に関連する課題コメント（100～200字程度）を書いて提出してもらい、それで出席の確認をします（授業時に教室にいてもコメントを提出しなければ欠席扱いとなります）。出席回数による成績の減点・加点はしません。

その他

- ・講義を聴くだけでなく、自分で作品を読んで味わってください。
- ・「文学Ⅰ」を履修していなくても受講可能です。

講義科目 : 美学	単位数 : 2
マークシート略 : [美学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 岡野 智子	

講義の内容・方法および到達目標

日本の調度や衣装には、古来様々な意匠=デザインが施されてきた。それらは四季折々の身近な花鳥風月をはじめ、物語や和歌などの古典文学、また歌舞伎などの芸能とも深い関わりをもつ。本講義では日本の美意識を象徴する意匠の成立と展開につき、主に絵画や工芸品を通じて多方面から考察する。今日も見出される伝統的な意匠の意義を知ることは、個性的な表現を求められる現代においてこそ深い示唆となり得よう。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション・日本美術の成立1（縄文～平安）
- 第2回 日本美術の成立2（平安～江戸）
- 第3回 吉祥の意匠―福を招く図様―
- 第4回 桜の意匠―桜への想いとその表象―
- 第5回 涼を呼ぶ意匠―実用と装飾の出会い―
- 第6回 秋を彩る意匠―情趣と洗練の美―
- 第7回 冬を楽しむ意匠―雪の姿さまざま―
- 第8回 五節句1―邪を祓い季節を楽しむ―
- 第9回 五節句2―邪を祓い季節を楽しむ―
- 第10回 月次の花鳥と行事―歌絵の広がり―
- 第11回 伊勢物語の意匠―燕子花と問えば―
- 第12回 源氏物語の意匠―留守模様遊ぶ―
- 第13回 歌舞伎の意匠―粹と飾りの美意識―
- 第14回 動物の意匠―霊獣からペットまで―
- 第15回 渡来の意匠―憧れの南蛮ファッション―

教材・テキスト・参考文献等

教科書は使用しない。参考文献は『日本の意匠』、『続日本の意匠』シリーズ（京都書院）、『日本の文様』シリーズ（小学館）、『カラー版 日本美術史』（美術出版社）、『すぐわかる日本の美術』（東京美術）他。

成績評価方法

出欠票を兼ね、毎回講義で触れた作品の中から1点を選びコメント提出を求める。受講者は提出回数が原則として10回以上の者のみ④の提出資格が得られる。

評価は①出席点25% ②コメント内容の評価25% ③事前事後の自己学習として全国各地の展覧会等の見学レポートの提出25% ④レポート（②・③を応用した独自の展覧会企画案）25%

その他

日本で育まれてきた美意識や伝統の背景にある多様な文化。その成立と魅力を知ることは即ち自身を知ることと気づき、豊かな人間性の構築に役立ててほしい。授業の予習復習として、各自で美術館・博物館等で実作品を鑑賞し、見る目を養うこと。さらに展覧会カードに感想をまとめ、提出することを強く推奨する。

講義科目 : 比較文化論	単位数 : 2
マークシート略 : [比較文化]	学習形態 : 選択科目
担当 : 竹添 敦子	

講義の内容・方法および到達目標

- ・ 西欧と日本を比較しながら、身近な文化現象を再考し、その背後にあるものとの見え方、考え方の違いを探ります。本年度は「視線・境界」を軸に東西文化を比較します。
- ・ 当たり前だと思っている現象も、歴史をさかのぼると興味深い事実が見えてきます。また私たちの「常識」について、一度立ちどまってみると、思いもかけない発見があります。こういったことを確認するために、毎回映像を観て講義内容を要約し、自分の意見をまとめるレポートを作成します。
- ・ 「伝統」や「慣習」のことで片づけられていた現象を再検討し、西欧の文化、日本の文化について自分なりの考えを導き出すことが目標です。

授業計画

第 1回 文化を比較するとはどういうことか	第 9回 日本の境界 (曖昧・引き算)
第 2回 おとぎ話の比較 (日本の昔話)	第10回 西欧の境界 (明確・足し算)
第 3回 おとぎ話の比較 (西欧の昔話)	第11回 日本の姿勢 (「座」を考える)
第 4回 文化の特徴を見つける (視線を通じ)	第12回 西欧の姿勢 (「立」を考える)
第 5回 日本の視線 (菓子の色彩など)	第13回 日本の道具 (「包む」文化)
第 6回 西欧の視線 (菓子の形など)	第14回 西欧の道具 (「入れる」文化)
第 7回 日本の視線 (陰影・間取りなど)	第15回 まとめと確認 (試験)
第 8回 西欧の視線 (光の意味)	

教材・テキスト・参考文献等

- ・ 使用しません。
- ・ 毎回A4一枚にまとめたレジュメを配付し、それに基づいて講義を進めます。

成績評価方法

- ・ 小レポート (毎回実施、70%) と最終試験 (論述式、30%) を基準に評価します。
- ・ 出席を重視します (毎回の小レポートによって出席の確認をします)。
- ・ 小レポートは採点 (5点満点) 後、返却します。講義開始前の教室に、コースごと、学籍番号順に並べていますので、各自受け取ってください。欠席した場合でも前回のレジュメを添付して並べています。
- ・ 5回以上欠席した場合、評価の対象外とします。4回休んだ時点で小レポートの氏名欄にイエローラインがはいります。5回休むとレッドラインとなります。レッドライン以降欠席があると無資格となります (まとめの最終試験を受けることはできません)。

講義科目 :英会話	単位数 :2
マークシート略 :〔英会話〕	学習形態 :選択科目
担当 :Jon Richards	

講義の内容・方法および到達目標

This course is designed for beginner to low-intermediate students and will focus on spoken English. The goal of this course is to give students the opportunity to challenge their English ability in a positive environment while also building upon the fundamental skills of reading, hearing, and speaking. Basic grammar will be taught and reviewed over the duration of this course. Each unit of the textbook will be covered followed by a unit test to evaluate students progress.

Both individual and group projects will be assigned in this course.

Students are expected to speak only English in this course!

授業計画

first semester

第1 - 2回 Introductions and orientation

第3 - 4回 Hello Everybody

第5 - 6回 Meeting people

第7 - 8回 The world of work

第9 - 10回 Take it easy!

第11 - 12回 Where do you live?

第13 - 14回 Can you speak English?

第15回 End of first semester test

second semester

第16 - 17回 Then and now

第18 - 19回 A date to remember

第20 - 21回 Food you like!

第22 - 23回 Looking Good!

第24 - 25回 Life is an adventure

第26 - 27回 Have you ever?

第28 - 29回 Have you ever?

第30回 End of second semester test

教材・テキスト・参考文献等

American Headway 1 (2nd edition. ISBN 978-0-19-472945)

By Riz and John Soars (Oxford University Press)

成績評価方法

Work in class - 50% Unit Tests - 30% Final Exam - 20%

その他

It is my experience that an active, positive atmosphere is necessary for learning to speak a new language. Students are expected to maintain a supportive atmosphere so that everyone may advance. Mistakes during class are not to be feared as they are part of the learning process.

講義科目 : 英語講読	単位数 : 2
マークシート略 : [英語講読]	学習形態 : 選択科目
担当 : 村井 美代子	

講義内容・方法および到達目標

- ・ビジネス心理学の観点から、職場で起こり得る様々な場面を想定して15のテーマにまとめたテキストを読む。各レッスンは読み切り形式で、350～450語程度にまとめられている。面接の心得や対人関係へのアドバイスなどの様々な処世術を、的確に把握できる読解力と語彙力を養う。
- ・各レッスンにはリーディング課題だけでなく、語彙やイディオムに関連する問題や、正答を音声で確認する問題、短い英文内容を速読で理解する問題なども用意されている。これまでの英語学習の基礎の上に、実践的な読み取り、聞き取りの力を身につけてほしい。

授業計画

- ・1つの章を2回の授業で読了する予定。ただし、受講生の学習の進捗などによって、授業進行の速度は随時調整する。

第1回	オリエンテーション	第16回	社内で自分らしく
2回	Lesson 1	17回	Lesson 8
3回	ビジネス心理学とは何か?	18回	ギブ・アンド・テイク
4回	Lesson 2	19回	Lesson 9
5回	就職活動の心理学	20回	職場のゴシップ
6回	Lesson 3	21回	Lesson 10
7回	積極的な休暇のすすめ	22回	職場の仕切りたがり屋
8回	Lesson 4	23回	Lesson 11
9回	ロボットとともに働く	24回	行いの立派なのが立派な人
10回	Lesson 5	25回	Lesson 12
11回	会社は男社会①	26回	私の空間、あなたの空間
12回	Lesson 6	27回	Lesson 13
13回	会社は男社会②	28回	起業家になるためには
14回	Lesson 7	29回	Lesson 14 ブレインストーミングと情報化社会
15回	前期学習内容のまとめ	30回	後期学習内容のまとめ

教材・テキスト・参考文献等

『Mind Matters 社会で役立つビジネス心理』（南雲堂）

成績評価方法

- ・毎回出席をとる。
- ・前期最終授業時と後期最終授業時に試験を行う。全授業回数の3分の2以上の出席がない場合、評価の対象外とする。
- ・成績は前後期試験を中心にして、出席状況や課題の提出状況、学習態度などから総合的に判断する。評価基準の目安は、試験：平常点＝7：3

講義科目 : 総合英語	単位数 : 2
マークシート略 : [総合英語]	学習形態 : 選択科目
担当 : ドライデン いづみ	

講義の内容・方法および到達目標

本講義ではテキストのTOEICテスト問題演習を通して、TOEICテストのスコアアップとスキルアップを目指す。

テキストのTOEIC問題を教材として、語彙力・文法・リスニング・リーディングを含む総合的な英語コミュニケーション、英語運用能力の向上を目標とする。授業方法としては、TOEIC頻出重要語句の意味・発音・品詞・文の構造の基礎力を養成し、TOEICテストのリスニング・リーディングの出題傾向に慣れ、各パートの攻略法を学ぶ。

授業計画

第1回 Unit 1 : Listening	第16回 Unit 8 : Listening
第2回 Unit 1 : Reading	第17回 Unit 8 : Reading
第3回 Unit 2 : Listening	第18回 Unit 9 : Listening
第4回 Unit 2 : Reading	第19回 Unit 9 : Reading
第5回 Unit 3 : Listening	第20回 Unit 10 : Listening
第6回 Unit 3 : Reading	第21回 Unit 10 : Reading
第7回 Unit 4 : Listening	第22回 Unit 11 : Listening
第8回 Unit 4 : Reading	第23回 Unit 11 : Reading
第9回 Unit 5 : Listening	第24回 Unit 12 : Listening
第10回 Unit 5 : Reading	第25回 Unit 12 : Reading
第11回 Unit 6 : Listening	第26回 Unit 13 : Listening
第12回 Unit 6 : Reading	第27回 Unit 13 : Reading
第13回 Unit 7 : Listening	第28回 Unit 14 : Listening
第14回 Unit 7 : Reading	第29回 Unit 14 : Reading
第15回 Practice Test 1	第30回 Practice Test 2

教材・テキスト・参考文献等

「一歩上を目指すTOEIC® LISTENING AND READING TEST: Level 1 - Basic- (STEP-UP SKILLS FOR THE TOEIC® LISTENING AND READING TEST: Level 1- Basic-)」

北尾泰幸 / 西田晴美 / 林姿穂 / Brian Covert (著)

1,836円(本体1,700円+税)

朝日出版社 (ISBN: 978-4-255-15614-9)

成績評価方法

40% Practice Test

40% 課題 (予習及び提出物)

20% 出席及び授業参加

その他

5回の授業欠席で失格となりますので注意すること。

テストの追・再試及び課題提出期限の延長はありません。

辞書は必携すること。

授業計画はクラスの進度によって変更することがあります。

講義科目 :独語Ⅱ	単位数 :2
マークシート略 :〔独語Ⅱ〕	学習形態 :選択科目
担当 :今本 幸平	

講義の内容・方法および到達目標

「独語Ⅰ」の単位を取得していることを前提に授業を行います。初めてドイツ語を学ぶ方は「独語Ⅰ」を受講して下さい。

「独語Ⅰ」で扱えなかった文法事項を学習した後、やや発展的な教材（簡単な読み物、検定試験対策問題など）を用いて、初級文法の定着を図り、ドイツ語検定試験4級から3級程度（中学2、3年の英語と同程度）のドイツ語が理解できるようになることを目指します。

授業計画

第1回 ガイダンス、復習①	第16回 前期テストの復習
第2回 復習②	第17回 zu不定詞
第3回 ドイツ語検定5級の問題①	第18回 練習問題
第4回 ドイツ語検定5級の問題②	第19回 関係代名詞
第5回 動詞の過去形、過去分詞	第20回 練習問題
第6回 練習問題	第21回 接続法
第7回 現在完了形	第22回 練習問題
第8回 練習問題	第23回 検定試験対策問題①
第9回 受動態	第24回 検定試験対策問題②
第10回 練習問題	第25回 読解問題①
第11回 形容詞、比較表現	第26回 検定試験対策問題③
第12回 練習問題	第27回 検定試験対策問題④
第13回 再帰代名詞	第28回 読解問題②
第14回 練習問題	第29回 読解問題③
第15回 前期まとめ、テスト	第30回 後期まとめ、テスト

*前年の「独語Ⅰ」の進度、受講生の理解度に応じて内容は適宜変更します。

教材・テキスト・参考文献等

- ・「独語Ⅰ」で使用した独和辞典
- ・「独語Ⅰ」で使用した教科書
- ・プリント（必要に応じて事前に配布します）

成績評価方法

原則的には前、後期末に行うテストの平均点で評価します。授業中に理解度確認のための小テストを行う場合がありますが、その点数は参考程度とします。各期とも10回以上の出席がなければ成績評価の対象外とします（遅刻・早退は0.5回の欠席とみなします。欠席回数による減点や加点は行いません）。欠席、遅刻等の回数は必ず各自で把握しておいてください。

その他

辞書と教科書は毎回持参してください。知らない単語の意味を辞書で調べる、教科書で文法事項の確認をするなど、能動的に学習するとより記憶が定着しやすくなります。授業中に疑問があれば遠慮なく質問してください。

講義科目 : 仏語Ⅱ	単位数 : 2
マークシート略 : [仏語Ⅱ]	学習形態 : 選択科目
担当 : 岩本 篤子	

講義の内容・方法および到達目標

- ・ 仏語Ⅰに続き、フランスの美しい一地方について書かれたテキストを用い、文法の説明、受講者による訳に基づいて会話と文法を学ぶ。
フランス文化に親しめるよう、映像・歌の視聴をたびたび行う。
- ・ 会話の暗記、聞き取りを通じて発音を定着させ、フランス語検定5級さらに4級の実力を養うことを目標とする。

授業計画

第1回	仏語Ⅰで習ったことの確認	第16回	13課 過去のことを話す
2回	仏語Ⅰの対話文復習	17回	13課の続き
3回	8課 興味を述べる	18回	13課の続き
4回	8課の続き	19回	2種類の過去形の確認
5回	9課 誘う	20回	過去形の練習問題
6回	9課の続き	21回	仏検4級をめざして2
7回	9課の続き	22回	14課 仮定する
8回	綴り字の読み方と音節の復習	23回	14課の続き
9回	10課 天候と時刻	24回	仮定表現の練習問題
10回	10課の続き	25回	重要な動詞の復習
11回	仏検4級をめざして1	26回	基本動詞を用いた役に立つ表現
12回	11課 数量を表す	27回	役に立つ表現の確認
13回	11課の続き	28回	仏語Ⅱの対話文復習
14回	11課の続き	29回	講読部分の読み復習
15回	12課 比較する	30回	全体の復習と小テスト最終回

教材・テキスト・参考文献等

テキスト：藤田 裕二「パリ・ボルドー」 朝日出版社

成績評価方法

- ① 授業中に行う小テストの平均点が60点以上あれば、合格とする。
- ② 6回以上欠席すると単位を認めない。

その他

せっかく始めたフランス語をやめてしまうのはもったいないことです。
仏語Ⅰの成績は全く関係ありません。必ず何かの役に立つと思って、頑張って続けてみましょう！（フランス語初心者の方の受講はご遠慮ください）

講義科目 : 中国語Ⅱ	単位数 : 2
マークシート略 : [中国語Ⅱ]	学習形態 : 選択科目
担当 : 花尻 奈緒子	

講義の内容・方法および到達目標

中国語Ⅰで学習した文法事項を踏まえ、簡単なリスニングと会話のトレーニングを行う。語彙や表現を増やし、中国語の背景にある文化や社会についても学ぶ。

授業計画

第1回	ガイダンス	第16回	前期の復習
第2回	基礎発音の復習	第17回	第八課・色々な副詞
第3回	ピンインの規則の復習	第18回	第八課・金額の言い方
第4回	軽声・声調の変化	第19回	実践会話練習
第5回	アール化・数の表現	第20回	第九課・色々な助動詞
第6回	あいさつ語と応答練習	第21回	第九課・前置詞
第7回	リスニングチャレンジ	第22回	第九課・時点と時量
第8回	第五課・名前の言い方・きき方	第23回	実践会話練習
第9回	第五課・実践自己紹介	第24回	第十課・助数詞の応用
第10回	第六課・応用形容詞述語文	第25回	第十課・結果補語
第11回	第六課・形容詞の表現	第26回	長文講読
第12回	第七課・動詞の表現	第27回	第十一課・程度補語
第13回	第七課・動詞述語文の完了形	第28回	第十一課・方向補語
第14回	実践会話練習	第29回	第十一課・進行形
第15回	前期の復習と総括	第30回	復習および総括

教材・テキスト・参考文献等

「パイロットテキスト・中国語Ⅰ演習」

成績評価方法

出席50%、前・後期の期末試験50%

その他

予習復習を欠かさず行うこと。中国語Ⅰとの同時履修は望ましくありません。

講義科目 : 地域史	単位数 : 2
マークシート略 : [地域史]	学習形態 : 選択科目
担当 : 鈴木 えりも	

講義の内容・方法および到達目標

史料や文献、作成資料を提示しながら各回のテーマを解説しながら、以下の事項を目標とする

- ①三重地域の近世・近代の歴史を学ぶために必要な基礎知識を身につける
- ②三重地域が近世・近代にどのような特徴を持つ地域であったのか考える
- ③史料を基礎としてそこから何が読みとれるのかを学び考える
- ④自分の育った地域の歴史に関心を持つ
- ⑤文献に基づいて自分の考えをまとめる方法を身につける

授業計画

- 第1回 講義の進め方、時代の区切り
- 第2回 近世概略(近世という時代の基礎知識) 1
- 第3回 近世概略(近世という時代の基礎知識) 2
- 第4回 三重地域の諸蕃
- 第5回 海運と河村瑞賢
- 第6回 近世の三重地域周辺の物流と伊勢商人の活躍
- 第7回 三重地域の村と町
- 第8回 三重地域の街道と宿場
- 第9回 伊勢神宮の近世とおかげまいり
- 第10回 近世の人々の暮し
- 第11回 近代のはじまり
- 第12回 三重地域の地租改正
- 第13回 三重地域の一揆
- 第14回 三重地域の自由民権運動
- 第15回 三重地域の災害

受講生の希望する事柄を取入れた講義を1回は行い、希望内容によって上記の適当な回と差替える。また学生の理解程度によって回数を増やしたり、講義の順序を入換えることもある

教材・テキスト・参考文献等

教科書は使用しない。講義中に配布するプリントに即して講義を行う
参考文献は講義中に取上げた内容に即して紹介する

成績評価方法

レポートによって評価する。課題及び評価基準は講義中に随時伝達する
出欠はとるが、評価の参考とするにとどめる

その他

レポートの書き方・評価基準について、聞きのがす学生が多い。講義を欠席した場合は講義内容を出席者に確認するなど、各自注意を怠らないこと

欠席した場合、講義中に配布した資料を入手することを怠らない

講義に取入れてほしい内容、理解できなかった点等を発言するなどの積極性を望む

講義科目	:自治体行政特論	単位数	:2
マークシート略	:〔自治行政〕	学習形態	:選択科目
担当	:小野寺 一成	実務経験	:有

講義の内容・方法および到達目標

この講義は、津市長をはじめ津市の職員によるリレー式の講義であり、本学の「地域連携講義」の一つとして行われる特色ある講義である。また、地方議会の傍聴も予定している。法経科では行政法、行政学、地方政治論、財政学など地方行財政を取り扱う講義科目、生活科学科では、地域政策論、地域福祉論Ⅰ・Ⅱ、地域環境学、都市計画論、環境政策論など、自治体行政に関わる講義科目があり、それらをあわせて受講することにより、現在の地方行政に対する理解など、地方自治体に関する基礎知識を深めることを目標にしている。

授業計画(予定)

第1回	オリエンテーション、津市の概況、選挙について
2回	津市シティプロモーション（広報課）
3回	津市の政策について（政策財務部）
4回	文化・スポーツについて（スポーツ文化振興部）
5回	津市の教育について（教育委員会事務局）
6回	産業振興（商工業／観光）について（商工観光部）
7回	防災について（防災室）、津市議会傍聴にむけて
8回	津市議会傍聴【6月】
9回	産業振興（農林水産業）について（農林水産部）
10回	都市計画について（都市計画部）
11回	財政について（政策財務部）
12回	環境行政について（環境部）
13回	津市の福祉について（健康福祉部）
14回	参加と協働のまちづくりについて（市民部）
15回	自治体経営（市長）

※なお、授業の進捗状況によって、内容を変更することもありえる。

- 毎回の講義の概要、感想などをまとめた「講義ノート」を提出する。
- 6月津市議会を傍聴し、レポートを提出する。

教材・テキスト・参考文献等

- ・教科書・参考文献等の指定はない。毎回の講義時に配布される各講師が準備したレジュメ・資料をもとに進めていく。

成績評価方法

- ・出席状況、講義ノート、議会傍聴レポートなどを総合して評価する。
- ・1/3以上欠席した場合は評価の対象外、遅刻3回で1回の欠席とみなす。

実務経験

- ・講師は、現職の津市長を始め各課の専門職員であることから、それぞれの専門分野で実務を経験し各種の専門計画・事業に携わっている。授業では、これらの実務経験を活かした実践的な自治体基礎知識の養成に努める。

講義科目 : 農林体験セミナー	単位数 : 2
マークシート略 : [-]	学習形態 : 選択科目
担当 : 楠本 孝	

後日揭示

講義の内容・方法および到達目標

授業計画

教材・テキスト・参考文献等

成績評価方法

その他

講義科目 : キャリア形成セミナー	単位数 : 2
マークシート略 : [キャリア]	学習形態 : 選択科目
担当 : 石原 洋介	実務経験 : 有

講義内容・方法および到達目標

- ・ 職場、家庭、地域の一員として、将来の自身のあり方を考えます。
- ・ 本学の卒業生、あるいは様々な分野の専門家、人生の先輩たちの話を通し、自身の人生を選びとってゆく力をつけます。（講師は毎回変わります。）
- ・ 具体的な仕事や人生観に触れながら、自身の職業観、勤労観を獲得し、卒業後の進路選択に役立てます。
- ・ 全講義を通して学ぶことで、自身のキャリアイメージを形成していきます。
- ・ 毎回、アンケート、質問票を兼ねた小レポートを提出し、文章を簡潔にまとめる力、適切な表現力をつけることを目指します。
- ・ 1年生の履修を原則とします。

授業計画

- ・ 講師の都合などによって前後することがあります。

第1回	キャリアとは何か（ガイダンス）
2回	地域を知る、地域で働く
3回	労働者を取りまく環境を知る
4回	地域を知る、地域で生きる
5回	自分を見つめる
6回	企業から求められる人材とは
7回	人生設計を考える
8回	国際協力という仕事
9回	働くことの意味
10回	栄養士として働く
11回	建築士として働く
12回	福祉に関わる仕事
13回	企業で働く
14回	働くことの意味を改めて考える
15回	まとめ（最終レポート作成）

教材・テキスト・参考文献等

- ・ 各講師より配布されるレジュメ、資料を使用します。

成績評価方法

- ・ 出席が基本です。出席状況や毎回の小レポート、最終レポートなどの提出状況、学習態度などから総合的に評価します。
- ・ 5回以上欠席した場合、評価の対象外とします。

実務経験

津市長、津市商工観光部や労働局職員、社会保険労務士や栄養士、建築士、JICA職員等が、受講生の進路選択の一助となるよう、それぞれの実務経験から得た職業観や人生観、現在の職業を選択するに至った経緯などを話します。

講義科目 : 食と観光実践	単位数 : 2
マークシート略 : [-]	学習形態 : 選択科目
担当 : 楠本 孝	実務経験 : 有

講義の内容・方法および到達目標

- ・この講義科目は、三重大学が実施する事前・事後学習及び現地学習に他大学生とともに参加することになります。
- ・三重県の重点課題である食と観光に対して、東紀州地域における世界遺産活用の観点から現地でのフィールドワークを交えた体験型実習を行います。
- ・三重県における社会的事象（観光客誘致、インフラ整備、事業継続性等）を深く理解し、関連する諸分野の知識を統合し、理想的な地域の有り様を探究します。本科目の特徴は合宿型（2泊3日）であるという点です。3～5人のグループワークを通して地域課題（「食と観光」）を発見し、それについて深い分析・考察を加え、その成果を効果的に表現する事で、自らの考えを社会に還元することを目標とします。
- ・地域住民や社会人といった異なる立場の人たちにインタビューし、その内容に対してグループ討議を経てそれぞれの専門性に則った意見を述べることで主体性を発揮することができます。

授業計画

○事前学習

- 第1回 5月11日（土）13:00～17:00
三重大学においてオリエンテーション、事前学習、グループワーク
- 第2回 6月15日（土）13:00～17:00
三重県総合博物館において、博物館見学、講義、グループワーク

○現地学習（合宿、2泊3日：8月28日～30日、宿泊先：ハマケン水産）

- 1日目 山間部観光地見学／フィールドワーク／講義／グループワークなど
- 2日目 沿岸部観光地見学／フィールドワーク／グループインタビュー／グループワークなど
- 3日目 グループインタビュー／成果発表に向けた取りまとめ、など

○事後学習

- 第1回 9月9日（月）13:00～16:00
三重大学にて食と観光に関する提案プレゼンテーション、事後レポートなど

※諸事情により実際の授業実施に際しては変更の可能性があります。

教材・テキスト・参考文献等

特になし

成績評価方法

授業や現地合宿への積極的な参加40%、成果発表30%、レポート30%

実務経験

講義プログラムの中に、実務者が実務経験に基づいて講義をする時間が含まれています。

その他

- ・履修希望者が定員を超えた場合は抽選で履修者を決定します。また、履修希望者は授業計画の全日程に参加することを前提として履修申告してください。
- ・学生の費用負担があります。飲食費で5千円程度の予定です。

講義科目 : 次世代産業実践	単位数 : 2
マークシート略 : [-]	学習形態 : 選択科目
担当 : 楠本 孝	

講義の内容・方法および到達目標

- ・この講義科目は、三重大学が実施する事前・事後学習及び現地学習に他大学生とともに参加することになります。
- ・三重県の将来的な主要産業に成長する可能性を持つ、「次世代産業」に注目し、グループワーク、ディスカッション、現地見学・実証実験を通じて、課題発見及び社会協働を学びます。
- ・本授業においては、航空宇宙産業をテーマに扱うが工学的な内容に限定せず、素材化学や生物資源活用、それらを地域産業という観点からいかに活かしていくかの視野を広げるとともに、他分野に対する関心や様々な専門性を他者と議論することで、新しい価値を生み出す考え方や産業構造を刷新していく社会人としての基礎的素養を身につけることを目的としています。
- ・本科目では合宿講義（2泊3日）を通じて、3～5人のグループワークで地域課題（次世代産業）を発見し、討論によりそれぞれの専門性を発揮して最終的な結論を発表するところまで行います。

授業計画

○事前学習

1 2月14日（土）13:00～17:00

三重大学において事前学習、事前レポートなど

○現地学習（合宿、2泊3日：2月18日～20日、宿泊場所：三重県立鈴鹿少年センター）

1日目 オリエンテーション、講義、グループワークなど

2日目 講義、実習、グループワーク、ワークショップなど

3日目 三重樹脂（鈴鹿市）、航空機部品生産協同組合（松阪市）、ユークレナ藻類エネルギー研究所（多気町）の見学など

○事後学習

3月6日（金）13:00～16:00

三重大学において「次世代産業に対する提言」、事後レポート

予習：座学・自主調査（文献・Web）・事前レポートの提出

復習：事後レポートの提出

教材・テキスト・参考文献等

特になし

成績評価方法

授業や現地合宿への積極的な参加40%、成果発表30%、レポート30%

その他

- ・履修希望者が定員を超えた場合は抽選で履修者を決定します。また、履修希望者は授業計画の全日程に参加することを前提として履修申告してください。
- ・本講義を2年生が受講する場合、単位が出て卒業に間に合いません。そのため履修を1年生に限らせていただきます。
- ・学生の費用負担があります。食費等で0.5～1万円を想定しています。

講義科目 : 医療・健康・福祉実践	単位数 : 2
マークシート略 : [-]	学習形態 : 選択科目
担当 : 楠本 孝	実務経験 : 有

講義の内容・方法および到達目標

- ・この講義科目は、三重大学が実施する事前・事後学習及び現地学習に他大学生とともに参加することになります。
- ・三重県の重要課題である医療・健康・福祉に対して、主に僻地（離島）医療の観点から現地でのフィールドワークを交えた体験型実習を行います。
- ・三重県における社会的事象（僻地医療、地域包括ケア等）を深く理解し、関連する諸分野の知識を統合し、理想的な地域の有り様を探求する。本科目の特徴は合宿型（2泊3日）だという点です。3～5人のグループワークを通して地域課題（「医療・健康・福祉」）を発見し、それについて深い分析・考察を加え、その成果を効果的に表現する事で、自らの考えを社会に還元することを目標とします。
- ・地域住民や社会人といった異なる立場の人たちにインタビューし、その内容に対してグループ討議を経てそれぞれの専門性に則った意見を述べることで主体性を発揮することができます。

授業計画

○事前学習

6月29日（土）10:00～17:00

三重大学において事前学習、地域住民インタビューのやり方

○現地学習（合宿、2泊3日：9月3日～5日）

1日目 志摩市においてフィールドワーク、講義など

2日目 離島フィールドワーク、グループワーク（取りまとめ）など

3日目 離島フィールドワークなど

○事後学習

9月13日（金）13:00～16:00

三重大学においてグループワーク（取りまとめ）、成果報告会

○事後レポート（9月末まで）

※諸事情により実際の授業実施に際しては変更の可能性があります。

教材・テキスト・参考文献等

特になし

成績評価方法

授業や現地合宿への積極的な参加40%、成果発表30%、レポート30%

実務経験

講義プログラムの中に、実務者が実務経験に基づいて講義をする時間が含まれています。

その他

- ・履修希望者が定員を超えた場合は抽選で履修者を決定します。また、履修希望者は授業計画の全日程に参加することを前提として履修申告してください。
- ・学生の費用負担があります。飲食費で5千円程度の予定です。

講義科目	:住生活論	単位数	:2
マークシート略	:[住生活論]	学習形態	:選択科目
担当	:木下 誠一		建築士指定科目
		実務経験	:有

講義の内容・方法および到達目標

人間の生活にとって欠かせない存在である住まいが、風土や家族、社会的・文化的条件など、生活を取り巻く諸条件との関係によって、これまで歴史的にどのように形成されてきたかを学ぶ。また、家族形態の多様化や高齢化、情報化など現代の住生活が抱える課題を理解し、今後の住生活のあり方を考察する力を身に着けることを目標とする。

授業計画

- 1) 住まいと風土 (1)世界の住まい
- 2) " (2)日本の住まい
- 3) 住まいの歴史 (1)近代以前
- 4) " (2)近代以降
- 5) 住まいと生活様式 (1)起居様式
- 6) " (2)食事・入浴慣習
- 7) 住まいと家族 (1)ライフスタイル
- 8) " (2)ライフサイクル
- 9) 住まいの快適性 (1)室内環境
- 10) " (2)維持管理
- 11) " (3)福祉
- 12) 住まいと地域 (1)コミュニティ
- 13) " (2)共同秩序
- 14) " (3)団地再生
- 15) まとめと確認

教材・テキスト・参考文献等

随時、資料を配付する。

成績評価方法

- ・出席を毎回取る。5回以上欠席した場合には評価の対象外とする。
- ・レポートにより評価する（授業時間内に適宜行う）。

実務経験

一級建築士として建築設計事務所に勤務した経験を活かし、授業では実践的な計画・設計手法についても講義する。

講義科目 : 食生活論	単位数 : 2
マークシート略 : [食生活論]	学習形態 : 選択科目
担当 : 山田 徳広	

講義の内容・方法および到達目標

食物栄養学専攻では栄養と食品について体系的に学修するが、生活科学専攻にはそういった機会はない。そこで、生活科学専攻の学生が栄養と食品について必用最小限の知識を幅広く学修することを到達目標とする。食物栄養学専攻の学生については、栄養学と食品学のダイジェスト版の授業となる。

授業計画

- 第1回 DVD：スーパーサイズ・ミー①（過食の恐ろしさ）
- 第2回 DVD：スーパーサイズ・ミー②（過食の恐ろしさ）
- 第3回 栄養とは
- 第4回 栄養と病気に付いて
- 第5回 炭水化物，脂質，たんぱく質について
- 第6回 ビタミンとミネラルについて
- 第7回 色の成分と味について
- 第8回 食品の分類と穀類について
- 第9回 イモ類と豆類について
- 第10回 野菜と果物について
- 第11回 肉と魚と発酵食品について
- 第12回 魚の健康成分と貧血予防の食事について
- 第13回 食物アレルギーについて
- 第14回 日本の食と世界の食事について
- 第15回 最終確認試験

教材・テキスト・参考文献等

適宜配布する。

成績評価方法

平常点と最終確認試験によって評価する。

その他

わからないことがあったら、気軽に質問してください。

講義科目	:社会学	単位数	:2
マークシート略	:〔社会学〕	学習形態	:選択科目
担当	:松田 いりあ		社会福祉士必修科目

講義の内容・方法および到達目標

・21世紀の現代、19世紀から20世紀にかけて社会を支えてきた条件-とりわけ雇用、家族、コミュニティが再編される時期を迎えて久しい。この授業では、かつて自明と思われてきたことがらを社会的に検討し直すことによって、21世紀の社会でともに生きる方法を探究する。

・授業は基本的に講義形式で行うが、随時、授業内課題を実施し、提出された課題をもとに、受講生とともに考える機会を設ける。

・この授業では、受講生が現代社会の課題を知るだけでなく、自分自身で社会問題を把握し行動できるようになることが目標である。

授業計画

- 第1回 はじめに：この授業のねらいの説明
- 第2回 社会学とは何か（1）：伝統社会・近代社会・現代社会
- 第3回 社会学とは何か（2）：社会問題と社会学
- 第4回 自我と社会
- 第5回 家族とライフコース
- 第6回 人口の変化と地域社会
- 第7回 ジェンダーという視点
- 第8回 都市的生活とコミュニティ
- 第9回 グローバル化とエスニシティ
- 第10回 社会集団・組織
- 第11回 社会階級・階層
- 第12回 社会構造と社会変動
- 第13回 現代社会のゆくえ
- 第14回 この授業のまとめ
- 第15回 筆記試験

教材・テキスト・参考文献等

使用しない。授業中に適宜指示する。

成績評価方法

レポート70%、授業内課題30%

その他

成績評価の対象者になるためには、規定の出席回数を満たす必要がある。

講義科目 : 社会調査論	単位数 : 2
マークシート略 : [社会調査]	学習形態 : 選択科目
担当 : 安藤 直樹	社会福祉士必修科目

講義の内容・方法および到達目標

本講義では、社会調査において最もよく使われている質問紙（調査票）調査が行われるプロセスについて紹介します。そして、具体的な事例を用いながら、質問紙（調査票）調査を実施するのに必要な基本的知識と方法を身につけていきます。

また、講義で取り上げる事例をもとに、社会科学的な考え方も養っていきたいと思います。

授業計画

以下の予定で進めていきますが、進捗状況によって変更することもあります。

- 第1回 オリエンテーション（シラバスの内容確認）、社会調査とは
- 第2回 調査の企画と設計①（問題の設定、情報収集の方法）
- 第3回 調査の企画と設計②（仮説の設定）
- 第4回 調査の企画と設計③（測定と尺度水準）
- 第5回 質問紙の作成①（質問文の作成）
- 第6回 質問紙の作成②（回答形式）
- 第7回 質問紙の作成③（質問紙の構成）
- 第8回 サンプリングの考え方と実際（標本調査とサンプリング）
- 第9回 調査の実施とデータ化①（調査の方法）
- 第10回 調査の実施とデータ化②（コーディングとエディティング）
- 第11回 データのまとめ方①（1つの変数の特徴を記述する）
- 第12回 データのまとめ方②（2つの変数の関係を記述する）
- 第13回 データの分析①（母集団の特徴について推測する－推定－）
- 第14回 データの分析②（母集団の特徴について推測する－検定－）
- 第15回 結果のまとめ方（報告書の書き方）

教材・テキスト・参考文献等

テキストは使用せず、必要な資料を適宜配布します。参考文献については授業の中で紹介します。

成績評価方法

出席状況（40%）とレポート（60%）により成績を評価します。授業では毎回出席を確認します。特別な理由なく、出席回数が授業回数の3分の2に満たない場合は評価の対象外となりますので、注意してください。レポートの内容や提出方法については授業の中で詳しく説明します。

その他

データを扱う際に電卓を使用するので、事前に準備しておいてください。電卓を使用する時期については授業の中で指示します。

質問はいつでも受けつけますので、わからないことがあれば遠慮なく聞いてください。

講義科目 :ヘルスカウンセリング論	単位数 : 2
マークシート略 :〔ヘルスカ〕	学習形態 : 選択科目
担当 :河合 加代子	

講義の内容・方法および到達目標

- ① 自分自身の心身の健康について理解を深め、セルフケアの方法を学ぶ。
- ② 対象者の多様な状況に即した柔軟な対応ができるよう、方法や考え方を学ぶ。

授業計画

第1回	ストレスと心身の病①
2回	ストレスと心身の病②
3回	セルフケア
4回	健康づくり運動（健康日本21）
5回	職場における健康問題とサポートの在り方
6回	地域における健康づくりの実際
7回	健康相談の注意点・留意点
8回	H I V等感染症の実態と支援の在り方
9回	問題解決の技法として 認知行動療法的アプローチ①
10回	問題解決の技法として 認知行動療法的アプローチ②
11回	アサーショントレーニングと問題解決法
12回	大規模災害時の生活とケアの実際（避難所での生活支援）
13回	健康問題と集団指導（サイコドラマによるグループワーク）①
14回	健康問題と集団指導（サイコドラマによるグループワーク）②
15回	まとめとレポート

教材・テキスト・参考文献等

参考資料は随時配布します。
参考文献は適宜紹介します。

成績評価方法

毎回、小レポートにより出席を確認し、5回以上の欠席は評価の対象外とします。

講義科目 : 化学	単位数 : 2
マークシート略 : [化学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 山崎 賢二	

講義の内容・方法および到達目標

- ・「食」にたずさわる資格を取得するためには、多くの専門科目を学ばなければなりません。その基礎となる「化学」の知識を身につけることは必要不可欠です。食べ物に関する化学の知識を中心に、高校まで化学をあまり勉強してこなかった学生にも、わかりやすく親しみやすい講義を心がけます。
- ・8つの章、34の節からなる内容です。授業の第8回目に前期中間試験、第15回目に前期末試験を行い、百点法で60点以上の場合に目標の達成とします。

授業計画

第1回	第1章	食品の中身を見る－物質の成り立ちと構成元素
第2回	第1章	食品の中身を見る－物質の成り立ちと構成元素
第3回	第2章	食品中の原子、分子、イオンの重さ
第4回	第3章	食品の状態とその変化
第5回	第3章	食品の状態とその変化
第6回	第4章	食品とエネルギー－生体内の化学エネルギー
第7回	第5章	食品内で起こる変化－化学反応と化学反応式
第8回	前期中間試験	
第9回	第5章	食品内で起こる変化－化学反応と化学反応式
第10回	第6章	食品中の濃度を考える－溶液の濃度とその表し方
第11回	第6章	食品中の濃度を考える－溶液の濃度とその表し方
第12回	第7章	食品中の有機化合物とその働き
第13回	第7章	食品中の有機化合物とその働き
第14回	第8章	食品中の無機化合物とその働き
第15回	前期末試験	

教材・テキスト・参考文献等

- ・テキスト「わかる化学・知っておきたい食とくらしの基礎知識」
松井徳光・小野廣紀著、化学同人発行、ISBN 978-4-7598-0920-6
- ・プリント「知っておきたい食べ物の話」（社）日本化学工業協会

成績評価方法

- ・出席状況把握のため、毎回食物に関するクイズや小テスト等を行います。
- ・15回の授業のうち試験2回を含め10回以上の出席者を評価の対象者とします。
- ・出席点20%、前期中間試験点40%、前期末試験点40%で評価します。

その他

- ・テキストは各自で購入してください。
- ・プリントは配布します。

講義科目 : 数理学	単位数 : 2
マークシート略 : [数理学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 笠 浩一朗	

講義の内容・方法および到達目標

本講義では、微分・積分の基本を復習から始めて、「平均値の定理」、「テイラーの定理」など重要な定理についても紹介する。さらに、偏微分、重積分、微分方程式についても基本的な考え方について解説する。

「微積分」、「2変数関数の微分」、「重積分」、「微分方程式」に関する基礎知識を習得することを、本講義の到達目標とする。

授業計画

- 第1回 微積分とは
- 第2回 数列と関数の極限 (1)
- 第3回 数列と関数の極限 (2)
- 第4回 微分法とその応用 (1)
- 第5回 微分法とその応用 (2)
- 第6回 微分法とその応用 (3)
- 第7回 積分法とその応用 (1)
- 第8回 積分法とその応用 (2)
- 第9回 2変数関数の微分 (1)
- 第10回 2変数関数の微分 (2)
- 第11回 2変数関数の重積分 (1)
- 第12回 2変数関数の重積分 (2)
- 第13回 微分方程式 (1)
- 第14回 微分方程式 (2)
- 第15回 期末試験とまとめ

教材・テキスト・参考文献等

教科書: 江川博康「大学1・2年生のためのすぐわかる数学」(東京図書)

参考文献: 馬場敬之ら「スバラシク実力がつくと評判の微分積分キャンパス・ゼミ」(マセマ出版社)

成績評価方法

- ・ 期末試験を実施する。50%程度成績に反映させる。
- ・ 小テストを毎回実施する。40%程度成績に反映させる。
- ・ 出席を取り、10%程度成績に反映させる。
- ・ 5回以上欠席した場合は、単位認定しない。

その他

高校の「数学Ⅱ」、及び、「数学Ⅲ」で微積分を習っていない学生は、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」の微積分の内容を予習しておくことが望ましい。

講義科目 : 統計学	単位数 : 2
マークシート略 : [統計学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 宮西 基明	

講義の内容・方法および到達目標

- ・大量のデータを整理し、全体の性質を読み取る能力を身につけます。
- ・平均値、標準偏差の求め方、グラフの作成方法を修得します。
- ・統計解析で得られる数値の意味、正規分布、母集団と標本など統計に関する法則、確率と統計について理解を深めていきます。
- ・解説と練習を適宜組み合わせることで進めていきます。

授業計画

- 第1回 代表値：最頻値、中央値、平均値
- 第2回 ばらつきを表す量：範囲、平均偏差、標準偏差
- 第3回 度数分布表の作成
- 第4回 ヒストグラム、平均値と標準偏差の概略値の求め方
- 第5回 様々な分布の形、正規分布
- 第6回 標準正規分布、正規分布表の見方
- 第7回 正規分布の標準化と個数の推定
- 第8回 母集団と標本、標本の選び方、乱数
- 第9回 t分布、t分布表の見方
- 第10回 標本からの推定、平均値の信頼区間
- 第11回 Σ を用いた計算
- 第12回 カイ2乗分布、カイ2乗検定
- 第13回 二項分布と正規分布
- 第14回 回帰直線と相関
- 第15回 まとめと筆記試験

教材・テキスト・参考文献等

- ・教科書：石井俊全著『意味がわかる統計学』ベレ出版。
- ・参考書：入門書として大村平著『今日から使える統計解析』講談社
- ・より専門的な内容の参考書を揃え自主的に学習することを希望します。
- ・随時プリントを配布します。

成績評価方法

- ・欠席は5回以内とし、それ以上は評価の対象外とします。
- ・成績は小テスト30%、筆記試験70%として評価します。
小テストは10回程度を予定しています。小テストは練習と理解度の確認、平常の取り組みも考慮して成績に加点します。

その他

- ・平方根を求めることができる電卓を用意して下さい。
- ・毎回出席をとります。欠席、遅刻のないように注意して下さい。

講義科目 : 日本国憲法 I	単位数 : 2
マークシート略 : [日本憲 I]	学習形態 : 選択科目
担当 : 鎌塚 有貴	

講義の内容・方法および到達目標

講義形式で行う。

日本国憲法の構造と人権保障の内容について理解すること。特に近代立憲主義において人権が果たしてきた重要な役割を意識しながら、現在のグローバル化社会や情報社会における新しい権利保障についても考察すること。

授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 国家と憲法
- 第3回 基本的人権
- 第4回 外国人の人権と人権の国際化
- 第5回 私人間における人権保障
- 第6回 法の下での平等
- 第7回 思想・良心の自由
- 第8回 信教の自由
- 第9回 表現の自由（1）
- 第10回 表現の自由（2）
- 第11回 経済活動の自由
- 第12回 社会権1：生存権
- 第13回 社会権2：教育権
- 第14回 社会権3：労働憲基本権
- 第15回 まとめ

教材・テキスト・参考文献等

芦部信喜『憲法〔第6版〕』（岩波書店、2015年）

加藤一彦・柏崎敏義編『新 憲法判例特選〔第2版〕』（啓文堂、2018年）

成績評価方法

筆記試験100%による。

その他

授業計画については、進行具合によって変更する場合があります。

講義科目 : 日本国憲法Ⅱ	単位数 : 2
マークシート略 :〔日本憲Ⅱ〕	学習形態 : 選択科目
担当 : 鎌塚 有貴	

講義の内容・方法および到達目標

講義形式で行う。

日本国憲法の構造と人権保障の内容について理解すること。特に近代立憲主義において人権が果たしてきた重要な役割を意識しながら、現在のグローバル化社会や情報社会における新しい権利保障についても考察すること。

授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 選挙権
- 第3回 国会の権能
- 第4回 国会の活動
- 第5回 国政調査権
- 第6回 行政権
- 第7回 議院内閣制
- 第8回 司法権
- 第9回 裁判所の組織
- 第10回 司法権の独立
- 第11回 違憲審査制
- 第12回 財政
- 第13回 地方自治
- 第14回 憲法改正
- 第15回 まとめ

教材・テキスト・参考文献等

芦部信喜『憲法〔第6版〕』（岩波書店、2015年）

加藤一彦・柏崎敏義編『新 憲法判例特選〔第2版〕』（啓文堂、2018年）

成績評価方法

筆記試験100%による。

その他

授業計画については、進行具合によって変更する場合があります。

講義科目 : 社会保障法	単位数 : 2
マークシート略 : [社会保障]	学習形態 : 選択科目
担当 : 川崎 航史郎	

講義の内容・方法および到達目標

病気、障害、高齢、失業、育児、介護、労働災害などは、誰にでも生じ、これらをきっかけに容易に貧困に陥る危険がある。これらの状態に遭遇した場合でも、人間らしい生活を送ることを権利として保障するために、憲法は、生存権を保障した。社会保障法は、憲法25条生存権規定を受け、年金、医療、介護、雇用、労災保険などの社会保険制度や福祉サービス提供の仕組みを整え、生活保障を実現する法分野である。本講義は、人々の社会保障に対する権利構造と国等の社会保障実施・生存権保障義務について、講義を行い、法的視点から権利としての生活保障制度を理解することを目的とする。

授業計画

- 第1回 権利としての社会保障受給の意義
- 第2回 社会保障の成立と発展①イギリス
- 第3回 社会保障の成立と発展②日本
- 第4回 国際化と外国籍の社会保障受給権
- 第5回 社会保障法の保障方法(社会保険、社会福祉、社会手当、公的扶助)
- 第6回 生活保護法①生活保護の実態
- 第7回 生活保護法②生活保護の給付構造
- 第8回 生活保護法③保護の補足性
- 第9回 労災補償①労災への使用者の責任
- 第10回 労災補償②労災保険の給付内容
- 第11回 医療保障①医療制度と医療保険
- 第12回 医療保障②医療保険の給付内容
- 第13回 所得保障①年金保険の構造
- 第14回 所得保障②年金保険の給付内容
- 第15回 まとめ(試験)

教材・テキスト・参考文献等

講義初回に指定する。

成績評価方法

平常点20% (リアクションペーパーを用いて、2・3の課題を示すので、それに回答を記入する。質問や感想、復習なども記入し、次週以降に講師から回答を行う。) 、期末試験80%

講義科目 : 地域政策論	単位数 : 2
マークシート略 : [地域政策]	学習形態 : 選択科目
担当 : 小野寺 一成	実務経験 : 有

講義の内容・方法および到達目標

地域政策とは、地域問題を把握し、その解決を図る政策のことである。地域政策は、人口の減少・超高齢化、経済等の国際化、財政の困難等多くの課題に直面しながらも、その地域をより良くしていくよう活性化していくことを目的としている。本講義では、豊かな地域を実現するために必要な社会資本などの国土政策を中心として、県内市町村などの具体例をあげながら講義し、地域の活性化を考えていく基礎知識を身につけることを目標としている。

授業計画

第1回	ガイダンス：地域政策とは、国土のグランドデザイン
2回	社会資本の歴史とその役割
3回	社会資本を取り巻く社会の状況
4回	今後の社会資本のあり方 ー維持管理ー
5回	今後の社会資本のあり方 ー将来を見越した取り組みー
6回	社会資本に関する国土交通行政の方向
7回	観光立国と美しい国づくり
8回	中間試験
9回	東日本大震災からの復興に向けた取り組み
10回	美しく良好な環境の保全と創造
11回	安全・安心社会
12回	競争力のある社会
13回	心地よい生活空間づくり
14回	地域活性化の推進
15回	まとめと確認

※なお、授業の進捗状況によって、内容を変更することもありえる。

教材・テキスト・参考文献等

- ・基本的には、Power Point を使用した講義。ppt資料などを配布。
- ・テーマによっては、DVD 教材などの視聴覚教材の利用を予定。

成績評価方法

- ・中間試験、最終講義時試験、講義後のキーワード、出席をあわせて評価。
- ・1/3以上欠席した場合は評価の対象外、遅刻3回で1回の欠席とみなす。

実務経験

- ・都市計画コンサルタントに勤務し、総合計画、都市計画マスタープラン、住環境整備計画、地区計画、公営住宅建替計画などを策定した。授業では、これらの実務経験を活かした実践的な基礎知識及び計画力の養成に努める。

その他

- ・授業の最後に、当日行った講義の重要なキーワードの回答を求める簡単な小試験を予定。

講義科目 : 行政学	単位数 : 4
マークシート略 : [行政学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 立石 芳夫	

講義の内容・方法および到達目標

本講義は、国＝中央政府を軸とする政治行政制度について取り扱う。日本の制度を主対象としながらも、部分的には主要先進各国の制度についても言及していく。政治行政制度のあり方は、政策を通じてよかれ悪しかれ市民生活に大きな影響を及ぼす。講義は教科書と（その内容を補足する）レジュメに沿って進める。講義の中心テーマは、民主主義的な理念に照らした政治行政制度はどうあるべきか、に設定したい。

授業計画

第1回	講義の概要および序	第16回	戦前日本の政治行政制度
第2回	序	第17回	占領期の政治制度改革
第3回	市民革命と近代国家の成立	第18回	議院内閣制における議会
第4回	近代国家から現代国家へ	第19回	議院内閣制における内閣
第5回	福祉国家とは何か	第20回	府省庁の設置とその仕組み
第6回	福祉国家の形成	第21回	中央省庁等の再編
第7回	福祉国家の発展	第22回	中央省庁等再編の帰結
第8回	福祉国家の危機・再編	第23回	戦前の官吏制度
第9回	福祉国家の現状と今後	第24回	国民主権のもとでの公務員
第10回	近代的公務員制度の確立	第25回	人事院
第11回	近代官僚制とは何か	第26回	公務員の服務など
第12回	官僚制の形式的合理性	第27回	公務員制度改革
第13回	官僚制の実質的非合理性	第28回	政策の形成過程
第14回	行政国家とその問題性	第29回	予算の編成過程
第15回	行政国家を超えて	第30回	まとめ（試験）

教材・テキスト・参考文献等

テキストとして、新藤宗幸『新版 行政ってなんだろう』岩波ジュニア新書、2008年。初回の講義から使用する。

成績評価方法

試験で評価する。出欠は毎回とる。出席率が3分の2を下回る受講生は評価対象外とするので、留意していただきたい。

その他

政治行政のリアルな展開に関する主要情報は、日々ニュース報道で伝えられている。日頃からとくに新聞購読を心がけてほしい。

本講義とあわせて、他の政治学関連の科目（政治学原論・地方政治論・政治史・政治思想史）の履修を勧めたい。

講義科目 : 国際関係論	単位数 : 2
マークシート略 : [国際関係]	学習形態 : 選択科目
担当 : 三瀬 貴弘	

● 講義の内容・方法および到達目標

- ・ 講義内容は、以下の3点である。
 - (1) 国際社会においてまさに今、生じている様々な問題について、政治的・経済的・文化的・歴史的背景を含め、映像を交えて解説する。
 - (2) それらを深く理解するために必要となる、国際関係論の基礎的な理論・考え方を講義する。
 - (3) 理論と現実の相互作用に注目しながら、国際政治経済学の重要概念である国際公共財を援用し、近年の日米関係の実態について講義する。
- ・ 講義方法は、毎回の講義を以下の4部で構成する。
 - ① 15分間「頭の体操」……ドラえもん・サッカー・ドラクエなど身近なテーマから脳トレ風のクイズ形式で頭をほぐしつつ国際関係論を勉強する。
 - ② 55分間「理論講義」……詳細な穴埋め式のレジュメを配布、それに基づいて講義する。
 - ③ 15分間「映像資料」……最新の国際情勢を、映像資料を通じ視覚的に学習する。
 - ④ 5分間「感想記入」……自分なりに講義を総括し、分かったことを文章化し整理する。
- ・ 到達目標は、国際関係論・国際政治経済学に関する基礎知識の習得、ならびにそれに基づく、1980年代以降の日米関係、国際社会の諸問題を把握できるようになること。

● 授業計画 (②55分間の理論講義の内容)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 国際関係とは
- 第3回 国際関係論と国際政治経済学の関係
- 第4回 国際関係論の誕生①
- 第5回 国際関係論の誕生②
- 第6回 リアリズムとリベラリズム①
- 第7回 リアリズムとリベラリズム②
- 第8回 リアリズムの隆盛と行き詰まり①
- 第9回 リアリズムの隆盛と行き詰まり②
- 第10回 学術的政経架橋①
- 第11回 覇権安定論①
- 第12回 覇権安定論②
- 第13回 相互依存論
- 第14回 国際政治学に基づくポスト冷戦秩序の構築
- 第15回 講義のまとめ

- ・ 「③15分間の映像資料」は、日本の安全保障戦略、トランプの外交政策、中東問題、貧困・格差問題、北朝鮮情勢、世界遺産……最新のトピックを随時取り入れる予定。

● 教材・テキスト・参考文献等

- ・ 参考文献 坂井昭夫『国際政治経済学とは何か』青木書店、1998年

● 成績評価方法

- ・ 基本的にレポートのみ(レポート100%)で評価する予定。学生の要望があれば、出席や授業への貢献度も加味する。その場合、講義中に説明するが、最低でもレポートの比重は90%とする。

● その他

- ・ 国際政治にとどまらず、多様な観点から国際関係から勉強するため、専攻を問わず、さまざまな学生の受講を歓迎する。
- ・ 詳細なレジュメを毎回配布するので、講義中に理解できなかった場合、家で復習すること。講義に関する文献を毎回数冊紹介し希望者にその場で貸し出す「講義図書館」を実施する。講義で感じた「何かしらの引っかかり」を契機として、関心ある問題について自主的に勉強するサイクルを確立して欲しい。

講義科目 : 日本経済論	単位数 : 2
マーケット略 : [日本経済]	学習形態 : 選択科目
担当 : 鷲尾 和紀	

講義の内容・方法および到達目標

我が国の経済環境変化は我々にとって生活そのものを変化させている。今日家計や企業を取り巻く環境にはさまざまな課題が表出している。これらの課題を取り組むためにどう経済を読み解くのか事例を交えて解説していく。また新聞記事や各庁が発行する白書の内容が理解できるようになることを目標とする。

授業内容

第1回	オリエンテーション
第2回	現代経済の仕組み
第3回	日本経済の姿・全体像
第4回	日本経済の歩み①～高度経済成長期
第5回	日本経済の歩み②～バブル経済
第6回	日本経済の歩み③～21世紀
第7回	日本経済の歩み④～次世代
第8回	企業活動①～企業とは何か、会社は誰のものか？
第9回	企業活動②～グローバル化、IT化
第10回	少子高齢化と社会保障制度
第11回	労働①～AI化に向けて
第12回	労働②～若年者、女性の就労、人生100年時代の人材育成
第13回	労働③～今日の諸問題―二極化、格差社会
第14回	経済と環境問題
第15回	まとめ、テスト

テキスト

浅子和美・飯塚信夫・篠原総一『入門・日本経済 第5版』 有斐閣、2015年3月

成績評価方法

- ・テスト
- ・出席を毎回していれば自然とテストの点数が取れます。

その他

毎回ではないが簡単な小テストまたはレポートを実施する場合があります。

受動ではなく能動に学生が主体的に考え、教員と学生がコミュニケーションをし、また将来への意識付けができるような授業を目指します。

講義科目 :生活と環境	単位数 :2
マーケット略 :〔生活環境〕	学習形態 :選択科目
担当 :南有哲	

講義の内容・方法および到達目標

地球環境破壊はわたしたちの生活を脅かしつつあるが、わたしたちの生活の在り方もまた、環境破壊を促進していることは明らかである。本講義においては「工業化社会」、「食と環境」、「大量消費社会」、「廃棄物問題」を四つの柱として、上記の問題について考えていく。現実についてのリアルな認識の獲得に資するため、映像資料も適宜利用する予定である。

授業計画

- 第1回 はじめに――生命再生産活動の場としての「環境」
- 第2回 工業化社会と公害問題①
- 第3回 工業化社会と公害問題②
- 第4回 気候変動と食料問題
- 第5回 食料自給率について
- 第6回 遺伝子組換えを考える
- 第7回 生命再生産活動と「消費」
- 第8回 大量消費社会はなぜ到来したか
- 第9回 消費者問題の歴史と現状
- 第10回 消費者運動について
- 第11回 廃棄物問題を概観する
- 第12回 産業廃棄物の不法投棄をめぐって
- 第13回 廃棄物輸出と南北問題
- 第14回 循環型社会を目指して
- 第15回 テスト

教材・テキスト・参考文献等

講義のなかで、適宜指示する。

成績評価方法

- ・毎回の小レポート提出…50%
- ・テスト…50%

講義科目 :被服学	単位数 :2
マーケット略 :〔被服学〕	学習形態 :選択科目
担当 :西川 光子	

講義の内容・方法および到達目標

私たちの生活において一番身近な環境である「衣」

衣服の役割、機能、人体に及ぼす影響、生産、管理、環境問題についての知識を修得することで、何を着用するべきか、経済的で心身共に健康な衣生活を営むことを目標とする。

授業計画

以下の予定で進めていくが、進度によって若干の修正を加えることがある。

第1回	被服の起源	ひとはなぜ装うのか
第2回	被服の変遷	民族服
第3回		被服の変化と流行
第4回	被服の素材	繊維の種類と特徴
第5回		布の性能
第6回	被服の選択	被服の色彩と消費性能
第7回	被服の設計	体型に合う被服
第8回	被服と健康	被服による気候調節
第9回		動作適合性
第10回	被服の管理	品質表示と洗濯
第11回		洗剤の種類と働き
第12回	被服と環境	被服の廃棄とリサイクル
第13回	進化する被服	機能性素材
第14回	身体機能と被服	ユニバーサルデザインと装い
第15回	まとめ・筆記試験	

教材・テキスト・参考文献等

教科書：「消費者の視点からの衣生活概論」 井上書院

成績評価方法

- ・ 毎回出席をとる。全授業回数の3分の2以上の出席がない場合、評価の対象外とする。
- ・ 出席状況、受講態度(20%)、レポート課題2回(20%)、筆記試験(60%)により総合的に評価する。

その他

講義には、主に教科書を使用するが、必要に応じて適宜プリントを配布する。

講義科目	: 調理学	単位数	: 2
マークシート略	: [調理学]	学習形態	: 選択科目
担当	: 平島 円		

講義の内容・方法および到達目標

食品や栄養、調理に関する知識を習得し、調理についての理論を理解することで、調理についての関心度を高める。
また、おいしさにかかわる要因について理解し、おいしく食べるための知識を身につけ、実践できるようになる。

授業計画

- 第1回：おいしさに影響する要因
- 第2回：味と調味料
- 第3回：外観とテクスチャー
- 第4回：味についての調理実験
- 第5回：穀類の調理
- 第6回：澱粉の調理実験
- 第7回：グルテンの調理実験
- 第8回：イモ類・野菜
- 第9回：野菜の調理実験
- 第10回：豆・豆製品の調理
- 第11回：魚介類・食肉の調理
- 第12回：卵、牛乳・乳製品の調理
- 第13回：卵、牛乳・乳製品の調理実験
- 第14回：ゲル化材料の調理
- 第15回：試験

教材・テキスト・参考文献等

教材：授業時に随時配布

テキスト「楽しい食品成分のふしぎ 調理科学のなぜ？」（朝日新聞出版）

参考文献：「基礎調理実習 食品・栄養・大量調理へのアプローチ」（化学同人）

「基礎調理学」（講談社サイエンティフィック）

「食べものと健康IV 調理学」（中山書店）

成績評価方法

授業への取り組み態度 30%、期末試験 70%、計 100%

その他

簡単な調理実験は調理実習室で行うため、上履きを持参する場合あり。

講義科目 :福祉心理基礎演習	単位数 :2
マークシート略 :〔基礎演習〕	学習形態 :選択科目
担当 :北村 香織	実務経験 :有
	* 第1学年で履修

講義の内容・方法および到達目標

この演習は、各自が関心のあるテーマを見つけること及び研究の方法を学ぶことを目的とする。

具体的には、各自で関心のあるテーマについて、レジュメなどを用いながらグループ報告・個人報告を行い、ゼミ内で討議するという形を基本とする。そして、二年次に取り組む卒業論文に向けて、研究課題を明確にしていくことを目指す。

また、基礎的な文章力を身につけていくこと、ゼミ内の討議を通して、意見の述べ方、聞き方について体得することを目指す。

授業計画

第1回 オリエンテーション

第2回 研究とは何か？研究対象とは？

第3回 各自関心テーマの検討

第4回以降 各自テーマ別の報告

グループ報告と個人報告を組み合わせを進めていきます。

報告時、報告者はレジュメを作成し、その後皆で討論をします。

※なお、毎回当番を決めて自分の関心のある新聞記事や出来事について紹介する時間を設けます。

教材・テキスト・参考文献等

特に使用しない。

参考文献は適宜提示。

成績評価方法

出席、報告内容、ゼミへの参加度などを総合的に評価する。

(特に出席は重視する。)

実務経験

障害者支援施設で勤務していたことがあります。実務経験を活かし、討論時には、社会福祉サービス利用者、家族、職員、それぞれの立場からの視点を提示できたらと考えています。

その他

演習は、受講者が中心となって創りあげていくものです。自分が考えていることをまとめる、話す、書く、人の話を聞く、ということを実践できる場ですので、積極的な参加を望みます。

また、問題意識を深めるとともに、短大生活での仲間をつくる場になればと考えています。楽しく、みんなで自分たちのゼミを創っていきましょう。

講義科目 :福祉心理基礎演習	単位数 :2
マークシート略 :〔基礎演習〕	学習形態 :選択科目
担当 :高橋 彩	* 第1学年で履修

講義の内容・方法および到達目標

この演習の目的は、心理学における様々な領域の研究テーマを概観し、心理学の基礎的な知識と心理学的な視点を身につけることである。文献講読を通して、受講者各自が興味をもったテーマについて発表し、それをもとに討論する。

授業計画

- 第1回 ガイダンス 文献の紹介と発表担当の決定
- 第2回 文献講読
- 第3回 発表者による話題提供と討論 (1)
- 第4回 発表者による話題提供と討論 (2)
- 第5回 発表者による話題提供と討論 (3)
- 第6回 発表者による話題提供と討論 (4)
- 第7回 発表者による話題提供と討論 (5)
- 第8回 発表者による話題提供と討論 (6)
- 第9回 発表者による話題提供と討論 (7)
- 第10回 発表者による話題提供と討論 (8)
- 第11回 発表者による話題提供と討論 (9)
- 第12回 発表者による話題提供と討論 (10)
- 第13回 発表者による話題提供と討論 (11)
- 第14回 発表者による話題提供と討論 (12)
- 第15回 全体のまとめ

教材・テキスト・参考文献等

講読する文献は、授業内で紹介する

成績評価方法

発表の内容、作成した資料 (50%) と討論の参加 (50%) で評価する。
試験は行わない。

講義科目	: 福祉心理基礎演習	単位数	: 2
マークシート略	: [基礎演習]	学習形態	: 選択科目
担当	: 武田 誠一		* 第1学年で履修

講義の内容・方法および到達目標

- ① 社会福祉・社会保障についての、基本的な物の見方や考え方についての理解を深めることを目的とします。
- ② 調査・研究のテーマを、各人が選ぶことから始めます。
- ③ 「読む」「聞く」「話す」「考える」をとおして、個人やグループでの学習・研究の基礎を身に付けることを目標とします。

授業計画

	主な内容
1	オリエンテーション 自己紹介、演習の進め方、レポート作成の手順、 レポートの課題
2	情報収集①—大学図書館・インターネットによる情報収集— レポート課題の決定、データベースによる文献調査 (図書・雑誌論文・新聞記事など)、レポートの構成
3	情報収集②—大学図書館における情報収集の実際— 図書館資料(図書・雑誌・雑誌論文)の活用
4	レポートの作成 引用・参考文献の表記のしかた、レポートの執筆 レポートの執筆、校正
5	ハンドアウトの作成 ハンドアウト(配布資料)の作成
6	レポートの発表
7	研究報告書の作成

* なお、受講生の状況などによって内容を変更する可能性がある。

教材・テキスト・参考文献等
後日、指定する。

成績評価方法

調査・研究の発表やゼミでの役割等を総合的に評価します。

その他

「自ら考える」「他者に伝える」、そしてメンバー相互に「学び合う」がゼミの基本です。

みんなといっしょにゼミを楽しく作り上げる、そんな意識で積極的に参加してください。

講義科目	:福祉心理基礎演習	単位数	:2
マークシート略	:〔基礎演習〕	学習形態	:選択科目
担当	:長友 薫輝	* 第1学年で履修	

講義の内容・方法および到達目標

各自が関心あるテーマを発見するサポートをしながら、学ぶための基礎を学ぶ場です。取り組むテーマは各自が自由に設定してください。社会福祉に関連するテーマ以外でも構いません。

なお、本基礎演習は次の3点を重視しています。

①受講生の自主的な行動、②グループでの協同行動を学ぶ場（他人とつながる場）、③社会人として必要な基礎的教養を身につける場、です。

授業計画

- 1) 基礎研究への関心（楽しくおもしろく学ぶために）
- 2) 基礎研究の方法と心得
- 3) 日常生活に問題を発見する
- 4) 生活問題から社会問題への高まり
- 5) 問題意識の醸成を図る
- 6) 協同の楽しさを感じる（グループワークから）
- 7) 社会の出来事と自らとのつながりを知る
- 8) 自らの関心と研究への高まり
- 9) 研究中間報告会
- 10) グループワーク実践
- 11) グループワークの活用方法
- 12) 研究報告書の作成準備
- 13) 研究報告書の作成
- 14) 研究報告書の修正
- 15) 研究報告書の仕上げ

*なお、受講生の状況などによって内容を変更する可能性があります。

教材・テキスト・参考文献等

参考文献や資料は必要に応じて、講義時に配付します。

成績評価方法

自らのテーマについてのゼミ発表や、ゼミへの積極的な参加度などを総合し評価します。

その他

「楽しく・おもしろく」が私の担当する演習の大原則です。そして、「時には少し真面目に」社会の出来事や生活の身の回りのことなどを取り上げて考えてみましょう。

講義科目 : 社会福祉論 I	単位数 : 2
マークシート略 : [社福論 I]	学習形態 : 選択科目
担当 : 長友 薫輝	社会福祉士必修科目

講義の内容・方法および到達目標

社会福祉の理念とその進展、概念の理解を通じて、社会福祉の役割について十分に理解させることを目的とする。さらに、実際に援助者として社会福祉の対象と援助、援助形態についての基本的理解を求める。また、社会福祉の取り組むべき対象とする課題は何か、その課題に対してどのような援助が存在するのかといったことについて理解させる。

授業計画

- 1) 社会福祉を学ぶ意義
- 2) 社会福祉の存在と日本国憲法
- 3) 社会福祉の理念 (人権尊重)
- 4) 社会福祉の理念 (権利擁護)
- 5) 社会福祉の理念 (自立支援)
- 6) 社会福祉の概念
- 7) 社会福祉の範囲
- 8) 社会福祉の役割
- 9) 社会福祉の対象課題
- 10) 社会福祉の援助方法
- 11) 社会福祉の援助形態
- 12) 社会福祉の専門性
- 13) 社会福祉の人権意識
- 14) 社会福祉の職業倫理
- 15) 社会福祉を実生活に活用する

*なお、受講生の状況などによって内容を変更する可能性がある。

教材・テキスト・参考文献等

教科書：追って指示する。

上記以外の参考文献や資料は必要に応じて、講義時に指示または配付する。

成績評価方法

- ① 毎回の講義時の小レポート (40%)
 - ② 小テスト (2回程度) (20%)
 - ③ 筆記試験 (40%)
- 上記の①から③を総合的に評価する。

講義科目	: 社会福祉論Ⅱ	単位数	: 2
マークシート略	: [社福論Ⅱ]	学習形態	: 選択科目
担当	: 脇田 愉司		社会福祉士必修科目
		実務経験	: 有

講義の内容・方法および到達目標

「社会福祉原論」（講師作製の私家版）をテキストにして、社会福祉の根本の考え方や各制度領域における現実の生活・暮らしにつながる全体像を読み込む。利己心や利他心など人間の生命の本性、社会福祉思想のルーツ（原型）や歴史的展開を幅広い視点・次元から題材を用意する。そのうえで、現在の社会福祉全般の問題課題を読み解く力量を身につけることを目標とする。

授業計画

基本的には、次のようなテーマを設定しながら、講義を進めていく。

- 第1回 オリエンテーション、「福祉とは、学ぶとは」「福祉を学ぶとは」
- 第2回 「人間の生命の3つの本性」「ささえあいの人間学」
- 第3回 「現代の姥捨山問題」、「檜山節考」を考える
- 第4回 「福祉国家、社会保障、社会福祉とは」「社会福祉とニード」
- 第5回 「社会福祉の思想のルーツ（原型）と原理—世界の歴史的展開」
- 第6回 「日本の社会福祉の歴史」野本三吉著『社会福祉事業の歴史』から
- 第7回 「老いと生い（おい）—介護保険の光と陰」「認知症を生きる」
- 第8回 「障害、障害者とは何か」、「障害学」とは何か
- 第9回 「貧困・不平等・社会福祉—生活保護の現場から考える」
- 第10回 「風になれ！子どもたち—児童福祉の風景」、児童虐待とは
- 第11回 「地域福祉とコミュニティー共同性のかなたへ」
- 第12回 「地域福祉の創造—ボランティアとNPO活動」
- 第13回 「社会福祉の目指すもの～ノーマリゼーション思想と共生の思想」
- 第14回 「現代社会のゆくえ—魂に触れる福祉の世界」
- 第15回 まとめと確認（レポート等）

教材・テキスト・参考文献等

教科書は「社会福祉原論」講義ノート（私家版）。随時、資料を配布する。

参考書は次のとおり。

『社会福祉事業の歴史』 野本三吉著 明石書店 1998年

成績評価方法

出席、レポートなどにより、総合的に評価する。概ね、出席30%、レポート70%の配分。出席を重視し、原則として、5回以上の欠席は評価外。

毎回、講義終了後に、講義の感想等のアンケートを徴取する。

実務経験

福祉事務所での福祉六法実務経験（査察指導を含む）、社会福祉法人の指導監査を担当する県行政に勤務してきました。また、その後の社会福祉法人の監事、施設職員に対するキャリアパス研修課程の講師等の実務経験を活かし、社会福祉現場の理解促進に努めます。

その他

ひとは何故他者を助けたりするのか、そもそもどうしてひとは他人を支えたりしようとするのか。「福祉を哲学する」ことをベースに、福祉の「内的衝動」を探っていく中で、生きることや学ぶ意味、「生命（いのち）はいのちでしか語れないこと」（いのち論）などを共に考えていきたい。また、「覚える」ことに止まらない、なぜなのかという「考える」ことを重視していきたい。

講義科目	: 老人福祉論	単位数	: 4
マークシート略	: [老人福祉]	学習形態	: 選択科目
担当	: 田中 武士		社会福祉士必修科目

講義の内容・方法および到達目標

日本の総人口およそ1億2,671万人（2017年10月1日現在）のうち65歳以上の高齢者人口は3,515万人、総人口に占める割合（高齢化率）は27.7%と増加しています。また認知症のある高齢者は2025年には約5人に1人になるとも推計されています。高齢者世帯における経済面や健康面における格差はますます拡大し、「貧困」や「介護殺人・心中」、「孤独死」などの問題も引き起こされています。果たして高齢者やその家族を取り巻く環境はどのようになっているのでしょうか。新聞記事や映像教材等も用いて現代社会における高齢者の尊厳ある生活のあり方について考えます。

授業計画

1回	オリエンテーション	16回	後期オリエンテーション
2回	高齢期における保健医療福祉に関する諸問題を知る（1）	17回	高齢者虐待（1）
3回	事例の状況把握と理解	18回	高齢者虐待（2）
4回	高齢期における保健医療福祉に関する諸問題を知る（2）	19回	権利擁護（1）
5回	事例の状況把握と理解	20回	権利擁護（2）
6回	高齢者の心身状況の変化	21回	高齢期における「自立」（1）
7回	認知症とはなにか（1）	22回	高齢期における「自立」（2）
8回	認知症とはなにか（2）	23回	当事者から学ぶ（1）
9回	健康の社会的決定要因（1）	24回	当事者から学ぶ（2）
10回	健康の社会的決定要因（2）	25回	「人生の最終段階における医療・ケア」のあり方を考える（1）
11回	健康の社会的決定要因（3）	26回	「人生の最終段階における医療・ケア」のあり方を考える（2）
12回	高齢者関係施策の歴史と介護保険制度（1）	27回	臨床倫理（1）
13回	高齢者関係施策の歴史と介護保険制度（2）	28回	臨床倫理（2）
14回	戦争と高齢者	29回	高齢者の生活保障
15回	前期まとめ	30回	後期まとめ

※受講生の状況によって内容を変更することがある。

<教材・テキスト・参考文献等>

- ・ 指定のテキストは使用しない。適宜レジュメと資料を配布する。参考文献は下記参照。ほかにも随時紹介する。
- ・ 鷲田清一（2015）『老いの空白』岩波書店
- ・ 近藤克則（2005）『健康格差社会 何が心と健康を蝕むのか』医学書院
- ・ 杉本敏夫・家高将明編（2018）『高齢者福祉論（第2版）』ミネルヴァ書房

<成績評価方法>

- ・ 授業への参加姿勢、毎授業終了後の小レポート（50%）
- ・ 後期の期末レポート（50%）
- ・ 討論と発表を重視

<その他>

- ・ 授業中の私語やスマートフォンの操作は厳禁。単位取得は容易ではないので受講登録にあたっては十分留意すること。
- ・ 主体的な姿勢での授業参加を求める。

講義科目 : 障害者福祉論	単位数 : 2
マークシート略 : [障害福祉]	学習形態 : 選択科目
担当 : 北村 香織	社会福祉士必修科目
	実務経験 : 有

講義の内容・方法および到達目標

この講義では、「障害」を社会との関係でとらえていくことによって、「障害」とは何か、「障害者」とは誰のことを指すのか、自分の生活と「障害者福祉」がどのようなかかわりを持つのかを学ぶ。

講義中はビデオや資料を積極的に使用し、障害のある人の生活に目を向けると同時に、障害に関する医学的及び制度的な知識を身につけることを目的とする。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「障害」という概念について
- 第3回 障害のある人の生活（身体障害とは？）
- 第4回 障害がある人の生活（知的障害とは？）
- 第5回 障害がある人の生活（精神障害とは？）
- 第6回 障害がある人の生活（発達障害とは？）
- 第7回 障害がある人の生活（障害のある子どもと家族）
- 第8回 優生思想と障害学
- 第9回 障害者総合支援法
- 第10回 障害がある人の生活を支えるサービス体系
- 第11回 障害に対する社会意識 ― 偏見・スティグマ・差別
- 第12回 障害者差別解消法
- 第13回 障害者福祉を支える理念・思想 1
- 第14回 障害者福祉を支える理念・思想 2
- 第15回 まとめ

教材・テキスト・参考文献等

竹端寛他編（2017）『障害者福祉 第2版』ミネルヴァ書房。

参考文献は適宜提示。資料は必要に応じて配布。

成績評価方法

小テスト：10%、試験：90%。

実務経験

障害者支援施設で生活支援員として勤務していたことがあります。実務経験を活かし、特に知的障害者及び発達障害者の生活支援に関する課題などについて重点的に取りあげたいと思います。

その他

出席は重視しません。講義へは自分のため出席して下さい。

自分の周りには想像しているよりも多く「生きづらさ」を抱えている人がいることを知り、「障害」とは何か？ということや、自分が「障害」をどうとらえているのかということに向き合って考えてほしいと思います。そして、自分の考えや態度が人々にとって生きやすい社会を創ることにつながっていることを実感してもらえればと思います。正解はありません。一緒に考え、講義を創っていただけることを期待します。

講義科目 : 児童福祉論	単位数 : 2
マークシート略 : [児童福祉]	学習形態 : 選択科目
担当 : 笠松 成夫	社会福祉士必修科目

講義の内容・方法および到達目標

- 1 現代社会における児童の成長・発達と生活実態について理解すると共に、児童福祉の社会的背景における愛着・愛着障害・虐待・DV について理解する。
- 2 現代社会における児童福祉の理念と意義について理解する。又、子どもへの自尊感情を子育ての中にどう組み入れるか、子どもへの自信、子育て環境を親が確保していくには…子どもは言うようにはならず親のするようになる…その方法を皆で学ぶ。
- 3 人生と社会を左右する乳幼児期のケア 3 歳、三つ子の魂百歳まで…現代の子育てを考える。
- 4 児童虐待と脳萎縮について理解を深める(不適切な養育は子どもの身体的・精神的発達を阻害する可能性)。
- 5 児童家庭の福祉・保健・医療に関わる施策を理解する。
- 6 国は「児童福祉法及び児童虐待の防止等に関する法律」を一部改正する法律(平成 29 年 6 月 14 日成立)更に「新しい社会的養育ビジョン」(平成 29 年 8 月 2 日厚生労働省より公表)の理解とその課題

授業計画

以下の予定で進めていくが、進み具合によって若干の修正を加えることがある。また、やむを得ず休講した場合には原則として補講で対応する。

- 第 1 回 現代社会と児童：人間の成長・発達と児童・家族と児童・社会と児童
- 第 2 回 現代社会と児童福祉：児童福祉理念の発達・概念と範囲
- 第 3 回 現代社会と子ども家庭：現代社会と子ども家庭環境の問題・子ども育ち、愛着
- 第 4 回 ボルビーの愛着：愛着障害について
- 第 5 回 子ども家庭に関わる福祉・保健：ひとり親家庭の福祉・児童健全育成・保育
- 第 6 回 児童の権利及び児童虐待：マルトリートメント(不適切な養育)の原因とその現状・養護施設とケース
- 第 7 回 児童の権利及び児童虐待：マルトリートメントと発達障害・心の成長
- 第 8 回 児童の権利及び児童虐待：マルトリートメントとトラウマ・DV・デートDV
- 第 9 回 児童の権利及び児童虐待：マルトリートメントにおける脳萎縮とトラウマが後々の人生を左右する
- 第 10 回 児童の権利及び児童虐待：マルトリートメントとアタッチメント
- 第 11 回 児童の権利及び児童虐待：マルトリートメントと家庭支援等をグループワークする
- 第 12 回 児童福祉に関する法の目的、：児童福祉法・母子及び寡婦福祉法・母子福祉法・その他関連法規
- 第 13 回 児童に対する保健・医療・福祉サービスの現状：在宅サービス・福祉サービス
- 第 14 回 児童のための地域及び住環境の整備と福祉用具：地域及び住環境の整備・福祉用具
- 第 15 回 児童に対する相談援助活動：相談援助活動をすすめるうえでの留意点・具体的事例とジェノグラム・エコマップ・まとめと確認

教材・テキスト・参考文献等 教科書は使用しない。参考文献は適宜紹介するが、以下 4 点を示す。

- ① 西澤 哲 著者 子どもの虐待と被虐待児への臨床心理的アプローチ
- ② 子ども虐待の防止とケア研究会 編著 子ども虐待の防止とケアのすべて 第一法規
- ③ 子ども虐待虹情報センター「1890 年代別子ども虐待」
- ④ 友田 明美 著者 児童虐待と傷ついていく脳「いやされない傷」…他

成績評価方法

- 1, 出席を毎回取る。5 回以上欠席した場合には評価の対象外とする。
- 2, レポート及び小レポート

その他(学生へのメッセージ)

子育ての分野で親子の絆、愛着、子育て環境について考え、これからの社会をどう見直し、学生が青年期を迎え子育てしやすい社会作りとは何かを創作していく。また児童虐待の相談受理件数が平成 29 年度で 13 万 3,778 件等、子どもの権利侵害の状況は深刻化しており、犠牲になった子どもの心身の回復や自立支援を含めて社会的養護の体制整備が課題となっている。社会的養護の対象となる約 4 万 5 千人(平成 30 年 6 月現在)児童養護施設実態・ケースに触れ、虐待や貧困の連鎖を断つ…には、子どもの本当の安心基地は…? その取り巻く環境で大人として子どもへのモデル化をどのようにしていけばいいか、グループワークでマルトリートメントについて一人ひとりの意見を出し合っって人間関係を深める。

講義科目 : 社会保障論 I	単位数 : 2
マークシート略 : [社保論 I]	学習形態 : 選択科目
担当 : 長友 薫輝	社会福祉士必修科目

講義の内容・方法および到達目標

私たちの生活を支えている社会保障の成立過程の理解を土台とし、現状と課題を分かりやすく説明し体系的に社会保障を理解させることを目的とする。

あわせて現行の5つの社会保険のうち、本科目では医療保険、年金保険、雇用保険、労災保険を中心に講義する。

授業計画

- 第1回 社会保障、社会福祉の定義
- 第2回 社会保障の歴史（イギリスの救貧行政）
- 第3回 社会保障の歴史（ドイツの社会保険の登場）
- 第4回 資本主義社会と社会保障（イギリス、ドイツの社会保障史）
- 第5回 資本主義社会と社会保障（フランスの社会保障史）
- 第6回 年金保険の現状
- 第7回 年金保険の課題
- 第8回 社会保障協定
- 第9回 雇用保険の現状と課題
- 第10回 労災保険の現状と課題
- 第11回 働く時のルールを知る（雇用、労働の現状と課題）
- 第12回 公的医療保険と民間医療保険
- 第13回 皆保険体制下での医療保険の現状
- 第14回 医療保険の課題
- 第15回 これからの社会保障

* 受講生の状況等によって進行速度を調整するため、内容を変更することがあります。

教材・テキスト・参考文献等

参考資料等は適宜、配付する。

参考文献) 『いま地域医療で何が起きているのか』旬報社、2018年
『新しい国保のしくみと財政』自治体研究社、2017年

成績評価方法

- ① 毎回の講義時の小レポート（40%）
 - ② 小テスト（2回程度）（20%）
 - ③ 筆記試験（40%）
- 上記の①から③を総合的に評価する。

その他、学生へのメッセージ

本講義はみなさんにとって聞き慣れない用語を使用しなければなりませんが、みなさんにとってこの社会で生きる上で必要な知識、知見ばかりです。できるだけわかりやすく講義することに努めたいと思います。

講義科目 : 社会保障論Ⅱ	単位数 : 2
マークシート略 : [社保論Ⅱ]	学習形態 : 選択科目
担当 : 長友 薫輝	社会福祉士必修科目

講義の内容・方法および到達目標

「社会保障論Ⅰ」において社会保障の歴史、社会保障の体系等を学んだ学生を対象に、公的扶助（生活保護）との関係性、社会政策の構造的理解の促進を図り、社会保障のそれぞれの制度や施策に対する理解をさせる。

また、ソーシャルワーカーとして社会保障の最低限の知識、知見を身につけるとともに、社会保険の中でも介護保険、医療保険を中心に現行制度の把握ができるようにする。

なお、「社会保障論Ⅰ」を履修し単位取得した者のみを対象とします。

授業計画

第1回	社会保障の成立過程
第2回	年金保険と民間保険
第3回	公的年金保険の役割
第4回	公的年金と生活保障
第5回	公的扶助との関係性から社会保障を理解する
第6回	最低賃金との関係性から社会保障を理解する
第7回	社会政策と社会保障
第8回	社会政策の意義と役割
第9回	地域包括ケア構想と介護保険
第10回	介護保険制度の創設
第11回	介護保険制度の意義と役割
第12回	介護保険と医療保険
第13回	医療・介護をめぐる政策動向を知る
第14回	地域における医療・介護と生活拠点
第15回	これからの社会保障

*受講生の状況等によって進行速度を調整するため、内容を変更することがあります。

教材・テキスト・参考文献等

参考資料等は適宜、配付する。

参考文献) 『いま地域医療で何が起きているのか』旬報社、2018年
『新しい国保のしくみと財政』自治体研究社、2017年

成績評価方法

- ① 毎回の講義時の小レポート（40％）
- ② 小テスト（2回程度）（20％）
- ③ 筆記試験（40％）

上記の①から③を総合的に評価する。

* 「社会保障論Ⅰ」を履修し単位取得した上で、本科目を履修してください。

講義科目 : 公的扶助論	単位数 : 2
マークシート略 : [公的扶助]	学習形態 : 選択科目
担当 : 脇田 愉司	社会福祉士必修科目
	実務経験 : 有

講義の内容・方法および到達目標

社会福祉士養成標準テキストブック「公的扶助論」を基本テキストにして、最新の情報を加え、読み込む。生活保護制度の原理原則、運用解釈、保護の実施体制、保護動向、援助過程、貧困の周辺政策等、その他全体像の理解を深める題材を用意する。そのうえで、ソーシャルワーカーとして制度疲労やステイグマの問題課題を読み解く力量を身につけることを目標にする。

授業計画

基本的には、次のようなテーマを設定しながら、講義を進めていく。

- 第1回 オリエンテーション、「福祉とは、学ぶとは、公的扶助とは」
- 第2回 公的扶助とソーシャルワーカー
- 第3回 貧困・低所得者問題とは何か
- 第4回 福祉国家と公的扶助
- 第5回 わが国の公的扶助（生活保護制度）の歴史
- 第6回 生活保護制度の原理原則（生存権）、保護基準
- 第7回 生活保護の実施体制と援助方法
- 第8回 福祉事務所の組織・運営、生活保護における援助活動
- 第9回 被保護層の動向と課題
- 第10回 新しい貧困対策法の成立（子どもの貧困対策法ほか）
- 第11回 低所得・貧困層への自立支援政策（自立支援プログラム）
- 第12回 生活保護法改正と生活困窮者自立支援法制定
- 第13回 低所得・貧困層への他の政策（ホームレス自立支援政策等）
- 第14回 これからの公的扶助とソーシャルワーカー
- 第15回 まとめと確認（レポート等）

教材・テキスト・参考文献等

教科書は、次のとおり指定する。

『公的扶助論（第3版）』－低所得者に対する支援と生活保護制度－
岩田正美・杉村宏編著 ミネルヴァ書房 2016年

参考書は次のとおり。適宜追加の資料を配布する。

『貧困問題とソーシャルワーク』社会福祉基礎シリーズ⑩公的扶助論 有斐閣

成績評価方法

出席、レポートなどにより、総合的に評価する。概ね、出席30%、レポート70%の配分。出席を重視し、原則として、5回以上の欠席は評価外。

毎回、講義終了後に、講義の感想等のアンケートを徴取する。

実務経験

福祉事務所生活保護ケースワーカー、生活保護行政・監査業務を担当する県行政に勤務していました。実務経験を活かし、授業では、現場の実践的状況から、公的扶助を援助の「武器」とするソーシャルワーカーの養成に努めます。

その他

最近の「生活保護バッシング、セーフティネットのゆらぎ等」はどこからきているのか。人間にとって「貧困」とはどのようなことを意味するのか。「この世に一人の不幸な人間がいる限り、この世界は不正義である」という視点から、共に考えていきたい。

講義科目 : 地域福祉論 I	単位数 : 2
マークシート略 : [地福論 I]	学習形態 : 選択科目
担当 : 水谷 久	社会福祉士必修科目
	実務経験 : 有

講義の内容・方法および到達目標

地域福祉における住民参加型福祉の創造と住民主体の地域福祉の創造について授業を進めます。また、この授業では、地域福祉の理念や歴史、地域における高齢者・児童・障がい者・困窮者等の生活と暮らしに焦点をあて、誰もが安心して暮らせる地域づくりについて考えながら、地方自治体・社会福祉法人・社会福祉協議会、住民組織・NPO・ボランティアなどの機関・団体の役割と機能、その現状や課題について理解を深めることを目標とします。

授業計画

第1回	オリエンテーション	(地域福祉の基本的な考え方)
第2回	地域福祉について	(地域福祉と地域福祉活動について)
第3回	地域福祉について	(地域社会の変化)
第4回	障がい者の地域生活の課題	(安心して暮らせる地域とは)
第5回	地域福祉の課題	(地域交流と地域福祉の推進)
第6回	地域福祉の課題	(健康管理対策の充実)
第7回	地域福祉活動計画について	(地域の課題・テーマ・基本目標)
第8回	地域福祉活動計画(演習Ⅰ)	(安心して子育てができる地域)
第9回	地域福祉活動計画(演習Ⅱ)	(誰もが自分らしく暮らせる地域)
第10回	地域福祉活動計画(演習Ⅲ)	(住民主体による地域福祉の推進)
第11回	地域自立支援協議会	(地域自立支援協議会の概要)
第12回	地域自立支援協議会	(地域自立支援協議会の役割)
第13回	障がい者が地域で犯罪を犯したとき	(地域社会に求められるもの)
第14回	地域の役割	(自助・共助・公助)
第15回	支援が必要な方への地域福祉について	(地域福祉のまとめ)

教材・テキスト・参考文献等

- ・講義については、それぞれの單元ごとに必要なプリントを作成し、授業を進めていく予定です。国家試験対策として、新・社会福祉士養成講座第9巻「地域福祉の理論と方法」(中央法規出版)を紹介しておきます。

成績評価方法

- ・毎回出席をとります。
- ・全授業回数の3分の2以上の出席がない場合、評価の対象外とします。
- ・成績はレポート課題又は試験を中心にして、出席状況や学習態度などから総合的に判断します。

実務経験

- ・社会福祉法人に勤務。法人運営管理及び障がい者の人権擁護や地域福祉支援を担当。障がい者相談支援センター長及び地域自立支援協議会委員並びに地域福祉活動計画策定作業部会委員等の実務経験をもとに社会福祉士として地域福祉について授業を行います。

その他

- ・自らの居住する地域に関心を持って受講してもらいたいことを願います。
- ・授業の状況等により、内容を変更することもあります。

講義科目 : 地域福祉論Ⅱ	単位数 : 2
マークシート略 : [地福論Ⅱ]	学習形態 : 選択科目
担当 : 長友 薫輝	社会福祉士必修科目

講義の内容・方法および到達目標

本講義は地域福祉論Ⅰに続き、地域で生じている様々な問題について社会福祉と連結させて分析を図るものである。

まちづくりを担う一員として、学生の積極的参加をもとに福祉のまちづくりの実例などを紹介し、地域福祉の援助技術についても理解させ、地域福祉の課題、展望について検討する。

授業計画

- 1) 地域福祉とは何か
- 2) 地域福祉の意義
- 3) 地域福祉の役割
- 4) 地域格差の実態
- 5) 地域格差と地域づくり
- 6) 地域調査と生活実態
- 7) 地域調査から地域づくりのヒントを得る
- 8) まちづくりへの主体的参加
- 9) まちづくりの担い手
- 10) 担い手となって支えるには
- 11) まちづくりの多様性
- 12) 地域福祉の課題
- 13) 地域福祉と地域経済
- 14) 地域福祉と内発的発展
- 15) 地域福祉の展望

*なお、受講生の状況などによって内容を変更する可能性がある。

教材・テキスト・参考文献等

(参考文献)

岡田知弘『行け行け！わがまち調査隊～市民のための地域調査入門～』自治体研究社、2009年

成績評価方法

- ① 毎回の講義時の小レポート (40%)
- ② 小テスト (2回程度) (20%)
- ③ 筆記試験 (40%)

上記の①から③を総合的に評価する。

その他

① 地域福祉論Ⅰを受講し、単位取得した者のみ受講を認める。

② 自らの居住する地域に対する関心を持って受講すること。また、単位取得は容易ではなく、受講生には積極的な授業への参加を求める。

講義科目 : 社会福祉援助技術総論	単位数 : 4
マークシート略 : [援助総論]	学習形態 : 選択科目
担当 : 武田 誠一	社会福祉士必修科目
	実務経験 : 有

講義の内容・方法および到達目標

ソーシャルワークと呼ばれる専門的援助実践・専門職の実情や役割および機能、多様な実践の共通課題、その歴史的経過や諸理論を学ぶことを通じて、社会福祉実践におけるソーシャルワークを理解するとともに、専門的援助者としての視点の涵養をはかることを目標とする。

授業計画

1	オリエンテーション (授業の進め方、評価方法の説明、学びの内容)	16	ソーシャルワークの価値Ⅱ
2	現代社会における社会福祉制度とソーシャルワーク	17	ソーシャルワークの倫理Ⅰ
3	現代社会におけるソーシャルワークの役割と意義	18	ソーシャルワークの倫理Ⅱ
4	ソーシャルワークの定義	19	ソーシャルワークの価値と倫理Ⅰ
5	ソーシャルワークの範囲と領域	20	ソーシャルワークの価値と倫理Ⅱ
6	ソーシャルワークの構成要素	21	ソーシャルワークの価値と倫理Ⅲ
7	ソーシャルワークの形成過程Ⅰ	22	ソーシャルワーク固有の視点
8	ソーシャルワークの形成過程Ⅱ	23	ソーシャルワークと権利擁護
9	ソーシャルワーカーと自己覚知Ⅰ(自己覚知)	24	ソーシャルワークの資格制度
10	ソーシャルワーカーと自己覚知Ⅱ(自己覚知)	25	ソーシャルワーカーの活動分野Ⅰ
11	ソーシャルワーカーと自己覚知Ⅲ(スーパービジョン)	26	ソーシャルワーカーの活動分野Ⅱ
12	ソーシャルワークにおける利用者理解Ⅰ (対象者理解)	27	ソーシャルワーカーの活動分野Ⅲ
13	ソーシャルワークにおける利用者理解Ⅱ (生活問題とニーズ)	28	包括的なソーシャルワーク
14	ふりかえり	29	連携とチームアプローチ
15	ソーシャルワークの価値Ⅰ	30	まとめと確認

教材・テキスト・参考文献等

テキスト『わたしたちの暮らしとソーシャルワーク1』、保育出版社、2016年。

参考書 授業時に適宜紹介する。

成績評価方法

ふりかえり、まとめと確認、レポートなどを基に総合的に評価します。

実務経験

在宅介護支援センター、病院での実務経験に基づき、ソーシャルワークの価値と倫理について教授していきます。

その他

ソーシャルワークに関する基礎的な科目です。基本的な知識や態度についてしっかりと身につけてください。

なお、授業ではグループワーク、個人発表など能動的な学習を行います。

講義科目 : 社会福祉行財政論	単位数 : 2
マークシート略 : [福祉行財]	学習形態 : 選択科目
担当 : 宮川 一夫	社会福祉士必修科目

講義の内容・方法および到達目標

- ・日本の総人口が減少する中、少子化が進むとともに、急速に高齢化が進んでいる。このような状況の中、保健福祉サービスのニーズの増大、社会福祉の担い手の減少、社会保障関係費の増嵩など、著しく変化していく社会情勢を知り理解することは生活するうえで大変重要である。
- ・福祉専門職の多くは、社会福祉現場における個別援助に従事すると考えられるが、その基礎となる法制度や財政の仕組みを知っておくことにより、今後の社会環境の変化に的確に順応していけるようになることを目標にする。

授業計画

- ・以下の計画で進めていくが、講師自身が、実際の社会福祉行財政現場においてやってきたこと、経験してきたこと、どのように社会環境の変化に対応してきたかということ等を話すとともに、ゲストスピーカーにも来てもらう等分かりやすい講義にしたい。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 社会福祉の概念とその変遷 ～ 世の中には色々な人が
- 第3回 社会福祉制度の展開 ～ 戦後復興・超高齢社会への対応
- 第4回 福祉財政の動向 ～ 福祉を進めるためのお金
- 第5回 福祉行政の構造 ～ 福祉サービスは身近なところで
- 第6回 社会福祉基礎構造 ～ その人らしく
- 第7回 福祉援助の実施・提供機関 ～ 実際の現場はこんなところ
- 第8回 福祉計画の目的と意義 ～ 目標を持って
- 第9回 福祉計画の視点、プロセス、評価 ～ お客様満足をめざして
- 第10回 高齢者福祉と老人福祉計画・介護保険事業計画 ～ 2025年
- 第11回 障害福祉と障害者計画・障害福祉計画 ～ 私たち抜きで決めないで
- 第12回 児童福祉と次世代育成支援行動計画 ～ 子どもは社会の宝
- 第13回 母子寡婦福祉とDV防止法 ～ デートDV知ってますか
- 第14回 地域福祉と住民参加・まちづくり ～ 高福祉は高参加で
- 第15回 まとめ

教材・テキスト・参考文献等

- ・授業は、講師作成のレジュメにより進める。
- ・参考文献等は、社会福祉士養成講座編集委員会「福祉行財政と福祉計画」中央法規や下記の行政組織のホームページのほか、授業において別途紹介する。
 - 厚生労働省： 厚生労働白書
 - 財務省： 日本の財政関係資料、
財政学習教材「日本の財政を考えよう」
 - 三重県： みえ高齢者元気かがやきプラン、
みえ障がい者共生社会づくりプラン

成績評価方法

- ・レポート（40%）及び出席回数（60%）として評価する。
10回以上授業に出席しないと評価の対象外とする。

講義科目 : 医療福祉論	単位数 : 2
マークシート略 : [医療福祉]	学習形態 : 選択科目
担当 : 武田 誠一	社会福祉士必修科目
	実務経験 : 有

講義の内容・方法および到達目標

保健医療サービス、医療保険制度(診療報酬制度に関する内容を含む)を体系的に学び、保健・医療分野でのソーシャルワーカーの役割を理解する。

また、福祉サービス及びこれに関連する専門職の役割、多職種協働について理解することを目標とする。

授業計画

1	オリエンテーション 医療福祉とは何か	9	保健医療サービスの概要と機能分化
2	保健医療実践現場での ソーシャルワーク	10	在宅医療と地域医療連携
3	医療ソーシャルワークの具体的展開 「医療ソーシャルワーカー業務指針」	11	保健医療サービスにおける 専門職の役割と実際
4	医療ソーシャルワークの対象者理解	12	医療ソーシャルワークの実践(1)
5	医療ソーシャルワークに必要な 医療保険制度の理解-1	13	医療ソーシャルワークの実践(2)
6	医療ソーシャルワークに必要な 医療保険制度の理解-2	14	医療ソーシャルワークの実践(3)
7	医療ソーシャルワークに必要な 診療報酬制度の理解-1	15	まとめと確認
8	医療ソーシャルワークに必要な 診療報酬制度の理解-2		

教材・テキスト・参考文献等

中島裕 編 「保健医療サービス」 ミネルヴァ書房、2017年。

参考文献等

『人は、永遠に輝く星になれない』 山田宗樹、小学館文庫、2011年。

『医療ソーシャルワーカーのカー 患者と歩む専門職』 村上須賀子(他)、日本医療ソーシャルワーク学会、2012。

『これがMSWの現場です- 医療ソーシャルワーカーの全仕事 心に寄り添う技術ケーススタディ40』 菊地 かほる、医学通信社、2010。

成績評価方法

評価は、まとめと確認(40点)、ミニレポート(30点)、新聞レポート(30点)の配点で評価します。

実務経験

在宅介護支援センター、病院での実務経験に基づき、医療保健分野のソーシャルワークについて教授していきます。

その他

日ごろから医療保険制度・社会保障制度に関する報道などに関心を持っていると講義を理解する手助けになると思います。 *原則2年生を対象とします。

講義科目 : 医学知識	単位数 : 2
マークシート略 : [医学知識]	学習形態 : 選択科目
担当 : 福田 洋子	社会福祉士必修科目
	実務経験 : 有

講義の内容・方法および到達目標

ヒトの身体の構造・機能・病気の起こる機序について理解し、普通よく見られる疾患について学ぶ。学習を通し自分自身の身体について理解を深め、健康維持について考えていけることを目標にする。

授業計画

第1回	オリエンテーション、人体の構造の理解：細胞と組織・器官、器官系、筋骨格系、循環器系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、神経系、感覚器系 人体の構造の概要、人体各部位の名称
2回	筋骨格器疾患 骨粗鬆症、変形性関節症
3回	循環器系と疾患、不整脈、狭心症、心筋梗塞、心不全、高血圧 癌、免疫・アレルギー疾患
4回	血液と疾患 貧血、血液凝固異常、白血病、リンパ腫
5回	腎臓・泌尿器系と疾患 糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、 尿路感染症
6回	呼吸器系と疾患、肺炎、慢性閉塞性肺疾患
7回	消化器系と疾患、肝臓・胆嚢・膵臓の疾病 胃食道逆流症、 胃・十二指腸潰瘍、肝炎、肝硬変、胆嚢炎、消化器系の腫瘍
8回	演習：各器官の名称と疾病等の確認、健康の概念
9回	脳・脊髄・神経系と疾病
10回	脳・脊髄・神経系と疾病 脳卒中、脳出血と脳梗塞、神経変性疾患（パーキンソン病ほか）
11回	内分泌系と疾患 糖尿病1型と2型、肥満、痛風、 先天性代謝疾患（フェニルケトン尿症など）
12回	生殖器系と疾病、悪性腫瘍等
13回	感覚器、眼・耳・鼻・のどの疾病、皮膚と疾病、
14回	知的障害、精神障害と疾病
15回	まとめと試験

教材・テキスト・参考文献等

*新・社会福祉士養成講座1第3版 中央法規出版
「人体の構造と機能及び疾患」

成績評価方法

授業の取り組み10%、試験60%、課題30%

実務経験

大学病院に12年間勤め、その後介護福祉士養成の教育に携わっております。実務経験を活かし、授業では実践に役立つ知識の養成に努めます。

その他

医学的な知識は誰にでも必要です。病気のことを良く知り、健康な生活を送れるよう知識を深めましょう。社会福祉士の国家試験に必要な医学知識も深めましょう。

講義科目 : 介護概論	単位数 : 2
マーケット略 : [介護概論]	学習形態 : 選択科目
担当 : 田中 武士	社会福祉士必修科目

講義の内容・方法および到達目標

「介護」という言葉にはどのような意味があるのでしょうか。この言葉の意味を広く捉え人間の尊厳とは何かについて考えます。また人々の生活における「自立」の意義を検討しながら関連する制度や施策を学びます。さらには現代におけるケアのあり方について新聞記事や映像教材なども用いながら高齢者や子ども、障がいのある人など分野を横断して学習を進め、自らの考えを深め共有することを目標とします。

授業計画

- ① オリエンテーション
- ② 介護とは何か（１）
- ③ 介護とは何か（２）
- ④ ケアをめぐる現状と課題（１）
- ⑤ ケアをめぐる現状と課題（２）
- ⑥ 高齢者介護の現場から考える（１）
- ⑦ 高齢者介護の現場から考える（２）
- ⑧ 障がい児・者へのケア（１）
- ⑨ 障がい児・者へのケア（２）
- ⑩ ケアにおける倫理（１）
- ⑪ ケアにおける倫理（２）
- ⑫ 市民と専門職との協同
- ⑬ 「地域包括ケアシステム」について考える（１）
- ⑭ 「地域包括ケアシステム」について考える（２）
- ⑮ 試験

※受講生の状況によって内容を変更することがある。

<教材・テキスト・参考文献等>

- ・ 指定のテキストは使用しない。適宜レジュメと資料を配布する。参考文献は下記参照。ほかにも随時紹介する。
- ・ 広井良典編（2013）『ケアとは何だろうかー領域の壁を越えて』ミネルヴァ書房
- ・ ファビエンヌ ブルジュール（2016）『ケアの社会 個人を支える政治』風間書房
- ・ 松田美智子ら編（2018）『介護福祉学概論 地域包括ケアの構築に向けて』クリエイツかもがわ

<成績評価方法>

- ・ 授業への参加姿勢、毎授業後提出の小レポート（50%）
- ・ 期末試験（50%）
- ・ 討論と発表を重視

<その他>

- ・ 授業中の私語やスマートフォンの操作は厳禁。単位取得は容易ではないので受講登録にあたっては十分留意すること。
- ・ 主体的な姿勢での授業参加を求める。

講義科目 : 社会福祉発達史	単位数 : 2
マークシート略 : [発達史]	学習形態 : 選択科目
担当 : 北村 香織	実務経験 : 有

講義の内容・方法および到達目標

イギリスと日本における社会福祉（思想・政策・事業）の歴史的展開を考察する（特にイギリスを重点的に扱う）。

現在、政治においても社会福祉を含む社会保障制度の在り方は大きな争点となっている。この講義では、その現状を的確にとらえ、最善の判断をし、さらに新しい仕組みを創造していく為の基礎的な力と視点を養うことを大きな目標としている。

そのため、随時時事問題も取り入れながら講義を進め、理解を深める。私たちの生活と密接に関わる制度であり取り組みでもある社会福祉の成り立ちや先人のあゆみから、自分たちが生きている社会の特徴及び自身の置かれている社会的状況を知る手がかりをつかんでもらいたい。

授業計画

- 第1回 オリエンテーションー歴史を学ぶということ
- 第2回 社会福祉の原型（前史）
- 第3回 イギリス：社会変動と労働者立法の成立
- 第4回 イギリス：救貧法の成立過程 —エリザベス救貧法までの道のり
- 第5回 イギリス：貧困の原因は何か —救済の責任はどこに
- 第6回 イギリス：救済基準の設定 —スピーナムランド制度
- 第7回 イギリス：社会調査 —貧困の把握と貧困をみる眼
- 第8回 イギリス：新救貧法成立に影響を与えた思想・著作
- 第9回 イギリス：社会の仕組みと生活 —労働組合の成立（ウエップ夫妻の思想をてがかりに）
- 第10回 イギリス：社会保障制度の成立 —ベバリッジ報告
- 第11回 日本：人物から学ぶ慈善事業・社会事業1
- 第12回 日本：人物から学ぶ慈善事業・社会事業2
- 第13回 日本：社会事業の成立から厚生事業へ
- 第14回 日本：50年勸告と現在の社会福祉政策
- 第15回 まとめ

教材・テキスト・参考文献等

テキストは使用しない。資料を毎回配布する。参考文献は講義中に提示。

成績評価方法

試験90%、出席10%で評価する。

感想提出をもって出席とみなす。

実務経験

障害者支援施設で勤務していたことがあります。実務経験を活かし、歴史の中で起こっていることと現在の実践現場で起こっていることとのつながりをお話しします。

その他

歴史といっても、あまり堅苦しく考えずに受講して下さい。現在につながる歴史を楽しんでもらいながら、現状を知るための手がかりをつかんでいただければと思います。また、講義は教員と受講者双方で創るものです。積極的な授業参加と授業環境保持を求めます。

講義科目 :心理学概論	単位数 :2
マークシート略 :〔心理概論〕	学習形態 :選択科目
担当 :高橋 彩	

講義の内容・方法および到達目標

心理学の歴史と心理学の代表的な理論を取りあげ、人のこころの働きについて解説する。受講者が日常生活の中で経験する事象を、心理学的に理解する態度を身につけることが目標である。

授業計画

- 第1回 心理学いろいろ
- 第2回 感覚と知覚（視覚の特徴）
- 第3回 学習（古典的条件づけ、オペラント条件づけ、観察学習）
- 第4回 知能と創造性（知能とは何か）
- 第5回 認知と記憶（短期記憶、ワーキングメモリ、長期記憶）
- 第6回 感情（感情の理論）
- 第7回 欲求（動機づけと原因帰属）
- 第8回 性格（類型論と特性論、ビッグファイブ理論）
- 第9回 発達（エリクソンの漸成発達理論）
- 第10回 社会（自己スキーマ、対人認知）
- 第11回 臨床（1）精神障害
- 第12回 臨床（2）カウンセリングと認知行動療法
- 第13回 障がい者の心理 発達障害
- 第14回 心理学の歴史
- 第15回 まとめと最終試験

教材・テキスト・参考文献等

テキスト：芝垣 正光・目黒 達哉・石牧 良浩 編著 2018 「改訂 現代心理学の基礎と応用 人間理解と対人援助」 樹村房 2200円＋税
ISBN978-4-88367-297-4

成績評価方法

試験70%と授業内での課題レポート30%で評価する。

その他

基礎演習のゼミ生選考にあたっては、この授業の履修者を優先する。

講義科目 : 発達心理学	単位数 : 2
マークシート略 : [発達心理]	学習形態 : 選択科目
担当 : 高橋 彩	

講義の内容・方法および到達目標

発達心理学は、人間の生涯にわたる心理的、行動的变化を研究対象としている。この講義では、人生のそれぞれの時期に特徴的な発達の变化と、その発達を規定する要因について学ぶ。受講生が、生涯発達の視点から人間の発達を理解し、各発達段階の特徴を説明できるようになることを目標とする。

授業計画

- 第1回 発達の概念 (発達心理学とは、発達心理学の研究法)
- 第2回 新生児期 (知覚、認知能力)
- 第3回 乳児期 (運動能力、認知能力)
- 第4回 幼児期1 (言語発達)
- 第5回 幼児期2 (アタッチメント)
- 第6回 幼児期3 (情動、道徳性)
- 第7回 児童期1 (自己意識)
- 第8回 児童期2 (友人関係)
- 第9回 青年期1 (恋愛関係、アイデンティティ)
- 第10回 青年期2 (親子関係)
- 第11回 成人期1 (職業生活、家族生活)
- 第12回 成人期2 (中年期)
- 第13回 成人期3 (エイジング)
- 第14回 老年期 (知的機能、死への対応)
- 第15回 まとめと最終試験

教材・テキスト・参考文献等

藤村宣之編著 2009 いちばんはじめに読む心理学の本 発達心理学 ミネルヴァ書房 ISBN 978-4-623-05464-0

成績評価方法

試験70%と授業内の課題レポート30%で評価する。

講義科目 : 社会心理学	単位数 : 2
マークシート略 : [社会心理]	学習形態 : 選択科目
担当 : 中山 真	

講義の内容・方法および到達目標

人間は社会的動物であるといわれるが、社会心理学は他者や集団の中での人間の行動や態度について理解を深める学問である。この授業では、社会心理学の理論や知見を幅広く取り上げる。社会心理学の基本的な知識や視点を理解することを目標とする。

授業計画

- 第1回 社会心理学とは
- 第2回 対人認知
- 第3回 態度
- 第4回 ステレオタイプ・偏見
- 第5回 援助・攻撃
- 第6回 社会的促進・社会的抑制
- 第7回 社会的影響
- 第8回 社会的相互作用
- 第9回 対人関係
- 第10回 家族
- 第11回 ソーシャル・サポート
- 第12回 組織・集団
- 第13回 集合行動とメディア
- 第14回 文化
- 第15回 まとめ・筆記試験

教材・テキスト・参考文献等

- ・テキストは使用しません。参考文献は授業時に紹介します。
- ・毎回資料を配布します。欠席した回の資料は、Web上から各自でダウンロード・印刷していただきます。

成績評価方法

- ・授業時提出物（30%）＋授業外学習（30%）＋筆記試験（40%）
 毎回授業時に提出物があります。1/3以上の欠席で失格となります。
 授業外学習（予習復習）をWeb上で行っていただきます。
 最終回に筆記試験を行います。

その他

- ・担当講師は非常勤講師です。質問等がある場合は授業前後またはメールで受け付けます。メールアドレスは初回授業時にお知らせします。
- ・中山真研究室ウェブサイト <https://makotonlab.com/>
 こちらのサイト上の学習管理システムで授業外学習を行っていただきます（スマートフォン対応）。また、授業時の配布資料のダウンロードも可能です。

講義科目 : 行動の理論	単位数 : 2
マークシート略 : [行動理論]	学習形態 : 選択科目
担当 : 瀬島 順一郎	

講義の内容・方法および到達目標

個体の行動は、動物であってもヒトであっても同じである。また、その行動を統制している環境要因も同じである。しかし、ヒトは複雑な言語をもち社会生活を円滑に営んでいるが、この言語も行動のひとつとして捉えることが重要である。それは言語によって意識と呼ばれるものを形成し、社会環境の中で複雑な行動も誘発され、重層的に意識と行動が学習されていくのである。この講義では、意識とは何か、行動とは何か、そして両者の関係はいかなるものかということを読んで行く。

授業計画

- 第1回 授業の進め方と受講の注意 出席は名前を呼ぶ、遅刻は30分まで
- 第2回 意識はあるか？ 意識とは何か？どのようにしてできたのか？
- 第3回 意識と行動1 意識と行動の関係はいかに。
- 第4回 意識と行動2 言語と意識の関係。意識は行動を制御するか？
- 第5回 脳の働き 脳の構造と機能を学ぶ。行動や意識の源泉である脳。
- 第6回 自律神経と中枢神経 お互い補い合う働きを持ちながら、その相違は。
- 第7回 学習の2つの型 学説の上で分けられた学習の型とは？
- 第8回 レスポンデント条件づけ パブロフによって発見された条件反射。
- 第9回 レスポンデント条件づけと感情 ハラハラ、ドキドキはなぜ起こる？
- 第10回 オペラント条件づけ 自動販売機はオペラントマシンだ。
- 第11回 強化スケジュールと行動 行動を変える重要な独立変数とは何か？
- 第12回 強化随伴性の重要性 知らないうちにコントロールされないために。
- 第13回 行動分析と精神分析 遠くて実は近い関係の2つの立場。
- 第14回 条件づけの型と文化の型 日本人は何故自動扉が好きなのか？
- 第15回 テスト

教材・テキスト・参考文献等

毎回A4プリント1枚をレジュメとして配布する。
参考書は随時示す。

成績評価方法

60%以上授業に出席しない学生には単位を認めない。
出席点は考慮しない。期末試験100%で評価する。試験は論述試験とする。
抜き打ちレポートをする可能性があるが、成績評価には加えない。

その他

遅刻は30分以内とする。授業終了後出席を取る。出席は名前を呼ぶ。

講義科目 : 認知の科学	単位数 : 2
マークシート略 : [認知科学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 南 学	

講義の内容・方法および到達目標

人が話したり、考えたり、目的地までたどり着くなどの行動を行う際、さまざまな知的活動をおこなっています。こうした活動やプロセスを心理学では認知とよびます。この授業では、人の認知の過程やメカニズムについて低次なものから高次なものまで概説していきます。人の認知活動に関する基礎的なメカニズムを理解し、意識化できるようになることを目的とします。

授業計画

- 第1回 認知の科学とは
- 第2回 記憶Ⅰ－記銘と想起－
- 第3回 記憶Ⅱ－メタ記憶と潜在記憶－
- 第4回 記憶Ⅲ－ワーキングメモリと記憶の変容－
- 第5回 自己と記憶
- 第6回 記憶障害
- 第7回 認知障害
- 第8回 知識
- 第9回 概念
- 第10回 言語の発達
- 第11回 動機づけ
- 第12回 意思決定
- 第13回 認知と加齢
- 第14回 記憶と加齢
- 第15回 試験

成績評価方法

- ①出席は毎回採ります。1/3以上欠席した場合は評価の対象外とします。
- ②出席点30点、筆記試験70点。

その他

プリントとスクリーンを用いて授業をすすめていきます。授業に「参加」することがスタートです。頭を使わず丸暗記や丸写しをするのではなく、授業中に話した概念や考え方を自分なりの言葉できちんと説明できるように理解することが重要です。

講義科目 : カウンセリング論	単位数 : 2
マークシート略 : [カウNSE]	学習形態 : 選択科目
担当 : 小笠原 昭彦	

講義の内容・方法および到達目標

- ・ カウンセリングに必要な知識およびカウンセリングの基礎的な理論と技法について、心理学や臨床心理学に基づいて講義を行います。
- ・ 傾聴についての演習、カウンセリングのDVDの視聴も行い、基礎的な技法が学習できるようにします。
- ・ 必要な知識と理論、また、基礎的な技法を理解することを目標とする。
- ・ 自己理解や傾聴に関する演習を通して、自分自身についても理解してください。

授業計画

第1回	オリエンテーション、自己理解に関する演習（社会的スキル）
2回	カウンセリングとは何か
3回	心理的不適応の諸問題
4回	発達と心理的問題
5回	カウンセリングにおけるアセスメント
6回	カウンセリングの理論
7回	・ 個人へのアプローチ ・ 家族、集団、地域へのアプローチ
8回	カウンセリングの基礎概念
9回	カウンセリングの基本的技法（DVD視聴による学習）
10回	傾聴についての演習 * 次回の授業でレポートを提出
11回	
12回	カウンセリングの技法（DVDも使用）
13回	
14回	社会におけるカウンセリングと心理の資格、まとめ
15回	筆記試験

教材・テキスト・参考文献等

- ・ 印刷資料を配付し、パワーポイントを用いて授業を行います。参考文献はその都度紹介します。事例、具体例も適宜取り入れます。

成績評価方法

- ・ 筆記試験（80%）と傾聴演習（第10回に予定）のレポート（20%）によって評価します。筆記試験では、配付資料等は参照不可。
- ・ 毎回出席を取ります（ただし、出席状況は成績には反映しません）。6回以上の欠席は評価の対象外です。

その他

- ・ 出席票に質問、感想などを書いてください。その回答、補足説明は、次の授業の冒頭で行います。

講義科目	: 家族関係学	単位数	: 2
マークシート略	: [家族関係]	学習形態	: 選択科目
担当	: 松田 いりあ		

講義の内容・方法および到達目標

・この授業では、近代社会以降において、家族になること／家族であることの意味と困難を事例とともに解説する。そのため「家族の定義」、「家族の過去・現在・未来」、「家族とライフコース」という三つのテーマを設定する。

・授業は基本的に講義形式で行うが、随時、授業内課題を実施し、提出された課題をもとに、受講生とともに考える機会を設ける。

・この授業では、受講生が現在の家族関係をめぐる課題を知るだけでなく、家族をめぐる従来の議論の前提自体を再検討できるようになることが目標である。

授業計画

- 第1回 はじめに：講義の概要と評価方法の説明
- 第2回 家族の定義（1）：さまざまな定義の紹介
- 第3回 家族の定義（2）：家族のイメージと実像
- 第4回 授業中課題（1）
- 第5回 前近代の家族：「家」と「イエ」
- 第6回 近代の家族（1）：日本における近代家族（20世紀前半まで）
- 第7回 近代の家族（2）：日本における近代家族（20世紀後半から）
- 第8回 現代の家族（1）：21世紀日本の家族
- 第9回 現代の家族（2）：家族と個人化
- 第10回 授業中課題（2）
- 第11回 青年期と家族
- 第12回 パートナーシップと家族
- 第13回 家族と親子関係
- 第14回 高齢期と家族
- 第15回 筆記試験および授業中課題（3）

教材・テキスト・参考文献等

神原文子・杉井潤子・竹田美知編著
『よくわかる現代家族 第2版』（ミネルヴァ書房）

成績評価方法

レポート70%、授業内課題30%

その他

成績評価の対象者になるためには、規定の出席回数を満たす必要がある。

講義科目 : 人間関係論	単位数 : 2
マークシート略 : [人間関係]	学習形態 : 選択科目
担当 : 小笠原 昭彦	

講義の内容・方法および到達目標

・人間関係論では社会における人と人との関わりを学びます。この講義では、心理学を基礎として人間関係についての理解を深め、学習者自らの人間関係を振り返ることから出発して、実践の場面に応用できる基本事項を講義します。

・発達的にみた重要な人間関係やそのあり方、社会の中における対人関係、人間関係の基本とそこから生じる問題、学習者自らの人間関係のあり方、健康増進・ストレス・幸福感など実践場面での関係性、援助的コミュニケーションの基本について理解することを目標とします。

授業計画

第1回	オリエンテーション、人間関係論・人間関係・対人関係の基本
2回	乳幼児期の親子関係
3回	幼児期から成人期における友人関係
4回	職業からみた人間関係
5回	青年期の人間関係の悩みとその克服
6回	自己と他者
7回	親密な人間関係
8回	競争と協同
9回	非言語行動
10回	ネット社会の人間関係
11回	健康増進のコミュニケーション
12回	ストレスと人間関係
13回	幸福感に関わる人間関係
14回	人間関係と援助的コミュニケーション
15回	筆記試験

教材・テキスト・参考文献等

・授業はパワーポイントによって進め、必要な資料を配付します。参考文献はその都度紹介します。また、適宜、テーマに関連する質問紙などを実施し、自己理解・他者理解を促します。

成績評価方法

・筆記試験を行います。基本的な概念、知識および基礎的な理論の理解を問う予定。配付資料等は参照不可。

・毎回出席を取ります（ただし、出席状況は成績には反映しません）。6回以上の欠席は評価の対象外です。

その他

・出席票に質問、感想などを書いてもらい、それに対する回答、補足を次の授業の冒頭で行います。

講義科目 :心理学基礎実験	単位数 :2
マークシート略 :〔心理実験〕	学習形態 :選択科目
担当 :高橋 彩	

講義の内容・方法および到達目標

心理学の重要な研究方法の1つに、実験法がある。この演習では心理学実験の手法とその分析方法を学ぶ。受講者が、データ収集、データの分析、レポート作成を通して、心理学の研究法について理解を深め、科学的な態度を身につけることを目的とする。

授業計画

- 第1回 実験法とは何か レポートの書き方
- 第2回 ミュラー・リヤーの錯視 (データ収集、レポート作成)
- 第3回 ストループ効果 (データ収集、レポート作成)
- 第4回 記憶の二重貯蔵モデル (刺激作成とデータ収集)
- 第5回 記憶の二重貯蔵モデル (レポート作成)
- 第6回 間接ブライミング (パソコン)
- 第7回 大きさの恒常性 (データ収集、レポート作成)
- 第8回 鏡像描写 (データ収集)
- 第9回 鏡像描写 (レポート作成)
- 第10回 パーソナルスペース (データ収集、レポート作成)
- 第11回 視覚探索 (データ収集)
- 第12回 視覚探索 (レポート作成)
- 第13回 SD法による印象の測定 (刺激作成、データ収集、レポート作成)
- 第14回 集団意思決定 (集団討議、レポート作成)
- 第15回 まとめ

教材・テキスト・参考文献等

テキストは使用しない。課題ごとに資料を配布する。

成績評価方法

授業内の課題の取り組み (50%) と、レポートの内容 (50%) によって評価する。演習はグループで行うものが多いため、遅刻・欠席は厳禁。

その他

1年次に「心理学研究法」を履修した後に、2年次にこの科目を履修することが望ましい。1年次の履修はなるべく避けること。履修希望者が多い場合は履修制限があるが、その時は「心理学研究法」の単位を取得した学生が優先される。

講義科目 :心理学研究法	単位数 :2
マークシート略 :〔心理研究〕	学習形態 :選択科目
担当 :高橋 彩	

講義の内容・方法および到達目標

直接には目には見えないところの働きを明らかにするため、心理学には様々な研究方法がある。この演習では観察法と調査法の手法と、その分析方法を学ぶ。受講者が、データ収集、データの分析、レポート作成を通して、心理学の研究法について理解を深め、科学的な態度を身につけることを目的とする。

授業計画

- 第1回 心理学の研究とは
- 第2回 質問紙調査法
- 第3回 尺度項目の作成
- 第4回 質問紙の作成と実施
- 第5回 データ分析（データ入力）
- 第6回 データ分析（t検定 相関）
- 第7回 質問紙法レポート作成
- 第8回 面接調査法 面接調査の実施
- 第9回 自由記述の分類
- 第10回 データ分析（カイ二乗検定）
- 第11回 面接法レポート作成
- 第12回 観察法（タイムサンプリング法）の実施
- 第13回 観察データの分析（評定者間一致度）
- 第14回 観察法レポート作成
- 第15回 まとめ

教材・テキスト・参考文献等

テキストは使用しない。課題ごとに資料を配布する。

成績評価方法

授業内の課題の取り組み（50%）と、レポートの内容（50%）によって評価する。試験は行わない。演習はグループで行うものが多いため、遅刻・欠席は厳禁。

その他

なるべく1年次で、この心理学研究法を履修すること。本科目を履修した後に、心理学基礎実験を2年次に履修することが望ましい。

講義科目 : 保育学	単位数 : 2
マークシート略 : [保育学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 千坂 克馬	実務経験 : 有

講義の内容・方法および到達目標

- 保育について養護と教育の視点から歴史と今日的課題をおさえつつレジюмеに基づき説明します。教育の視点については保育内容の5領域を中心に、養護の視点についてはどのような生活上の支援が必要なのかという点を中心に説明します。
- レジюмеに基づき講義をおこないます。毎回講義終了前にその内容の理解について授業感想文にまとめ、数名の方に発表していただきます。

授業計画

- それぞれの項目について1回の授業で終了する予定です。

- 第 1 回 保育の歴史
- 第 2 回 保育の制度
- 第 3 回 子どもの発達と保育
- 第 4 回 領域：健康
- 第 5 回 領域：環境
- 第 6 回 領域：人間関係
- 第 7 回 領域：言葉
- 第 8 回 領域：表現
- 第 9 回 保育の方法：計画・実施・評価
- 第 10 回 乳児保育
- 第 11 回 しょうがいを持った子どもの保育
- 第 12 回 気になる子ども達への支援
- 第 13 回 保護者への支援と子育て支援
- 第 14 回 生活への支援と生活施設における保育士の役割
- 第 15 回 子どもをみる視点と記録の方法

教材・テキスト・参考文献等

レジюмеを用意します。

成績評価方法

毎回授業感想文を提出していただき、それにより出席を確認します。

最後にレポートを提出していただきます。

授業感想文の内容及び出席状況と最後のレポートにより評価をおこないます。

評価基準の目安は、出席と感想文：最終レポート＝7：3

実務経験

社会福祉法人の児童福祉施設及びNPOに勤務。そこでの実務経験をもとに保育学について一緒に学んでゆきたいと思います。

講義科目 : 子どもの健康	単位数 : 2
マークシート略 : [子の健康]	学習形態 : 選択科目
担当 : 川瀬 浩子	

講義の内容・方法および到達目標

子どもの健やかな成長発達を促し、子どもの「自ら健康で安全な生活をつくり出す力」を育くむために、必要とされる「支援する力」を身に着けることを目的とする。

授業計画

- 第1回 子どもと健康、支援する視点
- 第2回 子どもの健康課題
- 第3回 親になるための準備（出生前）
- 第4回 健康的なライフスタイル
- 第5回 緊急な健康課題：自殺防止
- 第6回 緊急な健康課題：事故防止
- 第7回 緊急な健康課題：虐待防止
- 第8回 感染症予防
- 第9回 子どもの基本的な生活習慣
（「基本的な生活習慣の欠如」の現状と支援）
- 第10回 口腔保健
- 第11回 子どもの体の健康：子どもの健康と運動
（「運動能力の低下」の現状と支援）
- 第12回 子どもの体の健康：子どもの健康と食育（食生活の現状と食育）
- 第13回 子どものこころの健康
（こころの健康の現状と「生きる力の基礎」の育成）
- 第14回 性行動
- 第15回 まとめ：筆記試験

教材・テキスト・参考文献等

授業中に提示する

成績評価方法

出席：6回以上の欠席は評価の対象とならない。

出席は講義開始30分経過後、確認する（確認が取れない場合は欠席とする）。

または学びの振り返り票の提出やグループワークでの提出物で確認する。

試験やレポート：

評価は、試験（60%）、課題レポート「子どもと安全」「自殺防止」の2種類（各20%）で評価する。

学習への意欲：

毎回「学びの振り返り票」を配布し、授業の終わりに、テーマにそった振り返りを行う時間を設ける。そこから判断し、加対象とする。

講義科目 : 子どもの栄養	単位数 : 2
マークシート略 : [子の栄養]	学習形態 : 選択科目
担当 : 乾 陽子	

講義の内容・方法および到達目標

食えることは子どもの健やかな心身の成長・発達の基礎となる。本講義では食を通じた子どもの健全育成のため、食べ物や栄養の知識を身につけ、乳児期から学童期までの各時期に応じた食生活を理解し、安全な食が提供できるように、講義を中心に一部演習を取り入れ学修する。

子どもの食は家庭や保育者の影響を大きく受けるので、子どもおよび保護者・家庭に対して適切な食事支援のできる保育者となるよう知識と技能を身につけることが目標である。

授業計画

- 第1回：子どもの食生活の現状
- 第2回：子どもの食に関する諸問題
- 第3回：栄養に関する基本的知識（消化吸収、三大栄養素）
- 第4回：栄養に関する基本的知識（ビタミン、ミネラル、食物繊維、水分）
- 第5回：日本人の食事摂取基準
- 第6回：乳幼児の食機能の発達と食事提供
- 第7回：乳児期の栄養と食生活（乳汁栄養）
- 第8回：乳児期の栄養と食生活（離乳食）
- 第9回：幼児期の栄養と食生活
- 第10回：学童期・思春期の栄養と食生活
- 第11回：食育の基本
- 第12回：児童福祉施設や家庭における食と栄養
- 第13回：食の安全
- 第14回：特別な配慮を要する子どもの食と栄養
- 第15回：筆記試験とまとめ

教材・テキスト・参考文献等

児玉浩子編集・執筆「子どもの食と栄養 改訂第2版」中山書店

成績評価方法

評価基準：小レポート40%、筆記試験30%、学習意欲30%

毎回出席確認を行う。また毎回授業の終わりに小レポートを課す。

第15回の授業で筆記試験を行う。

学習意欲は、授業への取り組み状況で評価する。

その他

毎回テキストを使用するので必ず持参すること。

講義科目 : 福祉心理演習	単位数 : 4
マークシート略 : [福心演習]	学習形態 : 必修科目
担当 : 北村 香織	実務経験 : 有
	* 第2学年で履修

講義の内容・方法および到達目標

この演習では、福祉心理基礎演習で検討してきたテーマをさらに明確にして、研究課題を設定し、各自取り組んでいく。また、課題に対して適切な研究方法についても学ぶ。

具体的には、基礎演習と同じく各自の研究課題についてレジュメなどを用いながら報告を行い、ゼミ内で討議する形を基本とする。最終的には卒業論文完成を目標とする。

授業計画

- ① 研究課題の設定
- ② 卒業論文の書き方についての指導と取り組み方の検討
- ③ 卒業論文にむけての報告（個人）
- ④ 本の読み方
- ⑤ 卒業論文指導

《番外》福祉施設見学や、ボランティアへの参加、共通テーマを設定しての討議など

以上を柱に進めていきます。

教材・テキスト・参考文献等

特に使用しない。

参考文献は適宜提示

成績評価方法

出席、報告内容、ゼミへの参加度、卒業論文等を合わせて総合的に評価する。
（出席は特に重視する）

実務経験

障害者支援施設で勤務していたことがあります。実務経験を活かし、討論時には、社会福祉サービス利用者、家族、職員、それぞれの立場からの視点を提示できたらと考えています。

その他

福祉心理基礎演習で培ったものを深めつつ、課題を設定する作業を行い、そこから具体的な取り組みを進めていけたらと考えています。自分が考えていることをまとめる、話す、書く、人の話を聞く、ということは、学問だけではなく、社会に出てからも必要となる重要な要素です。演習は、これを学び体得する貴重な機会ですので、積極的に参加し、楽しんで下さい。

1年次の経験を活かし、さらに充実したゼミができることを期待しています。

講義科目 :福祉心理演習	単位数 :4
マークシート略 :〔福心演習〕	学習形態 :必修科目
担当 :高橋 彩	* 第2学年で履修

講義の内容・方法および到達目標

この演習では、班に分かれて心理学分野の文献を講読し、その内容を紹介する口頭発表を行う。発表をもとに、集団で討議し、テーマについての理解を深める。また、自分自身の卒業レポートのテーマに関連した文献を調査する。

心理学分野の研究への関心を高めるとともに、卒業論文を作成する基本的な態度とスキルを身につけることを目的としている。

授業計画

第1回	ガイダンス	第16回	卒論テーマの発表
第2回	文献の講読	第17回	調査計画と仮説の設定
第3回	文献の講読とまとめ	第18回	調査計画と仮説の設定
第4回	文献内容の紹介発表(1)	第19回	調査計画と仮説の設定
第5回	文献内容の紹介発表(2)	第20回	調査実施
第6回	文献内容の紹介発表(3)	第21回	調査実施
第7回	研究論文の検索	第22回	データ分析と論文作成
第8回	研究論文の講読	第23回	データ分析と論文作成
第9回	研究論文の紹介発表(1)	第24回	データ分析と論文作成
第10回	研究論文の紹介発表(2)	第25回	データ分析と論文作成
第11回	研究論文の紹介発表(3)	第26回	データ分析と論文作成
第12回	卒論のテーマの資料収集	第27回	考察と論文仕上げ
第13回	卒論のテーマの資料収集	第28回	考察と論文仕上げ
第14回	卒論のテーマの資料収集	第29回	研究成果の発表会
第15回	前期のまとめレポート提出	第30回	卒業論文提出

教材・テキスト・参考文献等

講読に必要な文献は、適宜用意する。

成績評価方法

前期は、グループ作業や討論への参加度(30%)と文献と研究論文の紹介発表内容(30%)と前期のまとめレポート内容(40%)で総合的に評価する。

後期は、論文作成への取り組み(50%)と研究論文評価(50%)によって、総合的に評価する。

その他

前期は文献の講読をグループ活動で行うため、遅刻・欠席は厳禁。文献を読み、分からないことはグループで協力して、調べて理解を深めること。

講義科目 : 福祉心理演習	単位数 : 4
マークシート略 : [福心演習]	学習形態 : 必修科目
担当 : 武田 誠一	* 第2学年で履修

講義の内容・方法および到達目標

基本文献の精読を行うことで、社会福祉に関する知識を深め、自身の研究テーマ決定に結びつけます。

受講生は自身の問題意識や関心に従って、それぞれに研究テーマを選択します。

各自の調査・研究を基礎に、グループ内での討論を加え、議論の仕方を学ぶと共に、卒業論文を仕上げることを目標とします。

授業計画

- 基本文献の精読

※文献は開講時に指示する。

- 卒業論文指導

- 1) 各自のテーマ設定 (その1 その2)
- 2) 調査・研究の方法について (その1 その2)
- 3) 調査・研究の対象をめぐって (報告と討論)
- 4) 事前調査・研究 (その1 その2)
- 5) 本調査・本研究の進行状況のチェック (その1 その2)
- 6) 施設・事業所訪問 (希望によって数箇所)
- 7) 調査・研究結果の報告と討論 (その1 その2)
- 8) 卒業論文の仕上げ (その1 その2 その3)

※なお、受講生の状況などにより内容を変更する場合があります。

※途中からテーマを変更することは可能ですし、研究の過程で問題意識が変わってくる (具体的になっていく) ことは歓迎です。

教材・テキスト・参考文献等

後日、指定する。

成績評価方法

自らの研究調査や報告、他者の発表への発言、ゼミ運営への関わり方とともに、卒業論文についてなどを総合的に評価します。

その他

「自ら考える」「他者に伝える」、そしてメンバー相互に「学び合う」がゼミの基本です。

みんなといっしょにゼミを楽しく作り上げる、そんな意識で積極的に参加してください。

講義科目 : 福祉心理演習	単位数 : 4
マークシート略 : [福心演習]	学習形態 : 必修科目
担当 : 長友 薫輝	* 第2学年で履修

講義の内容・方法および到達目標

受講生各自の関心にしたがって自由にテーマを選択したうえで、調査・研究し、卒業論文を作成することが目標である。テーマは社会福祉学以外のものでも構わない。

本演習は次の3点を重視している。

①受講生の自主的な行動、②グループでの協同行動を学ぶ場（他人とつながる場）、③社会人として必要な基礎的教養を身につける場、である。

授業計画

- | | |
|----------------|--------------------|
| 1) 各自のテーマ設定 | 2) 調査・研究の方法 |
| 3) 文献資料の読み方 | 4) 調査・研究の対象 |
| 5) 予備調査へ向けての報告 | 6) 予備調査 |
| 7) 本調査へ向けての準備 | 8) 本調査 |
| 9) 調査結果の集計 | 10) 調査結果報告 |
| 11) 地域づくりに関わる | 12) 施設・事業所訪問 |
| 13) 卒業論文執筆に向けて | 14) 卒業論文作成 |
| 15) 卒業論文中間報告 | |
| 16) グループワーク研究 | 17) グループワーク実践 |
| 18) グループワークの反省 | 19) フィードバック |
| 20) 自らの問題意識の醸成 | 21) 自らの関心を深める |
| 22) 生活問題と社会問題 | 23) 調査・研究を進める |
| 24) 対象課題と地域づくり | 25) 地域で具体的に改善するには |
| 26) 地域づくりに関わる | 27) 地域づくりを担う人々から学ぶ |
| 28) 卒業論文執筆 | 29) 卒業論文指導 |
| 30) 卒業論文完成 | |

*なお、受講生の状況などによって内容を変更する可能性がある。

教材・テキスト・参考文献等

参考文献や資料は必要に応じて、講義時に配付する。

成績評価方法

自らのテーマについてのゼミ発表や、卒業論文、ゼミへの積極的な参加度などを総合し評価する。

その他

「楽しく・おもしろく」が私の担当する演習の大原則です。そして、「時には少し真面目に」社会の出来事や生活の身の回りのことなどを取り上げて考えてみましょう。

本演習は受講生の自主的な行動とグループでの協同行動を基盤とします。

講義科目 : インテリアデザイン	単位数 : 2
マークシート略 : [インテリア]	学習形態 : 選択科目
担当 : 中井 孝幸	建築士指定科目
	実務経験 : 有

講義の内容・方法および到達目標

- ・快適な生活環境を創り上げるために必要な基礎知識と計画手法を学ぶ。
- ・空間を構成する床、壁、天井の立体的な関係を理解する。
- ・家具や照明、素材などを「人と空間」との関係で捉えるようにする。
- ・3次元を2次元（図面・透視図・スケッチ）で表現できるようにする。
- ・課題を通じて、インテリアデザインの計画・プレゼンテーションを学ぶ。

授業計画

- 第1回 ガイダンス・住まいとインテリア（日本、西洋）
- 第2回 家具にみるデザイン様式の変遷
- 第3回 演習①：平面図、展開図の描法
- 第4回 人間工学について
- 第5回 演習②：インテリアパースの描き方
- 第6回 インテリアの安全性について
- 第7回 演習③：ベニヤ板1枚でデザインする椅子の模型制作
- 第8回 形・色・テクスチャーについて
- 第9回 空間と心理について
- 第10回 インテリアエレメント（壁・家具）のデザイン
- 第11回 インテリアエレメント（照明・サイン）のデザイン
- 第12回 演習④：A2判ケント紙でデザインする照明器具の模型制作
- 第13回 材料と仕上げについて
- 第14回 演習⑤：空間のインテリア設計、マテリアルプレゼンボードの作成
- 第15回 作品提出、講評会

教材・テキスト・参考文献等

- ・講義中に適宜参考文献を紹介するが、一般的なテキストとして以下を示す。
- ・インテリアデザイン教科書研究会編：インテリアデザイン教科書、第2版、彰国社

成績評価方法

- ・出席を毎回取る。遅刻厳禁。5回以上欠席した場合には評価の対象外とする。
- ・出席と演習課題の総合点により評価する。
- ・演習課題が未提出な者は、単位取得できない。
- ・出席15%、演習課題85%

実務経験

- ・組織設計事務所での勤務の経験を活かし、授業では実践的なデザインや計画について話をします。

その他

- ・演習課題に用いるケント紙、模型制作の用具などは各自でそろえる。

講義科目 : 建築製図基礎	単位数 : 2
マークシート略 : [建築製図]	学習形態 : 選択科目
担当 : 平井 雅人	建築士指定科目
	実務経験 : 有

講義の内容・方法および到達目標

- ・ 建築設計の基礎的な考え方を学ぶ。
- ・ 著名建築家の図面を使用し、それを模倣することで、図面を読み取る力を養い、特に木造の建物に関して自分で考えた建物を図面で表現するための基礎的な力を身に着ける。
- ・ スケッチ、パースや模型を製作し縮尺の感覚を養いながら、2次元や3次元で表現する方法を学ぶ。

授業計画

第1回	ガイダンス、設計プロセス	
第2回	建築作品のフリーハンスケッチ	(1) 出題・演習
第3回	同	(2) 出題・演習
第4回	建築図面の種類、読み方と製図用具の使い方の説明	
第5回	CADの説明と基礎的練習	
第6回	建築図面の表現方法	(1) 配置図の解説・トレース
第7回	同	(2) 平面図の解説・トレース
第8回	同	(3) 立面図の解説・トレース
第9回	同	(4) 断面図の解説・トレース
第10回	同	(5) 展開図の解説・トレース
第11回	建築パースの描き方	(1) 作図方法の解説
第12回	同	(2) 作図の演習①
第13回	同	(3) 作図の演習②
第14回	建築模型の作り方	(1) 模型材料と製作方法の解説と模型製作
第15回	同	(2) 模型製作

教材・テキスト・参考文献等

特になし。プリントを渡してそれにのっとり授業を進めます。

成績評価方法

スケッチ	20点
図面5枚×8点	= 40点
パース	25点
模型	15点

全授業回数の5分の4以上の出席（交通機関の麻痺等特別な事由による欠席は出席扱いとする）がない場合は評価の対象外とする。また提出物の遅れは減点対象とする。

実務経験

一級建築士として建築設計監理事務所を31年間主宰。その実務経験をもとに製図の基礎の話をします。

講義科目 : 住生活設計 I	単位数 : 2
マークシート略 : [住設計 I]	学習形態 : 選択科目
担当 : 木下 誠一	建築士指定科目
	実務経験 : 有

講義の内容・方法および到達目標

生活に必要な各部の寸法を理解し、立体的な空間を操作できる能力や、住生活の基本となる戸建住宅の概略設計（基本設計）ができる能力を身に着けることを目標とする。

授業計画

以下の2課題を課し、個別指導を中心に行う。
なお、戸建住宅の課題は、主として木造2階建て程度の規模とする。

- 第1回 ガイダンス、小空間（個室、ワンルーム等）の設計（1）出題
- 第2回 小空間の設計（2）エスキス（コンセプト・平面計画）
- 第3回 同（3）エスキス（ // // ）
- 第4回 同（4）エスキス（平面、断面、展開等）
- 第5回 同（5）エスキス（ // // ）
- 第6回 同（6）図面チェック
- 第7回 同（7）作品提出・講評、戸建住宅の設計（1）出題
- 第8回 戸建住宅の設計（2）エスキス（コンセプト・配置・平面計画）
- 第9回 同（3）エスキス（ // // ）
- 第10回 同（4）エスキス（平面、断面、立面、展開等）
- 第11回 同（5）エスキス（ // // ）
- 第12回 同（6）図面チェック
- 第13回 同（7） //
- 第14回 同（8）作品提出・講評
- 第15回 まとめと確認

教材・テキスト・参考文献等

課題に応じて演習中に紹介する。

成績評価方法

成績評価は、全課題の提出のある学生を対象とし、各課題の採点を総合的に評価する。成績は主に最終成果物（作品）によるが、毎回の制作プロセスについても勘案して採点する。

実務経験

一級建築士として建築設計事務所に勤務した経験を活かし、授業では実践的な計画・設計手法についても講義する。

その他

作品を完成させるためには、正規の授業時間だけでなく時間外での自主的な取り組みが不可欠である。随時、時間外での相談にも応じる。
「建築製図基礎」を履修していることが望ましい。

講義科目 : 住生活設計Ⅱ	単位数 : 2
マークシート略 : [住設計Ⅱ]	学習形態 : 選択科目
担当 : 木下 誠一	建築士指定科目
	実務経験 : 有

講義の内容・方法および到達目標

多様な利用主体が想定され、複雑な機能を有する地域施設の設計ができる能力を身に着けることを目標とする。課題には、高齢社会をふまえ、家族以外の人々と共同生活を行う福祉施設や、児童から成人、高齢者など地域の幅広い人々が交流を図るコミュニティ施設など、中規模施設を取り上げ、機能や構造・設備、運営方式などを総合的に理解し、計画・設計案としてまとめ上げる。

授業計画

以下の2課題を課し、個別指導を中心に行う。
グループホームの規模は3階建て以下、構造は木造、S造、RC造のいずれかとする。
コミュニティ施設の規模は3階建て以上、構造はS造又はRC造とする。

- 第1回 グループホーム (1) 出題
- 第2回 同 (2) エスキス (コンセプト・配置・平面計画)
- 第3回 同 (3) エスキス (" ")
- 第4回 同 (4) エスキス (平面・立面・断面計画)
- 第5回 同 (5) エスキス (" ")
- 第6回 同 (6) 図面チェック
- 第7回 同 (7) 作品提出・講評、コミュニティ施設 (1) 出題、
- 第8回 コミュニティ施設 (2) エスキス (コンセプト・配置・平面計画)
- 第9回 同 (3) エスキス (" ")
- 第10回 同 (4) エスキス (" ")
- 第11回 同 (5) エスキス (平面・立面・断面計画)
- 第12回 同 (6) エスキス (" ")
- 第13回 同 (7) 図面チェック
- 第14回 同 (8) 作品提出・講評
- 第15回 まとめと確認

教材・テキスト・参考文献等

課題に応じて演習中に紹介する。

成績評価方法

成績評価は、全課題の提出のある学生を対象とし、各課題の採点を総合的に評価する。成績は主に最終成果物（作品）によるが、毎回の制作プロセスについても勘案して採点する。

実務経験

一級建築士として建築設計事務所に勤務した経験を活かし、授業では実践的な計画・設計手法についても講義する。

その他

作品を完成させるためには、正規の授業時間だけでなく時間外での自主的な取り組みが不可欠である。随時、時間外での相談にも応じる。

「建築製図基礎」「住生活設計Ⅰ」を履修していることが望ましい。

講義科目	: 居住計画論	単位数	: 2
マークシート略	: [居住計画]	学習形態	: 選択科目
担当	: 木下 誠一		建築士指定科目
		実務経験	: 有

講義の内容・方法および到達目標

住宅や集合住宅、高齢者福祉施設における人々の諸要求を把握し、行為と空間との対応関係について理解し、空間の規模設定や機能構成、空間デザイン等、建築計画の理念や方法を身に着けることを目標とする。

授業計画

- 1) ガイダンス、住宅の敷地条件（配置計画）
- 2) 住宅の機能とゾーニング、動線計画
- 3) 住宅の寸法計画（人体寸法と動作寸法、モジュール等）
- 4) 住宅の空間構成（平面計画）
- 5) 住宅の空間構成（断面計画）
- 6) 住宅の各室の計画（居間・個室等）
- 7) 住宅の水まわりの計画（台所、風呂、便所）
- 8) 住宅の収納の計画
- 9) 住宅の外部空間の計画（立面計画・外構計画）
- 10) 集合住宅の計画（1）計画手法
- 11) " （2）事例
- 12) 高齢者福祉施設の計画（1）施設体系
- 13) " （2）通所施設・事例
- 14) " （3）入所施設・事例
- 15) まとめと確認

教材・テキスト・参考文献等

随時、資料を配付する。

成績評価方法

- ・出席を毎回取る。5回以上欠席した場合には評価の対象外とする。
- ・レポートにより評価する（授業時間内に適宜行う）。

実務経験

一級建築士として建築設計事務所に勤務した経験を活かし、授業では実践的な計画・設計手法についても講義する。

講義科目 : 居住福祉論	単位数 : 2
マーケット略 : [居住福祉]	学習形態 : 選択科目
担当 : 木下 誠一	建築士指定科目
	実務経験 : 有

講義の内容・方法および到達目標

高齢社会をふまえ、住み慣れた環境で安心して人々が生活を送れるよう、福祉の観点から居住環境を捉える。高齢者等の行動特性を把握し、在宅ケアを念頭においたバリアフリーの住宅設計・改造に関する計画手法を身に着けることを目標とする。

授業計画

- 1) ガイダンス、福祉住環境整備の必要性
- 2) バリアフリーとユニバーサルデザイン
- 3) 福祉住環境に関連する制度・資格
- 4) 高齢者等の心身・行動特性(1)
- 5) " " (2)
- 6) 福祉住環境の共通整備方策
- 7) 場所別の具体的な整備方策 (1) アプローチ・玄関・廊下・階段
- 8) " " (2) トイレ・浴室・洗面所
- 9) " " (3) キッチン・寝室等
- 10) 福祉用具
- 11) 演習(1) 演習問題
- 12) 演習(2) 住宅のリフォーム提案
- 13) 演習(3) "
- 14) 発表
- 15) まとめと確認

教材・テキスト・参考文献等

随時、資料を配付する。

成績評価方法

- ・出席を毎回取る。5回以上欠席した場合には評価の対象外とする。
- ・レポート（授業時間内に適宜行う）及び演習課題により評価する。

実務経験

一級建築士として建築設計事務所に勤務した経験を活かし、授業では実践的な計画・設計手法についても講義する。

講義科目	: 居住政策論	単位数	: 2
マーケット略	: [居住政策]	学習形態	: 選択科目
担当	: 多湖 清隆		建築士指定科目
		実務経験	: 有

講義の内容・方法および到達目標

建築物の設計・施工に必要な建築基準法を中心に法令用語の読み方、用語の定義、条文の主旨・内容の理解を図り、建築基準法等の基礎的知識の習得と法令に興味を持つことを目標とします。

授業計画

- 第1回 講義概要 : (ガイダンス、法文読解の基本ルール 等)
- 第2回 建築基準法: 手続規定 (法6条: 確認申請、法7条・法7条の3: 検査等)
- 第3回 建築基準法: 基本的事項① (法2条: 用語の定義)
- 第4回 建築基準法: 基本的事項② (法2条: 面積・階数)
- 第5回 建築基準法: 集団規定① (法42条: 道路、法48条: 用途地域)
- 第6回 建築基準法: 集団規定② (法52条: 容積率、法53条: 建蔽率)
- 第7回 建築基準法: 集団規定③ (法56条: 高さ制限、天空率)
- 第8回 建築基準法: 集団規定④ (法56条の2: 日影規制)
- 第9回 建築基準法: 集団規定⑤ (法61条: 防火地域 等)
- 第10回 建築基準法: 単体規定① (法27条: 耐火建築物 等)
- 第11回 建築基準法: 単体規定② (法28条: 採光・換気 等)
- 第12回 建築基準法: 単体規定③ (法35条: 避難施設等)
- 第13回 建築基準法: 単体規定④ (法20条: 構造耐力 (その1))
- 第14回 建築基準法: 単体規定⑤ (法20条: 構造耐力 (その2))
- 第15回 建築士法、建設業法、その他の建築関連法令概説

教材・テキスト・参考文献等

テキスト: 「建築法規用教材」2019 (日本建築学会) と毎回、資料を配布する。
参考文献等: 建築基準法令集「建築士試験場持ち込みが可能」と表記されている法令集であれば可。(最新年度版が望ましい。)

成績評価方法

- ① 課題提出を55%、出席・受講姿勢を45%として評価する。
- ② 欠席が6回以上の場合、成績評価対象外とする。
- ③ 課題提出の評価割合の55%については、調査課題 (第5回配布予定) を15%、演習課題 (第12回配布予定) を40%の配分で評価する。ただし、調査課題、演習課題の両方の提出がない場合、成績評価対象外とする。
- ④ 毎回講義終了時に講義内容に対する意見・感想等の記載を求め、これにより出席状況の確認及び受講姿勢の確認を行う。

実務経験

市役所にて建築行政、営繕行政に従事してきた。また、民間確認検査機関で構造審査、現場検査を確認検査員として経験した。現在、構造計算適合性判定機関に勤務し構造計算適合性判定員として構造審査を行っている。市役所での建築主事業務を含めた建築行政の経験を生かして、建築法規を中心に話をします。

その他

- ① 居住政策論は建築士試験の指定科目の「建築法規」を学ぶ科目です。建築士試験の受験希望者は、必ず第1回講義から受講すること。
- ② 予習ではテキストにより毎回の用語の確認を必ず行うこと。専門科目であり準備なしの受講では講義内容の理解は困難である。
- ③ 復習では毎回配布する講義後演習問題に取り組むこと。

講義科目 : 居住設備学	単位数 : 2
マークシート略 : [居住設備]	学習形態 : 選択科目
担当 : 北野 博亮	建築士指定科目

講義の内容・方法および到達目標

建築・都市設備、すなわち空気調和設備・給排水衛生設備・電気設備・防災設備について、その基本メカニズムと構成を環境問題等との関連性を踏まえて解説する。都市や建築において快適な居住空間を実現するための設備の概要を修得することが本講義の到達目標である。

授業計画

- 第1回 ガイダンスと居住設備の概要
- 第2回 温熱環境評価
- 第3回 空気調和設備(1) 冷暖房負荷
- 第4回 空気調和設備(2) 冷暖房負荷・熱源機器
- 第5回 空気調和設備(3) 空調方式・空気調和機
- 第6回 空気調和設備(4) 換気設備
- 第7回 空気調和設備(5) 空調設備の設計
- 第8回 給排水衛生設備
- 第9回 電気設備(1)受変電・配電設備
- 第10回 電気設備(2)照明設備
- 第11回 防災設備(1)火災防災設備
- 第12回 防災設備(2)避雷設備ほか
- 第13回 省エネルギー技術(1)
- 第14回 省エネルギー技術(2)
- 第15回 まとめと確認

教材・テキスト・参考文献等

- (教科書) 田中俊六他著「建築設備工学」 井上書院
- (参考書) 講義中に紹介する。

成績評価方法

- ・成績評価は、全講義回数15回のうち10回以上出席した受講者に対して行う。
- ・授業中に課す筆記試験とレポートによって、講義内容の理解度を判断し成績評価を行う。
- ・評価におけるそれぞれのウェイトは、筆記試験が50%、レポートが50%である。

その他

スライドを提示するとともに教科書・プリントを用いて講義を進める。

講義科目 : 建築環境学	単位数 : 2
マークシート略 : [建築環境]	学習形態 : 選択科目
担当 : 寺島 貴根	建築士指定科目

講義の内容・方法および到達目標

都市や建築において、快適な居住空間を実現するための計画法の概要を修得することが本講義の目的である。室内空間および都市空間における音・光・熱・空気および水分の制御に関する基礎理論とその建築・都市設計への応用の概要を学習する。教科書の内容に従い、スライドを併用して講義が進められる。室内環境の初歩的な設計課題に対する解決方法を身につけることを到達目標とする。

授業計画

第1回	講義ガイダンス 騒音防止と音響設計①
第2回	騒音防止と音響設計②
第3回	騒音防止と音響設計③
第4回	日照と日射
第5回	採光と照明①
第6回	採光と照明②
第7回	色彩
第8回	筆記試験① (前半:試験、後半:解答解説)
第9回	室内空気汚染と換気①
第10回	室内空気汚染と換気②
第11回	室内空気汚染と換気③
第12回	断熱と結露防止①
第13回	断熱と結露防止②
第14回	体感温度
第15回	筆記試験② 熱・空気の環境分野(前半:試験、後半:解答解説)

教材・テキスト・参考文献等

(教科書) 基礎力が身につく建築環境工学 (三浦昌生著、森北出版、ISBN978-4-627-58112-8)

(テキスト) なし

(参考書) なし

成績評価方法

成績評価は試験を含む全講義回数15回のうち10回以上出席した受講者に対して行う。授業毎に提出する出席票 (数行の感想文を含む) と二回の筆記試験によって、各受講者の理解度を判断し成績評価を行う。評価におけるそれぞれのウェイトは、出席票が40%、筆記試験が60%である。

その他

上記に示す教科書を購入して受講すること。室内環境の物理と心理に関する理論および計算が含まれる理系の内容であるが、今後建築に携わっていく者には必須の知識や考え方である。将来建築士試験を受験する予定の者には受講を勧める。

講義科目 : 建築一般構造	単位数 : 2
マークシート略 : [建築構造]	学習形態 : 選択科目
担当 : 前野 将輝	建築士指定科目

講義の内容・方法および到達目標

講義内容：建築物の骨格となる主要な構造形式とその特徴について学びます。
建築物に加わる荷重と外力について学びます。

方 法：パワーポイント等を用いて建築構造をわかりやすく説明します。
理解度の再確認と将来の資格試験（2級建築士等）のため、演習
問題を使って解説します。

到達目標：2級建築士等の資格試験における基礎知識を習得します。

授業計画

- 第1回 ガイダンス、建築構造概論
- 第2回 近年における建築構造設計のあり方
- 第3回 空間と構造形式
- 第4回 建築物の荷重と外力
- 第5回 地盤・基礎構造
- 第6回 木質構造（1）
- 第7回 " （2）
- 第8回 鉄骨構造（1）
- 第9回 " （2）
- 第10回 鉄筋コンクリート構造（1）
- 第11回 " （2）
- 第12回 " （3）
- 第13回 仕上げと設計上配慮すべき項目
- 第14回 建築設計と建築構造
- 第15回 まとめ・試験

教材・テキスト・参考文献等

構造用教材：丸善、日本建築学会

図解辞典建築のしくみ：彰国社、建築図解辞典編集委員会編

図説やさしい構造設計：学芸出版社 浅野清昭著

成績評価方法

出席（50%）および授業中に行うレポート課題（50%）により評価します。また、5回以上欠席、レポート未提出、試験欠席の場合は、評価の対象外とします。

講義科目 : 建築計画	単位数 : 2
マークシート略 : [建築計画]	学習形態 : 選択科目
担当 : 中井 孝幸	建築士指定科目
	実務経験 : 有

講義の内容・方法および到達目標

地域の各種建築物に関する建築計画上の基礎知識を学習し、施設事例を通して計画手法や課題等を理解する。

授業計画

第1回	ガイドンス、図書館の計画 (1)	授業の進め方、図書館の歴史
第2回	図書館の計画 (2)	地域のサロンとしての図書館
第3回	図書館の計画 (3)	図書館の施設計画
第4回	学校の計画 (1)	教室のオープン化
第5回	学校の計画 (2)	学びの場から生活の場へ
第6回	折紙建築	立体的なデザイン演習
第7回	高齢者福祉施設の計画	小規模生活単位によるケア
第8回	病院の計画 (1)	診療所の計画と病院計画の基礎
第9回	病院の計画 (2)	病院の部門構成と病棟の計画
第10回	美術・博物館の計画	展示品の収集と観賞
第11回	保存と再生	記憶の継承とサステイナブル建築
第12回	劇場の計画	演技を観る
第13回	オフィスの計画	規模とレントラブル比、寸法計画
第14回	コミュニティ施設の計画	近隣住区とコミュニティ
第15回	まとめと確認	

教材・テキスト・参考文献等

・松本直司、瀬田恵之、高井宏之、建部謙治、谷田真、中井孝幸、矢田努：建築計画学、理工図書、2013.4

成績評価方法

- ・出席を毎回取る。遅刻厳禁。5回以上欠席した場合には評価の対象外とする。
- ・筆記試験、レポート及び演習課題により、総合的に評価する。
- ・演習課題が未提出な者は、単位取得できない。
- ・出席15%、演習課題20%、試験65%

実務経験

・組織設計事務所での勤務の経験を活かし、授業では実践的なデザインや計画について話をします。

その他

- ・演習課題に用いるケント紙、模型制作の用具などは各自でそろえる。

講義科目 : 建築構法	単位数 : 2
マークシート略 : [建築構法]	学習形態 : 選択科目
担当 : 前野 将輝	建築士指定科目

講義の内容・方法および到達目標

講義内容：基本的な構成方法や施工法、設計手法について学びます。建築構造や施工に関する知識を深め、様々な建築構法を学びます。

方法：パワーポイント等を用いて建築構造をわかりやすく説明します。理解度の再確認と将来の資格試験（2級建築士等）のため、演習問題を使って解説します。

到達目標：2級建築士等の資格試験における基礎知識を習得します。

授業計画

- 第1回 ガイダンス、建築構法概論
- 第2回 鉄骨鉄筋コンクリート構造
- 第3回 壁式構造
- 第4回 組積造
- 第5回 プレストレストコンクリート構造
- 第6回 基礎の構法
- 第7回 構法と構造計画（1）
- 第8回 " （2）
- 第9回 鉄筋コンクリート構造の構造計画（1）
- 第10回 " （2）
- 第11回 補強コンクリートブロック造の構法
- 第12回 鉄骨造の構法
- 第13回 木造の構法（1）
- 第14回 " （2）
- 第15回 まとめ・試験

教材・テキスト・参考文献等

構造用教材：丸善、日本建築学会

図解辞典建築のしくみ：彰国社、建築図解辞典編集委員会編

図説やさしい構造設計：学芸出版社 浅野清昭著

成績評価方法

出席（50%）および授業中に行うレポート課題（50%）により評価します。また、5回以上欠席、レポート未提出、試験欠席の場合は、評価の対象外とします。

講義科目 : 構造力学 I	単位数 : 2
マークシート略 : [構造力 I]	学習形態 : 選択科目
担当 : 山本 貴正	建築士指定科目

講義の内容・方法および到達目標

- ・ 静定構造物の解法、断面力算定方法を学習する。
- ・ 予習形式の課題を課し、授業で予習内容の確認、また応用問題の学修をする。
- ・ 到達目標は、簡単な静定構造物の構造計算ができることである。

授業計画

- 第1回 建築構造力学概説、構造物の支点反力
- 第2回 静力学の基礎I (ベクトル、三角関数、力の分解・合成)
- 第3回 静力学の基礎II (力のモーメント、力の釣り合い)
- 第4回 確認試験I
- 第5回 静定トラス構造の解法I (節点法)
- 第6回 静定トラス構造の解法II (切断法)
- 第7回 静定ばりの応力算定法I (軸方向力、せん断力、曲げモーメント)
- 第8回 静定ばりの応力算定法II (軸方向力、せん断力、曲げモーメント)
- 第9回 確認試験II
- 第10回 静定構造物の応力算定法I
- 第11回 静定構造物の応力算定法II
- 第12回 応力度とひずみ度
- 第13回 断面の性質 (断面定数の算定法)
- 第14回 部材断面の各種応力度算定法
- 第15回 確認試験III

教材・テキスト・参考文献等

教科書は特に指定しない。下記の書籍を参考書として用いる。
 浅野清昭著「図説やさしい構造力学」、学芸出版社
 教材は、随時配付資料とする。

成績評価方法

課題 (25点)、確認試験I (25点)、確認試験II (25点) 確認試験III (25点) の合計を評価点とし、60点以上を合格とする。

その他

公式の適用条件、理論を理解すること。

同じ問題を繰り返して解くことは、確認作業であり勉強ではない。類似問題を解き、問題の解法を理解すること。

講義科目 : 構造力学Ⅱ	単位数 : 2
マークシート略 : [構造力Ⅱ]	学習形態 : 選択科目
担当 : 宿里 勝信	建築士指定科目

講義の内容・方法および到達目標

構造物の変形および不静定構造物の解法を理解する。

授業計画

1. 静定構造物の解法の復習I
2. 静定構造物の解法の復習II
3. 構造物の弾性変形解析（解析仮定・重ね合せの原理・ひずみエネルギー）
4. 仮想仕事法I（トラスの変形解析）
5. 仮想仕事法II（棒構造の変形解析）
6. 演習問題I（トラスおよび棒構造の変形解析）
7. 不静定次数の算定
8. 応力法I（不静定トラスの解法1）
9. 応力法II（不静定トラスの解法2）
10. 応力法III（不静定ラーメンの解法）
11. 演習問題II（応力法による不静定構造物の解法）
12. モーメント分配法I（不静定ラーメンの解法）
13. モーメント分配法II（不静定ラーメンの解法）
14. 演習問題III（たわみ角法による不静定構造物の解法）
15. 試験

教材・テキスト・参考文献等

教科書は特に指定しない。下記の書籍を参考書として用いる。
浅野清昭著、「図説やさしい構造力学」、学芸出版社

成績評価方法

演習問題（50点）、期末試験（50点）の合計を評価点とし、60点以上を合格とする。

講義科目 : 建築材料学	単位数 : 2
マークシート略 : [建築材料]	学習形態 : 選択科目
担当 : 山本 貴正	建築士指定科目

講義の内容・方法および到達目標

- ・建築物に用いられている材料の種類、性質および用途を学習する。
- ・予習形式の課題を課し、授業で予習内容の確認、また演習問題を解く。
- ・到達目標は、建築物に用いられている材料の種類、性質および用途を理解することである。

授業計画

- 第1回 建築材料概説
- 第2回 建築材料の分類
- 第3回 建築材料の性能と性質
- 第4回 コンクリートI (種類と組成)
- 第5回 コンクリートII (製造方法)
- 第6回 コンクリートIII (力学的性質)
- 第7回 コンクリートIV (RC構造物の耐久性)
- 第8回 鉄鋼I (種類・製造方法)
- 第9回 鉄鋼II (力学的性質)
- 第10回 木材I (種類・加工方法)
- 第11回 木材II (力学的性質)
- 第12回 非構造材料I (熱・音響)
- 第13回 非構造材料II (金属系・セラミックス系材料)
- 第14回 非構造材料III (高分子系材料・他)
- 第15回 確認試験

教材・テキスト・参考文献等

谷川恭雄 他「建築材料を学ぶーその選択から施工までー」 (理工図書)

成績評価方法

課題 (20点)、演習 (20点)、授業内容の理解度を確認するための試験 (確認試験、60点) を行い、100点満点中60点以上を合格とする。

その他

勉強と作業を使い分けて、丸暗記ではなく理解を伴う暗記をすることが大切である。

受講するにあたり、建築材料は身近な存在であることを意識すること。

講義科目	: 建築生産	単位数	: 2
マークシート略	: [建築生産]	学習形態	: 選択科目
担当	: 池田 和司		建築士指定科目
		実務経験	: 有

講義の内容・方法および到達目標

- ・ 建築施工における各種工事について、自己の経験（現場施工管理）を交えながら、複雑な建築生産プロセスについて順序だてて分かりやすく解説し、興味を持って学習してもらう。
- ・ 建築士になりたいという気持ちを強めてもらう、また現場施工管理も将来進みたい職種として興味を持ってもらうことを目標とする。

授業計画

以下の予定で進めていきますが、進み具合によって修正を加えることがあります。特に第5回～第9回の躯体工事は内容が複雑かつ量が多いので計画より遅れることもあります。後半で調整します。

- 第1回 建築生産・・・建築生産とは何か、建物が出来上がる過程について
- 第2回 施工者の選定～工事請負契約
- 第3回 工事着手・・・着手前の仕事の概要、施工計画・施工図について
- 第4回 仮設工事・準備工事・・・仮設工事の重要性、工事機械について
- 第5回 躯体工事（土工事、地業・基礎工事）・・・施工順序・施工管理
- 第6回 躯体工事（鉄筋・型枠・コンクリート工事）・・・施工順序・施工管理
- 第7回 躯体工事（鉄筋・型枠・コンクリート工事）・・・施工順序・施工管理
- 第8回 躯体工事（鉄骨工事）・・・施工順序・施工管理
- 第9回 躯体工事（木工事）・・・施工順序・施工管理
- 第10回 屋根・防水工事・・・施工順序・施工管理
- 第11回 仕上工事・・・仕上工事の種類・施工順序・施工管理
- 第12回 設備工事・・・施工順序・施工管理
- 第13回 完成・引渡し・アフターケア
- 第14回 リニューアル・解体工事、特殊技術・・・施工順序と施工管理、特殊技術
- 第15回 まとめと試験・・・建築生産のまとめと試験（成績評価）

教材・テキスト・参考文献等

- ・ 教科書は使用しませんが、資料を活用する予定です。

成績評価方法

- ・ 講義の終わりに講義の内容で感じたことや疑問点を記入させ提出してもらい、それで出欠の確認をとります。
- ・ 出席を重視しますが、第15回講義で試験を行い100点満点中60点未満は不可とし、出席率を70%、試験得点率を30%の割合で合算し、成績評価をします。
- ・ 5回以上欠席した場合、5回以上欠席していないが第15回講義の試験を受けなかった場合は対象外とします。

実務経験

- ・ 以前、株式会社大林組に勤務。主に建築現場にて現場施工管理を担当。一級建築士、一級建築施工管理技士の資格を持っており、現場施工管理の実務経験をもとに建築生産や、それに伴う必要な資格取得について話をします。

その他

- ・ 初学者が興味を持って学習できるよう資材や道具の実物を持ち込み、建設中の現場にいるような臨場感を持たせ、複雑な施工の流れを分かりやすく伝えられるよう工夫したい。

講義科目 : 住環境計画	単位数 : 2
マークシート略 : [住環境計]	学習形態 : 選択科目
担当 : 小野寺 一成	建築士指定科目
	実務経験 : 有

講義の内容・方法および到達目標

住宅地を構成する諸環境（道路、公園緑地、街並み景観、住環境整備、地区計画、都市計画、まちづくりの方法等）について基本的な仕組みと計画手法などを講義する。具体的な事例を題材に住環境計画の基礎知識、考え方、計画理念、計画方法等を多面的に学び、住宅及びその周辺環境を取り扱い、住宅地計画や地域施設設計に関する学習の出発点となるものである。居住環境コースにおけるまちづくり及び都市計画分野の基礎知識を身につけることを目標とする。

授業計画

第1回	ガイダンス：講義内容、講義スケジュール
2回	住環境を形成するまちづくりの概要
3回	都市の成り立ちからみる住環境
4回	住環境を形づくる都市計画
5回	住環境を形成する土地利用計画
6回	住宅とまちをつなぐ、道路、公園
7回	住宅地、まちをつくる市街地開発
8回	中間試験
9回	住民主体のまちづくりによる住環境整備
10回	地区計画による住環境計画
11回	住宅地の街並み形成デザイン
12回	防災に強い住宅地計画
13回	コミュニティ、コミュニティデザイン
14回	住民参加型まちづくりの特徴と効果
15回	まとめと確認

※なお、授業の進捗状況によって、内容を変更することもありえる。

教材・テキスト・参考文献等

- ・基本的には、Power Point を使用した講義。ppt資料などを配布予定。
- ・テーマによっては、DVD 教材などの視聴覚教材の利用を予定。

成績評価方法

- ・中間試験、最終講義時試験、講義後のキーワード、出席をあわせて評価。
- ・1/3以上欠席した場合は評価の対象外、遅刻3回で1回の欠席とみなす。

実務経験

- ・都市計画コンサルタントに勤務し、総合計画、都市計画マスタープラン、住環境整備計画、地区計画、公営住宅建替計画などを策定した。授業では、これらの実務経験を活かした実践的な基礎知識及び計画力の養成に努める。

その他

- ・授業の最後に、当日行った講義の重要なキーワードの回答を求める簡単な小試験を予定。

講義科目 : 都市計画論	単位数 : 2
マークシート略 : [都市計画]	学習形態 : 選択科目
担当 : 小野寺 一成	建築士指定科目
	実務経験 : 有

講義の内容・方法および到達目標

都市計画の歴史を知るとともに、都市計画の目的、計画策定過程、計画における考え方及び手法などの講義を理解した上で、都市計画の具体的な内容や手続きに関する基礎的知識を身に付けることを目的とする。また、都市を形づくる建築形態規制、地区計画、景観計画、防災計画などの講義も理解するとともに、広域都市計画の必要性や住民参加のまちづくりなどに向けた、今後の都市計画の課題を考察できる知識を身につけることを目標とする。

授業計画

第1回	ガイダンス：講義内容、講義スケジュール
2回	都市計画とは
3回	都市及び都市計画の歴史
4回	都市計画マスタープラン、コンパクトシティ
5回	住宅地、商業地、工業地等の土地利用計画
6回	道路、公園など都市施設整備計画
7回	市街地整備事業計画
8回	中間試験
9回	アジアのまちづくり、アジアの都市居住
10回	地区計画
11回	景観計画
12回	防災計画
13回	住民参加と都市計画
14回	今後の都市づくりと都市計画の課題
15回	まとめと確認

※なお、授業の進捗状況によって、内容を変更することもありえる。

教材・テキスト・参考文献等

- ・基本的には、Power Point を使用した講義。ppt資料などを配布。
- ・テーマによっては、DVD 教材などの視聴覚教材の利用を予定。

成績評価方法

- ・中間試験、最終講義時試験、講義後のキーワード、出席をあわせて評価。
- ・1/3以上欠席した場合は評価の対象外、遅刻3回で1回の欠席とみなす。

実務経験

- ・都市計画コンサルタントに勤務し、総合計画、都市計画マスタープラン、住環境整備計画、地区計画、公営住宅建替計画などを策定した。授業では、これらの実務経験を活かした実践的な基礎知識及び計画力の養成に努める。

その他

- ・授業の最後に、当日行った講義の重要なキーワードの回答を求める簡単な小試験を予定。

講義科目 : 地域環境学	単位数 : 2
マークシート略 : [地域環境]	学習形態 : 選択科目
担当 : 小野寺 一成	建築士指定科目
	実務経験 : 有

講義の内容・方法および到達目標

地域の自然や歴史文化、地域環境問題、環境に配慮した市街地整備や集約型都市構造など、地域環境計画の基礎的内容について講義する。都市及び地域の環境、自然環境、地球環境についての基礎的な知識と理解力、分析力を習得するとともに、計画能力を養い育てることを目的とする。また、地域環境の今日的な課題を学び、地域及び都市に興味を持つことを喚起し、持続可能な地域づくりの理念とその意義について認識を深めることを目標としている。

授業計画

第1回	ガイダンス：講義内容、講義スケジュール
2回	都市化による環境問題、失われいく日本の自然環境
3回	ヒートアイランド現象と地球温暖化、環境汚染
4回	環境に配慮した都市づくり、地形にあった都市
5回	都市と地域の自然環境づくり、ビオトープ
6回	集約型都市構造、低炭素型まちづくり計画
7回	環境に配慮した市街地整備計画
8回	中間試験
9回	地域環境のデザイン
10回	都市・地域の環境計画
11回	農村・田園の環境計画
12回	歴史的風致の維持・再生
13回	地域環境と住民参加
14回	都市・農村・自然の新秩序
15回	まとめと確認

※なお、授業の進捗状況によって、内容を変更することもありえる。

教材・テキスト・参考文献等

- ・基本的には、Power Point を使用した講義。ppt資料などを配布。
- ・テーマによっては、DVD 教材などの視聴覚教材の利用を予定。

成績評価方法

- ・中間試験、最終講義時試験、講義後のキーワード、出席をあわせて評価。
- ・1/3以上欠席した場合は評価の対象外、遅刻3回で1回の欠席とみなす。

実務経験

- ・都市計画コンサルタントに勤務し、総合計画、都市計画マスタープラン、住環境整備計画、地区計画、公営住宅建替計画などを策定した。授業では、これらの実務経験を活かした実践的な基礎知識及び計画力の養成に努める。

その他

- ・授業の最後に、当日行った講義の重要なキーワードの回答を求める簡単な小試験を予定。

講義科目	:まちづくり設計 I	単位数	:1
マークシート略	:〔まち設 I〕	学習形態	:選択科目
担当	:小野寺 一成		建築士指定科目
		実務経験	:有

講義の内容・方法および到達目標

戸建て住宅の周辺環境（接道状況、隣接住宅、広場や植栽など）を意識しながら、戸建て集合住宅地を計画し個別の住宅を設計する。前半は4名程度のグループ作業により、1,200㎡程度の敷地に200㎡以上の戸建て住宅用地4敷地と、広場や植栽、歩行者専用道路等を計画する。後半は個人作業として、グループにより計画された戸建て住宅地の各敷地に、各々が周辺環境を意識しながら、テーマ・コンセプトを実現する戸建て住宅を設計できることを目標とする。

授業計画

第1回	課題説明：講義内容、講義スケジュール、グループ決め
2回	戸建集合住宅地のテーマ、コンセプト決め
3回	戸建集合住宅地のゾーニングと配置計画
4回	戸建集合住宅地の外構計画
5回	戸建集合住宅地計画案
6回	戸建集合住宅地のルールづくりと住宅地計画
7回	中間提出、及び中間講評
8回	各戸建住宅の敷地及びテーマ、コンセプト決め、配置図検討
9回	各戸建住宅の1階平面図及び配置図案
10回	各戸建住宅の各階平面図、断面図及び立面図案
11回	各戸建住宅の各階平面図、断面図及び立面図
12回	各戸建住宅の模型作成
13回	とりまとめプレゼンテーション
14回	最終提出（中間提出の戸建住宅地に各戸建住宅を併せて提出）
15回	返却最終講評

※なお、授業の進捗状況によって、内容を変更することもありえる。

教材・テキスト・参考文献等

- ・随時、資料などを配布予定。

成績評価方法

- ・中間提出及び講評、最終提出及び講評、出席をあわせて評価。
- ・1/3以上欠席した場合は評価の対象外、遅刻3回で1回の欠席とみなす。

実務経験

- ・都市計画コンサルタント等に勤務し、総合計画、都市計画マスタープラン、住環境整備計画、地区計画、公営住宅建替計画などを策定した。授業では、これらの実務経験を活かした実践的な計画・設計力の養成に努める。

その他

- ・課題提出の締め切り時間を厳守。
- ・建築製図基礎、住生活設計 I を履修していることが望ましい。

講義科目	:まちづくり設計Ⅱ	単位数	:1
マークシート略	:〔まち設Ⅱ〕	学習形態	:選択科目
担当	:小野寺 一成		建築士指定科目
		実務経験	:有

講義の内容・方法および到達目標

「開かれた共用施設を持つ住宅地づくり」がテーマである。この共用施設は地域に開かれ周辺地域に貢献する施設とする。どんな施設内容や空間が求められるかを考え、共用施設を持つ5世帯程度の集合住宅を設計する。都市に集まって住む家、地域に開かれた居住環境のあり方、コミュニティづくり等を踏まえ、居住のしくみとその空間を提案できることを目標とする。共用施設は、地域で必要とされる機能あるいは共通の趣味等ソフト面を考慮して提案してほしい。

授業計画

第1回	課題説明：講義内容、講義スケジュール、グループ決め
2回	対象敷地現地調査のまとめと発表
3回	計画テーマ、計画コンセプト、イメージ案作成、ブロック模型
4回	全体計画のゾーニングと配置計画案作成
5回	全体計画の建物ボリュームとプランニング
6回	全体計画と建築計画（イメージ）
7回	企画計画書提出及び講評（前半はグループ作業）
8回	全体配置計画とボリューム模型作成、機能ゾーニング
9回	平面計画と立面計画、断面計画の設計
10回	居住システムと住戸プランの検討及び設計
11回	基本計画設計案と模型作成開始
12回	基本計画設計の再検討と建築デザイン、模型作成
13回	とりまとめプレゼンテーション
14回	基本計画設計提出（後半は個人作業）
15回	返却基本計画設計講評

※なお、授業の進捗状況によって、内容を変更することもありえる。

教材・テキスト・参考文献等

- ・随時、資料などを配布予定。

成績評価方法

- ・企画計画書提出・講評、基本計画設計提出・講評、出席をあわせて評価。
- ・1/3以上欠席した場合は評価の対象外、遅刻3回で1回の欠席とみなす。

実務経験

- ・都市計画コンサルタント等に勤務し、総合計画、都市計画マスタープラン、住環境整備計画、地区計画、公営住宅建替計画などを策定した。授業では、これらの実務経験を活かした実践的な計画・設計力の養成に努める。

その他

- ・課題提出の締め切り時間を厳守。
- ・建築製図基礎、住生活設計Ⅰ・Ⅱ、まちづくり設計Ⅰを履修していることが望ましい。

講義科目 : 力学基礎	単位数 : 2
マークシート略 : [力学基礎]	学習形態 : 選択科目
担当 : 八木 一夫	

講義の内容・方法および到達目標

私達は、日々の生活の中で身近な運動などを例にしてみると回転、跳躍、走、投げ、あるいは自転車、バス、電車などの乗り物に乗った際には遅い、早いという感覚の中から速度、加速度などを思い浮かべることができるでしょう。固体、液体、気体、質量、温度、冷却、加熱、融解、昇華、比熱など自然科学の物理現象を理解すると共に物理学の中でも運動の学問である力学を基本にして学習します。質量と速度から求まるエネルギーの概念、物体が起こす伸び、縮み、衝突、反転と作用反作用、エネルギー伝達と保存則、並進運動や回転運動について定量的な考え方を学びます。また質点や質点系・剛体における運動方程式や力の釣り合い、運動量保存則、回転の運動方程式や力のモーメントの釣り合い、角運動量について理解しましょう。さらに、運動量や角運動量の保存則や時間変化から、コマ、振り子、ブランコ、縄跳び、ダンス、フィギュアスケートといった日常的な運動について理解しましょう。直感的な物理量と物理現象の概念・イメージ、基本法則を提示して理解に努めます。理工系的な職業を目指す人や、自然科学の基礎的な考え方や予備知識を身に付けたい人の受講を勧めます。

授業計画

- 第1回 力学入門、力学の発展、古代・中世と近・現代
- 第2回 様々な物理量とSI単位系
- 第3回 位置、速度、加速度と微分・積分
- 第4回 運動エネルギーとポテンシャルエネルギー
- 第5回 様々なエネルギーの保存則とエネルギー散逸
- 第6回 力とニュートンの運動方程式と運動量保存則
- 第7回 等速直線運動と等加速運動と放物運動
- 第8回 抵抗下の運動とエネルギー散逸
- 第9回 振動と弾性エネルギー
- 第10回 質点系の重心の運動と回転運動(角度、角速度、角加速度)
- 第11回 質点系の力と力のモーメントの釣り合い
- 第12回 質点系と剛体系の回転運動の方程式
- 第13回 コマと自転車とフィギュアスケートとブランコ
- 第14回 弾性体の力学
- 第15回 全体とまとめと復習

教材・テキスト・参考文献等

- ・原康夫著「物理学基礎」学術図書出版社 (ISBN 978-4780605259)
- ・原康夫、右近修治著「物理学演習問題集 力学編」学術図書出版社 (ISBN 978-4780601701)

成績評価方法

参加型授業を歓迎いたします。授業中の質問や議論を重視します。時々レポートや小テストを課す事があります。出席は必須です。質問・議論・出席(15点)+レポート・小テスト(15点)+期末試験(70点)

その他

色々な力学現象を言葉や図、式で説明できるようにすることを目標とします。構造力学の前段階としての、剛体の力学、弾性体の力学にも言及します。

講義科目 : 消費者法	単位数 : 2
マーケット略 : [消費者法]	学習形態 : 選択科目
担当 : 村田 雄介	実務経験 : 有

講義の内容・方法および到達目標

- ・「消費者」問題が、民法を中心とする一般の法理論によってどのように捉えられているのか、そこには、どのような問題・限界が存在するのかを理解すること。
- ・「消費者」問題が、「消費者法」によってどのように規律されようとしているのか、そこには、どのような基本的考え方があるのかを理解し、「消費者」及び「消費者法」の法的な意義を明らかにすること。
- ・個々の法律や条文の解釈というよりも、「生きた消費者法」と「消費者法の基本原理」を学ぶこと。

授業計画

- 第1回 ガイダンス、「消費者法」とは何か
- 第2回 全法体系の中の「消費者法」の位置づけ
- 第3回 一般法としての「民法」と特別法としての「消費者法」
- 第4回 「民法」概説
- 第5回 消費者契約① 契約理論
- 第6回 消費者契約② 意思表示
- 第7回 消費者契約③ 契約の拘束力からの解放
- 第8回 消費者法① 特定商取引に関する法律Ⅰ
- 第9回 消費者法① 特定商取引に関する法律Ⅱ
- 第10回 消費者法② 割賦販売法Ⅰ
- 第11回 消費者法② 割賦販売法Ⅱ
- 第12回 消費者法③ 消費者信用
- 第13回 消費者法④ 消費者契約法
- 第14回 消費者法⑤ 製造物責任法
- 第15回 消費者法⑥ 独占禁止法

教材・テキスト・参考文献等

レジュメに基づいて講義をする。一般的な文献及び六法については初回の授業で、その他の重要な文献については各回の授業で適宜紹介する。

成績評価方法

授業内に行う筆記試験（あるいはレポート）で評価する。
全授業回数の3分の2以上の出席がない場合は、評価の対象外とする。

実務経験

三重弁護士会に所属する弁護士。主に民事訴訟（消費者関係訴訟を含む。）を担当。勤務する弁護士事務所での実務経験をもとに、法理論及び判例、被害事例について話をします。

講義科目 : 経済原論	単位数 : 4
マーケット略 : [経済原論]	学習形態 : 選択科目
担当 : 田添 篤史	

講義の内容・方法および到達目標

経済学には、企業や消費主体の最適化に基づく個別主体の選択とその結果に焦点をあてるミクロ経済学と、経済を個々の主体の単純な合成としては把握せず、一つの独自の総体として取り扱い経済全体での動きを考えるマクロ経済学が存在しています。この講義では第2回から第16回においてミクロ経済学、第17回から第29回でマクロ経済学を取り扱います。この講義を通じて経済学の基本的な考え方を身につけることを目標とします。

授業計画

第1回	ガイダンス	第16回	独占企業の行動
第2回	経済学の全体像 - 様々な考え方	第17回	マクロ経済学の基本像
第3回	ミクロ経済学の基本像	第18回	財市場の分析(1)
第4回	消費者の理論(1)	第19回	財市場の分析(2)
第5回	消費者の理論(2)	第20回	財市場の分析(3)
第6回	消費者の理論(3)	第21回	財市場の分析(4)
第7回	労働供給の決定	第22回	資産市場の分析(1)
第8回	企業の生産量決定(1)	第23回	資産市場の分析(2)
第9回	企業の生産量決定(2)	第24回	資産市場の分析(3)
第10回	企業の生産量決定(3)	第25回	資産市場の分析(4)
第11回	完全競争市場均衡(1)	第26回	IS-LM分析(1)
第12回	完全競争市場均衡(2)	第27回	IS-LM分析(2)
第13回	余剰分析(1)	第28回	IS-LM分析(3)
第14回	余剰分析(2)	第29回	経済成長の源泉
第15回	外部経済	第30回	まとめおよびテスト

教材・テキスト・参考文献等

テキスト

石川秀樹(著) 中央経済社

『試験攻略 新・経済学入門塾1 マクロ編』

『試験攻略 新・経済学入門塾2 ミクロ編』

このほか、資料を配布します

成績評価方法

出席点 : 30%

期末テスト : 70%

講義科目 : 環境経済論	単位数 : 2
マークシート略 : [環境経済]	学習形態 : 選択科目
担当 : 森岡 洋	

講義の内容・方法および到達目標

環境に関心のある学生が環境経済学の基本的考え方や分析方法を理解できるようになってもらう。

環境問題が発生するメカニズムを明らかにするとともに、経済学の観点から環境問題を解決する具体的な対策を明らかにする。

授業計画

- 第1回 ごみ問題と循環型社会
- 第2回 外部性と市場の失敗
- 第3回 限界社会的費用について
- 第4回 外部性の内部化
- 第5回 共有資源の利用と管理
- 第6回 漁業資源の管理
- 第7回 公共財とフリーライダー
- 第8回 直接規制と市場メカニズム
- 第9回 琵琶湖の水質管理と直接規制
- 第10回 自主規制
- 第11回 環境税
- 第12回 環境税による経済的厚生改善
- 第13回 地球温暖化問題
- 第14回 温暖化政策と今後の課題
- 第15回 学習内容のまとめ

教材・テキスト・参考文献等

栗山浩一・馬奈木俊介著『環境経済学をつかむ』有斐閣

成績評価方法

出席を3分の2以上すること。

最後に学習内容のまとめの筆記試験を行う。評価として、試験90%、出席・講義への取組み意欲10%として行う

講義科目 : 環境政策論	単位数 : 2
マークシート略 : [環境政策]	学習形態 : 選択科目
担当 : 南 有 哲	

講義の内容・方法および到達目標

21世紀の市民にとっては、環境問題について生活者の立場から発言し行動するだけでは、おそらく不十分であり、主権者として環境政策に積極的にかかわっていくことが求められるものと考えられる。本講義においては、環境政策を考える上での基本的な概念となる「環境問題」「市場経済」「国家」について概観した後、現代における環境政策の核心ともいえる「気候政策」について説明し、あるべき環境政策のあり方について考察する予定である。

授業計画

- 第1回 はじめに
- 第2回 環境問題とは何か
- 第3回 環境破壊の人類史①
- 第4回 環境破壊の人類史②
- 第5回 工業化について
- 第6回 グローバル市場経済の仕組み①
- 第7回 グローバル市場経済の仕組み②
- 第8回 市場経済と国家
- 第9回 南北格差の歴史と現状①
- 第10回 南北格差の歴史と現状②
- 第11回 気候政策の国際的展開①
- 第12回 気候政策の国際的展開②
- 第13回 日本における気候政策①
- 第14回 日本における気候政策②
- 第15回 試験とまとめ

教材・テキスト・参考文献等

講義中適宜指示する。

成績評価方法

- ・ 毎回小レポート…50%
- ・ 試験…50%

講義科目 : 環境倫理学	単位数 : 2
マークシート略 : [環境倫理]	学習形態 : 選択科目
担当 : 南 有哲	

講義の内容・方法および到達目標

自然や環境と人間との関係にかかわる問題を原理的に考察し、われわれはいかに行動すべきかを追求することが「環境倫理学」なる学問の課題である。本講義においては、「南北問題の環境倫理」「人間中心主義批判」なる二つの大きなテーマに沿って、多様な事実や論点を紹介することで、みなさんに環境倫理学なるものの基本に触れていただくことを目標とする。

授業計画

- 第1回 はじめに／世代間倫理について
- 第2回 世代間倫理について
- 第3回 人間中心主義批判とは何か
- 第4回 人間中心主義を批判する学説①
- 第5回 人間中心主義を批判する学説②
- 第6回 人間中心主義を批判する学説③
- 第7回 人間中心主義批判は成り立ちうるか①
- 第8回 人間中心主義批判は成り立ちうるか②
- 第9回 人間中心主義批判をどうみるべきか
- 第10回 環境的正義について
- 第11回 南北問題の環境倫理①
- 第12回 南北問題の環境倫理②
- 第13回 外来生物問題を環境倫理から考える①
- 第14回 外来生物問題を環境倫理から考える②
- 第15回 まとめ

教材・テキスト・参考文献等

講義中に適宜指示する。

成績評価方法

- ・ 毎回の小レポート…50%
- ・ 期末レポート…50%

講義科目 : 環境とエネルギー	単位数 : 2
マークシート略 : [環境エネ]	学習形態 : 選択科目
担当 : 坂本 竜彦	

講義の内容・方法および到達目標

再生不可能な化石燃料を使った社会から、再生可能な自然エネルギーを使った社会への大きな変換が世界中で始まっています。未来へ持続可能な社会へ向けて、エネルギー、水、食糧、産業のしくみ、社会のしくみなど様々な分野での変革が必要な時代になってきています。基本的な考え方・コンセプトや、地域の資源である自然エネルギーを使った持続可能な地域社会の展望・実例・具体的な取り組みなどについて学ぶ、私たち一人一人が、社会が何をすべきかを考え合います。

授業計画

- 第1回 これまでの地球～地球の誕生と進化
- 第2回 いまの地球～化石燃料社会の実際
- 第3回 これからの地球～自然エネルギーを使った
- 第4回 自然エネルギーとは？
- 第5回 太陽エネルギー
- 第6回 風力エネルギー
- 第7回 水力エネルギー
- 第8回 バイオマスエネルギー
- 第9回 地域内循環システム～具体的な地域の実例
- 第10回 グループワーク①～僕の私の地域の未来
- 第11回 グループワーク②～僕の私の地域の未来
- 第12回 グループワーク③～僕の私の地域の未来
- 第13回 グループワーク発表会①
- 第14回 グループワーク発表会②
- 第15回 まとめ

教材・テキスト・参考文献等

- ・毎回の講義で使用した講義内容を全員に配布します。
- ・テキストは購入する必要はありません。参考図書は講義の中で紹介します。

成績評価方法

- ・毎回出席をとります。2/3以上の出席が必要です。
- ・講義ごとにレスポンスシート（A4用紙1枚）を提出してもらいます。
- ・グループワーク発表会、および、最終レポートで評価します。

その他

特になし

講義科目	: 居住環境特別演習	単位数	: 4
マークシート略	: [居環演習]	学習形態	: 必修科目
担当	: 小野寺 一成	実務経験	: 有
		* 第2学年で履修	

講義の内容・方法および到達目標

まちづくり及び都市計画に関するテーマについてグループ等で研究を行い、研究過程で調査、課題抽出、解決方法、考察等の検討、研究報告のとりまとめ、表現の方法等を体系的に学び、最終的にまちづくり及び都市計画について理解を深め考察することを狙いとしている。調査や視察等を通じ机上では得られない社会的な課題を実感し、これに対する自らの考えをまとめ、発表、プレゼンテーション力を身につけることを目標としている。

授業計画

まちづくり及び都市計画さらには地域の公共施設等の今日的な課題等を題材に研究テーマを決め、資料調査及び現地調査等に基づく分析による結果を導き、各自の考察を行い、卒業研究論文または卒業研究設計として取りまとめる。

1年間のスケジュールは、前期は輪講を行いながら各自研究テーマを決め、夏休みに調査を行い、後期から卒業研究報告を取りまとめ発表する。（過去のゼミ視察：平城宮跡、奈良町、犬山城城下町、博物館明治村、一身田寺内町、津城址、大門商店街、名古屋市町並み保存地区、三重県総合博物館など）

研究手順（例）は以下のとおり。

- ・まちづくり及び都市計画に関する社会的背景や今日的な課題の抽出
- ・上記課題を解決する研究テーマの設定
- ・研究テーマに関する参考文献、資料の収集と理解
- ・研究に係る地域、施設の視察
- ・研究対象地域または施設の設定及び現地調査
- ・現況及び現地調査等の分析による結果と考察
- ・卒業論文の執筆、または卒業設計の制作

教材・テキスト・参考文献等

- ・随時配布または紹介、調査過程で資料・データを入手。

成績評価方法

- ・出席状況、ゼミでの調査報告、最終成果（卒業論文または卒業設計）をあわせて評価。

その他

- ・ゼミは輪講や調査報告等を議論形式で進めるため、その準備としてゼミ時間以外での自主的な調査等の取り組みが大切。都市計画関係の講義を受講していることが望ましい。
- ・ゼミ時間以外での調査などに参加する場合があることも前提としておいてほしい。

実務経験

- ・都市計画コンサルタントに勤務し、総合計画、都市計画マスタープラン、住環境整備計画、地区計画、公営住宅建替計画などを策定した。授業では、こられの実務経験を活かした実践的な調査研究、計画・設計力の養成に努める。

講義科目	: 居住環境特別演習	単位数	: 4
マーケット略	: [居環演習]	学習形態	: 必修科目
担当	: 木下 誠一	実務経験	: 有
		* 第2学年で履修	

講義の内容・方法および到達目標

建築空間と人々の生活との対応関係を理解し、より良い生活空間のあり方について提案する能力を身に着けることを目標とする。実際に現地調査を行うなど、座学では得られない体験を通して理解を深めることが大切であると考えている。

授業計画

住宅、集合住宅、地域施設に関するテーマを設定し、調査分析により現状と課題を把握した上で、より良い空間のあり方についての考えを設計作品又は論文にまとめる。研究は、個人または3名以内のグループ単位で行う。

主な研究フローは以下の通り。

- ・ テーマ設定
- ・ 参考文献の理解
- ・ 参考施設の見学
- ・ 調査計画
- ・ 現地調査
- ・ 調査結果の分析・考察
- ・ 作品の制作または論文の執筆

教材・テキスト・参考文献等

必要に応じて適宜指示する。

成績評価方法

ゼミでの報告内容、参加度、最終成果物（作品又は論文）を総合的に評価する。

実務経験

一級建築士として建築設計事務所に勤務した経験を活かし、授業では実践的な計画・設計手法についても講義する。

その他

- ・ ゼミの時間は主に報告や議論にあてるため、時間外での自主的な取り組みが必要である。
- ・ 設計やデザインに関心があり、手間を惜しまない態度を期待する。

講義科目	: 居住環境特別演習	単位数	: 4
マークシート略	: [居環演習]	学習形態	: 必修科目
担当	: 南 有 哲	* 第2学年で履修	

講義の内容・方法および到達目標

地球環境破壊の現状について具体的に学び、問題解決への方途を考えていく。

授業計画

- ① テーマに関連するビデオを上映し、資料を用いた補足講義を行うので、これを受けて討論する。その後、小レポートを時間内に作成する。
- ② 春・夏・冬の長期の休みには指定された文献あるいはテーマについてのレポートを作成する。
- ③ 参加者各自が、卒業研究としてゼミ論文を執筆する。

教材・テキスト・参考文献等

講義中適宜指示する。

成績評価方法

出席および提出物によって評価する。

その他

第二学年にて履修する。

講義科目 : 居住環境特別演習	単位数 : 4
マークシート略 : [居環演習]	学習形態 : 必修科目
担当 : 笠 浩一朗	* 第2学年で履修

講義の内容・方法および到達目標

近年、居住環境を改善するために、情報科学技術を利用する機会が増えてきている。居住環境の改善に、情報科学技術がどのように利用されているのかを理解し、実際に情報科学技術を利用して居住環境の改善方法を提案し、その方法を検証・考察することを到達目標とする。

授業計画

最初に、居住環境の改善に情報科学技術を利用できるテーマを設定する。テーマ設定に基づき、調査分析、及び、文献調査により課題を把握し、より良い居住環境を実現するための研究に取り組み、研究結果を論文にまとめる。

研究の流れは、下記の通りである。

- ① タイピング能力、及び、Officeソフトの基本操作の習得
- ② 情報処理技術の利用方法の修得（輪講、及び、実習）
- ③ 研究テーマ設定・研究計画の作成
- ④ 研究に取り組む（分析、調査、アプリ開発など）

教材・テキスト・参考文献等

必要に応じて適宜指示する。

成績評価方法

講義への参加度、日々の取り組み、及び、成果物を総合的に評価する。

その他

講義時間内では、報告・議論が中心となるので、講義の時間外での取り組みが必要である。

講義科目 : 社会福祉援助技術論 I	単位数 : 4
マークシート略 : [援技論 I]	学習形態 : 自由選択科目
担当 : 武田 誠一	社会福祉士必修科目
	実務経験 : 有
	* 第1学年で履修

講義の内容・方法および到達目標

本講義では、ソーシャルワーク（相談援助）の基本理念、共通課題、ソーシャルワーク（相談援助）の体系や内容等を学ぶ。

相談援助の過程において必要となる知識や技術について理解することが目標である。

授業計画

1	オリエンテーション	16	ソーシャルワークにおける援助関係1
2	私たちの暮らしとソーシャルワークの実際	17	ソーシャルワークにおける援助関係2
3	ソーシャルワークの実践モデル1	18	ソーシャルワークにおける援助関係3
4	ソーシャルワークの実践モデル2	19	面接技法1
5	診断主義アプローチ	20	面接技法2
6	心理社会アプローチ	21	面接技法3
7	問題解決アプローチ	22	ソーシャルワークのさまざまな技法1
8	行動変容アプローチ	23	ソーシャルワークのさまざまな技法2
9	課題中心アプローチ	24	ソーシャルワークのさまざまな技法3
10	危機介入アプローチ	25	スーパービジョンと記録1
11	エンパワメントアプローチ	26	スーパービジョンと記録2
12	その他のアプローチ	27	事例分析1
13	ソーシャルワークの援助過程1	28	事例分析2
14	ソーシャルワークの援助過程2	29	まとめ
15	ソーシャルワークの援助過程3	30	確認

教材・テキスト・参考文献等

「私たちの暮らしとソーシャルワークⅡ—相談援助の理論と方法—」、保育出版社、2016年。

成績評価方法

まとめと確認	50%
レポート	30%
学習態度	20%
計	100%

評価は、まとめと確認、レポート、学習態度（授業態度・課題の提出状況）を基に評価します。

実務経験

在宅介護支援センター、病院での実務経験に基づき、個別援助場面におけるソーシャルワークについて教授していきます。

その他

ソーシャルワーク(相談援助)の方法・技術を学ぶ科目です。

その技術は、さまざまな生活課題を抱える利用者のために用います。

そのため援助者は、利用者の生活課題とは何か？それはどのようにして引き起こされるのか？

その点を理解しなくてはなりません。

しかし、技法のみに目を奪われず、利用者の生活に視点を置き学んでください。

講義科目	: 社会福祉援助技術論Ⅱ	単位数	: 4
マークシート略	: [援技論Ⅱ]	学習形態	: 自由選択科目
担当	: 水谷 久		社会福祉士必修科目
		実務経験	: 有
			* 第2学年で履修

講義の内容・方法および到達目標

社会福祉援助技術の理念と意義を知り、その展開過程について学習します。さらにサービス等利用計画及び個別支援計画作成プロセスを理解し、社会福祉活動の運営管理の実際について学びます。

また、社会福祉の現場においてどのようなソーシャルワーカーが求められているかについて考え、地域生活を支える支援スキルを養い、社会福祉援助における価値・知識・技術・能力について理解を深めることを目標とします。

授業計画

第1回	オリエンテーション	第16回	演習Ⅲ（サービス担当者会議）
2回	社会福祉援助技術について	17回	演習Ⅳ（サービス等利用計画）
3回	援助技術に関する専門職	18回	演習Ⅳ（サービス等利用計画）
4回	援助技術関係の歴史上の人物	19回	国家試験過去問題について
5回	認知症高齢者への対人援助演習	20回	国家試験過去問題の解説
6回	認知症高齢者への対人援助演習	21回	自閉症の理解
7回	ソーシャルワークについて	22回	自閉症の障がい特性について
8回	ICFの理解	23回	支援を必要とする子供たちの理解
9回	個別支援計画作成の視点	24回	発達障害について（演習）
10回	サービス提供のプロセス	25回	地域生活支援について（会議）
11回	利用者主体のサービスについて	26回	地域生活支援について（計画）
12回	サービス等利用計画について	27回	直接援助技術の基本的な枠組み
13回	演習Ⅰ（会議：ロールプレイ）	28回	社会福祉援助技術模擬問題Ⅰ
14回	演習Ⅱ（個別支援計画作成）	29回	社会福祉援助技術模擬問題Ⅱ
15回	演習Ⅲ（サービス担当者会議）	30回	社会福祉援助技術のまとめ

教材・テキスト・参考文献等

- ・講義については、それぞれの單元ごとに必要なプリントを作成し、授業を進めていく予定です。日総研出版：「障がい者ケアプラン記載事例集」（著者：鈴木真、水谷久、南川久美子、森徹雄）及び中央法規出版：「新・社会福祉士養成講座テキスト第7巻・第8巻相談援助の理論と方法」を紹介しておきます。

成績評価方法

- ・毎回出席をとります。
- ・最終授業時に試験を行います。全授業回数の3分の2以上の出席がない場合、評価の対象外とします。
- ・成績は試験を中心にして、出席状況や学習態度などから総合的に判断します。

実務経験

- ・社会福祉法人に勤務。法人運営管理及び障がい者の人権擁護や地域福祉支援を担当。障がい者相談支援センター長等での対人援助の実務経験をもとに社会福祉士及び介護支援専門員として社会福祉援助技術について授業を行います。

その他

- ・授業の状況等により、内容を変更することもあります。

講義科目 : 社会福祉援助技術演習 I	単位数 : 4
マークシート略 : [援技演 I]	学習形態 : 自由選択科目
担当 : 北村 香織	社会福祉士必修科目
	実務経験 : 有
	* 第1学年で履修

講義の内容・方法および到達目標

社会福祉支援の方法、特にソーシャル・ケースワークの技術を体得することを目標とする。「社会福祉援助技術論」の講義で学んで知識や考え方を、実習や現場で活かす為の橋渡しになるような内容にしたいと考えている。

具体的には演習方式で行い、ロールプレイングや事例検討なども取り入れながら進めていく。また、援助技術の習得と同時に自分自身と向き合うことを通じて、自己覚知を促し、支援者としての自己を意識できることを目指す。

授業計画

- 第1回 社会福祉援助とは
- 第2回 支援者としての自分とは？—ライフヒストリーを通して（自己覚知）
- 第3回 他者への理解（自己覚知2）
- 第4回 福祉専門職としての価値観
- 第5回 コミュニケーションの方法1（非言語的コミュニケーション）
- 第6回 コミュニケーションの方法2（言語的コミュニケーション）
- 第7回 面接における基本的応答技法1
- 第8回 面接における基本的応答技法2
- 第9回 ソーシャル・ケースワークの事例検討1（エコマップ・ジェノグラムを使って）
- 第10回 ソーシャル・ケースワークの事例検討2
- 第11回 ソーシャル・ケースワークの過程1（インテーク面接）
- 第12回 ソーシャル・ケースワークの過程2（アセスメントの方法）
- 第13回 支援計画の作成1（プランニング）
- 第14回 支援計画の作成2（プランニング）
- 第15回 まとめ

教材・テキスト・参考文献等

テキストは使用しない。毎回演習用のプリントを配布する。

参考文献は適宜提示する。

成績評価方法

出席は毎回取る。

出席、演習への参加状況、毎回提出する「ふりかえり」の内容及び学期末に提出するレポートから総合的に評価する。

実務経験

障害者支援施設で勤務していたことがあります。実務経験を活かし、現場で本当に必要とされる援助技術を紹介し、体得できるようにお話ししたいと思います。

その他

援助技術とは、主体的に取り組んでいかなければ身に付けることができないものです。また、普段から意識的に自分の言動に心を配っていくことが必要です。実際に援助技術について練習する機会というのは多くありませんので、皆さんの主体的・積極的な参加を望みます。

講義科目 : 社会福祉援助技術演習Ⅱ	単位数 : 4
マークシート略 : [援技演Ⅱ]	学習形態 : 自由選択科目
担当 : 千坂 克馬	社会福祉士必修科目
	実務経験 : 有
	* 第2学年で履修

講義の内容・方法および到達目標

- 社会福祉援助技術について学んできたことを実際にやってみて、考察し、それをまとめ、発表し、意見交換を重ねることにより理解を深めてゆきます。
- 2人で、あるいはグループで援助技術に関する演習をおこない、その結果をまとめ、それを発表することによりそれぞれの援助技術の概要を理解し、その意味と目的の理解を目標とします。

授業計画

- それぞれの項目を1回から数回の授業でおこなう予定です。ただ、演習なので予定通りにいかないことも多いので、授業進行の速度はその都度調整させていただきます。

第 1回 オリエンテーション 自己紹介と実習を振り返る中で

第1部 自己開示とコミュニケーション

- 第 2回 自己開示と参加: ロールプレイとグループワーク
- 第 3回 情動面と表現の支援: セラピー・レクリエーション
- 第 4回 コミュニケーションの評価と支援: 伝えたいことの整理と伝達

第2部 アセスメントと支援仮説

- 第 5回 質問紙法
- 第 6回 観察法: 観察記録の取り方
- 第 7回 検査法Ⅰ: 検査の実施
- 第 8回 検査法Ⅱ: 検査結果の見方と評価に基づく認知特性の理解
- 第 9回 アセスメントレポートの作成: 利用者さんの理解のために

第3部 支援とその評価

- 第10回 機能分析: 生活場面の見直し
- 第11回 課題分析: ジョブコーチ
- 第12回 支援計画について
- 第13回 自立支援と家族への支援
- 第14回 ピアサポート
- 第15回 インシデントプロセス法

教材・テキスト・参考文献等

レジュメを準備します。

成績評価方法

- 毎回ワークシートを準備して提出していただきます。それが出席確認を兼ねます。
- 授業期間中2回のレポートの提出をお願いし、最終授業終了時に最後のレポートの提出をお願いします。
- 成績はワークシートの記述、学習態度、レポートの内容などから総合的に判断いたします。評価基準は最終レポート: 平常点 = 3 : 7

実務経験

社会福祉法人の児童福祉施設及びNPOにて勤務。保育士及び心理士としての実務経験をもとに社会福祉援助技術についての演習をおこないます。

講義科目 : 社会福祉援助技術演習Ⅲ	単位数 : 2
マークシート略 : [援技演Ⅲ]	学習形態 : 自由選択科目
担当 : 千坂 克馬	社会福祉士必修科目
	実務経験 : 有
	* 第2学年で履修

講義の内容・方法および到達目標

- 社会福祉援助技術について学んできたことについて実習体験を中心に確認し、理解を深めてゆきます。
- 実習体験を各テーマに基づき考察し、それぞれの考察を小グループで話し合い、そこで話し合われたことを発表、全体で考えてゆくことを繰り返すことにより援助技術についての理解を深めてゆくことを目標とします。実習体験で考察できないテーマについては事例を用意します。

授業計画

それぞれのテーマについて授業計画に基づき終了する予定ですが、演習形式なので随時調整しながら進めてゆきます。

- 第1回 実習内容の報告 インシデントプロセス法
- 第2回 コミュニケーションの視点からの実習内容の考察
- 第3回 コミュニケーションの視点からの実習内容についての話し合い
- 第4回 生活の視点からの実習内容の考察
- 第5回 生活の視点からの実習内容についての話し合い
- 第6回 就労の視点からの実習内容の考察
- 第7回 就労の視点からの実習内容についての話し合い
- 第8回 事例からの自立についての考察
- 第9回 事例からの自立についての話し合い
- 第10回 事例からの各領域についての考察
- 第11回 事例からの各領域についての話し合い
- 第12回 事例からの支援計画についての考察
- 第13回 事例からの支援計画についての話し合い
- 第14回 支援計画の立案
- 第15回 支援計画の発表

教材・テキスト・参考文献等

レジュメを準備します。

成績評価方法

- 毎回ワークシートを準備して提出していただきます。それが出席確認を兼ねます。
- 授業期間中2回のレポートの提出をお願いし、最終授業終了時に最後のレポートの提出をお願いします。
- 成績はワークシートの記述、学習態度、レポートの内容などから総合的に判断いたします。評価基準は最終レポート：平常点＝3：7

実務経験

社会福祉法人の児童福祉施設及びNPOにて勤務。保育士及び心理士として支援にかかわる実務経験をもとに社会福祉援助技術についての演習をおこないます。

講義科目	: 社会福祉援助技術現場実習 I	単位数	: 3
マークシート略	: [現場実 I]	学習形態	: 自由選択科目
担当	: 長友 薫輝・北村 香織・武田 誠一		社会福祉士必修科目
			* 第1学年で履修

講義の内容・方法および到達目標

本科目は、実習科目である。社会福祉施設や機関の役割を実際的に理解するとともに、社会福祉専門職の役割や業務の実際を学ぶ。

実習においては自己の課題を持って臨み、現場での職員や利用者との関わり等から問題意識を深め、援助技術の習得を目指す。

授業計画

- ・実習期間における実習。
- ・実習期間中には教員による巡回指導を行い、必要時には大学における個別指導を行う。

<現場での体験から学ぶこと>

- ① 社会福祉現場を知る (どのような形態や方法でサービスが提供されているのか。施設・機関の役割は何か。どのような業務があるのか。どのような問題・課題が存在するのか。など)
- ② 利用者を理解する (利用者に関わる。利用者はどのような生活を望んでいるのか。利用者はどのような背景をもっているのか。利用者の生活を知るためにはどのような情報や方法が必要なのか。など)
- ③ 援助技術の使用 (援助技術を学ぶ。どのような技術があるのかを知る。など)
- ④ 自己の理解 (自らに必要な能力や課題の発見。自分の価値観を客観的にみつめ、理解する。など)

教材・テキスト・参考文献等

使用せず。

成績評価方法

配属先実習施設での実習評価、実習ノート、巡回指導時の状況などをあわせて総合的に評価する。

その他

本科目では、社会福祉専門職の養成を目的として、学外の施設において実習を行う。そのため、履修する者には専門職となる意思を持っていること、責任を持った行動が求められる。

講義科目	: 社会福祉援助技術現場実習Ⅱ	単位数	: 3
マークシート略	: [現場実Ⅱ]	学習形態	: 自由選択科目
担当	: 長友 薫輝・北村 香織・武田 誠一		社会福祉士必修科目
			* 第2学年で履修

講義の内容・方法および到達目標

本科目は、実習科目である。社会福祉施設や期間の役割を実際的に理解するとともに、社会福祉専門職の役割や業務の実際を学ぶ。

また、社会福祉援助技術現場実習Ⅰで学んだ知見を基にしてテーマを設定し、実習に臨む。そして、現場での職員や利用者とのかかわり等から問題意識を深め、援助技術の習得をめざす。

授業計画

- ・実習期間における実習。
- ・実習期間中には教員による巡回指導を行い、必要時には大学における個別指導を行う。

<現場での体験から学ぶこと>

- ①社会福祉現場を知る
- ②利用者を理解する
- ③援助技術の使用
- ④自己の理解

※社会福祉援助技術現場実習Ⅰの復習時に確認した反省点をもとに、さらに考察を深める。

教材・テキスト・参考文献等

使用せず。

成績評価方法

配属先実習施設での実習評価、実習ノート、巡回指導時の状況などをあわせて総合的に評価する。

その他

本科目では、社会福祉専門職の養成を目的として、学外の施設において実習を行う。そのため、履修する者には専門職としての高い倫理性と積極的な行動が求められます。責任を持って履修すること。

講義科目	: 社会福祉援助技術現場実習指導 I	単位数	: 3
マークシート略	: [実指導 I]	学習形態	: 自由選択科目
担当	: 北村 香織		社会福祉士必修科目
		実務経験	: 有
			* 第1学年で履修

講義の内容・方法および到達目標

社会福祉施設での現場実習に臨むにあたり、施設の社会的位置づけ、役割、課題などについて学び、考察を深める。それらを通して自分自身が取り組むべき課題を明確にした実習計画を作成することをねらいとする。同時に対人援助職に必要な倫理的感覚、マナーの習得を目指す。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 実習の意義と目的及びマナーについて
- 第3回 実習施設の持つ歴史について (報告1)
- 第4回 実習施設の種類と概要について (報告2)
- 第5回 実習施設の現状と課題について (報告3)
- 第6回 実習に向けて
- 第7回 実習施設の種類と概要について (報告4)
- 第8回 実習施設の現状と課題について (報告5)
- 第9回 実習施設の現状と課題について (報告6)
- 第10回 実習計画書の作成 1
- 第11回 実習計画書の作成 2
- 第12回 実習計画書の作成 3
- 第13回 実習記録の作成指導1
- 第14回 実習記録の作成指導2
- 第15回 個別指導

教材・テキスト・参考文献等

『社会福祉小六法2019』ミネルヴァ書房。
山縣文治・柏女霊峰編 (2013) 『社会福祉用語辞典 第9版』ミネルヴァ書房。

成績評価方法

試験は実施しない。出席、演習への参加度や報告内容、提出物の内容によって総合的に評価する。

実務経験

障害者支援施設で働いていたことがあります。実務経験を活かし、施設で生きた実習を行うための具体的な話も取り入れたいと思います。

その他

この授業は実習に必要な知識やマナーを身につけるために、段階を追って確実に作業を行うことが求められます。さらに、授業中もその場で考え発言することが必要となりますので、出席を重視します。

実習は学外へ出て行うため、責任を持った行動が求められます。また、対人援助の現場での実習に向けて、深い知識と高い倫理性を持つことが必要となります。授業には積極的に取り組むこと。

講義科目 : 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ	単位数 : 3
マークシート略 : [実指導Ⅱ]	学習形態 : 自由選択科目
担当 : 長友 薫輝	社会福祉士必修科目
	* 第2学年で履修

講義の内容・方法および到達目標

社会福祉援助技術現場実習Ⅰで経験した成果と関連させながら、社会福祉援助技術現場実習Ⅱに即して、自身の知識と考えを深める。また、社会福祉施設の機能と課題に対する認識をより具体的に把握し、個人・実習記録の作成などを通して実習への指導を展開するなかで、福祉専門職としての感性、自己覚知、記録、利用者との援助関係の持ち方などについてスーパービジョンを受ける。

授業計画

1. 実習オリエンテーション（全体）
2. 実習プログラムや実習課題の達成についての検討
3. 実習報告書の作成
4. 実習体験の共有化（1）（グループでの討議や発表）
5. 実習体験の共有化（2）（グループでの討議や発表）
6. 実習先の業務や組織・法的根拠の理解と現場が抱える課題
7. 実習に向けての準備と指導 ー対人関係と社会人的マナー
8. 実習施設の種類と概要
9. 実習施設の現状と課題
10. 実習生個人票の作成
11. 実習計画書の作成（1）
12. 実習計画書の作成（2）
13. 実習計画書の作成（3）
14. 個別指導
15. 個別指導

教材・テキスト・参考文献等

追って指示する。

成績評価方法

出席状況、レポート、取り組み姿勢、実習報告の準備と結果等を総合的に判断し最終評価を行う。

その他

1年次での実習経験という成果と反省点を生かし、今期の実習につなげられるように積極的に取り組むこと。また、本実習は学外での学習活動であることを強く意識し、福祉専門職としての自覚と責任、人権意識と職業倫理に留意し参加することを求めます。

講義科目 : 社会福祉運営管理論	単位数 : 2
マークシート略 : [運営管理]	学習形態 : 自由選択科目
担当 : 三浦 敏朗	社会福祉士必修科目
	* 第2学年で履修

講義の内容・方法および到達目標

- ・社会福祉施設等の歴史や法令を把握し、元施設長の立場から現状と課題を整理しながら、利用者主体の運営管理や支援のあり方を考えます。
- ・運営管理論を通して、政治・経済・労働といった利用者支援以外の側面からも広い視野を持ってもらえる授業を心掛けます。

授業計画

以下の予定で進めていきますが、進み具合によって変更することがあります。

- 第 1 回 施設長・理事等の一年（多様な業務を把握する）
- 第 2 回 福祉サービス提供組織の沿革と概況
- 第 3 回 福祉サービス提供組織の役割
- 第 4 回 福祉サービス提供組織の体系と制度
- 第 5 回 福祉サービス提供組織と地域社会
- 第 6 回 福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論
- 第 7 回 福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論 2
- 第 8 回 福祉サービスの業務運営と経営
- 第 9 回 福祉サービス提供組織の財務・会計管理
- 第 10 回 福祉サービス提供組織の人事労務管理
- 第 11 回 福祉サービス提供組織の建物と設備
- 第 12 回 福祉サービス組織の管理運営の方法と実際
- 第 13 回 利用者のニーズとサービスマネジメント
- 第 14 回 福祉サービス組織の危機管理
- 第 15 回 これからの福祉サービス提供組織の経営と運営の戦略
総まとめ

教材・テキスト・参考文献等

- ・中野明 ドラッカーのマネジメント思考 朝日新聞出版
- ・岩崎夏海 もしドラ「もし高校野球の女子マネが…」ダイヤモンド社

成績評価方法

- ① 毎回出席を取ります。
- ② レポート提出 10点 3回 30点
小テスト 10点 2回 20点
授業への参加態度 20点
出席率 1回 2点 30点

その他

福祉は人と人の関わりで成り立つものです。この授業を通して、単なる社会福祉運営管理の知識を学ぶだけでなく、これからの社会生活に生かすことのできる、諸活動に対しての捉え方や人への関わり方を深めてもらえるよう、また、福祉と政治・経済との関係が理解してもらえるよう努めたいと考えています。

講義科目	: 権利擁護と成年後見制度論	単位数	: 2
マークシート略	: [権利擁護]	学習形態	: 自由選択科目
担当	: 水谷 久		社会福祉士必修科目
		実務経験	: 有
			* 第1学年で履修

講義の内容・方法及び到達目標

権利擁護の理念と実際の支援のあり方について、障がい者等の権利侵害に関する事件や実情を説明し、障害者虐待防止法や障害者差別解消法及び成年後見制度に焦点をあて、障がい者等の人権を守るために支援者としての役割や課題について社会福祉の視点から学習します。

また、ソーシャルワークにおける権利擁護と成年後見の制度と実践、日常生活上において支援が必要な方に対する権利擁護のシステムについて理解を深めることを目標とします。

授業計画

第1回	オリエンテーション	(障がい者の実態と生活課題について)
第2回	障がい者の人権侵害事件	(障がい者の人権擁護について)
第3回	障害者虐待防止法	(定義と概要につて)
第4回	障害者虐待防止法	(虐待事例)
第5回	障害者虐待防止法	(演習)
第6回	障害者差別解消法	(差別の禁止と合理的配慮について)
第7回	人権思想の浸透と社会福祉の沿革	(障がい者等の人権について)
第8回	地域で被害に遭う障がい者	(被害に遭わないために)
第9回	日常生活自立支援事業	(日常生活を営むのに支障がある方への支援)
第10回	成年後見制度とは	(判断能力が不十分な方の権利と財産を守る)
第11回	権利擁護と成年後見制度	(代理権等法定後見の仕組みについて)
第12回	親のための成年後見	(成年後見ハンドブックより)
第13回	親亡き後の生活を考える	(自分らしく生きるために)
第14回	成年後見制度の課題	(成年後見の現状と課題について)
第15回	成年後見制度のまとめ	(重要ポイントについて)

教材・テキスト・参考文献等

- ・講義については、それぞれの單元ごとに必要なプリントを作成し、授業を進めていく予定です。
- ・国家試験対策として、社会福祉士養成講座第19巻「権利擁護と成年後見制度」(中央法規出版)を紹介しておきます。

成績評価方法

- ・毎回出席をとります。
- ・最終授業時に試験を行います。全授業回数の3分の2以上の出席がない場合、評価の対象外とします。
- ・成績は試験を中心にして、出席状況や学習態度などから総合的に判断します。

実務経験

- ・社会福祉法人に勤務。法人運営管理及び障がい者の人権擁護や地域福祉支援を担当。障がい者相談支援センター長及び成年後見サポートセンター運営委員等の実務経験をもとに社会福祉士として、認知症高齢者や障がい者等の権利擁護と成年後見制度について授業を行います。

その他

- ・授業の状況等により、内容を変更することもあります。